大正六年九月十四日　第三種郵便物認可・昭和十七年三月五日印刷納本・昭和十七年三月十日發行（毎月一回一日發行）

建築と社會

3

日本建築協會

第25輯 第3號
昭和17年3月10日

三星印

三星印岩綿製品
防音・保温・耐火裝置
三星岩綿（バザール）ブロック構成の防音裝置は爆音に耐へる吸音率を有す
設計 施工
大阪市北区中之島五ノ三〇
大阪田島應用化工株式會社　三星産業株式會社
電話土佐堀（44）1323.5682.6221.7294



日英米特許及実用新案登録百數十件所有

大野式防火捲上ヶ戸

〔特許大野式シヤッター〕

主要製品

大野式シヤッター
大野式ルーブルシヤッター
大野式融金付自動閉鎖戸
大野式工場用軸承
大野式轉子入軸筐・戸車
各種防火扉・鋼製建具類
應用特殊機械類設計製作

株式会社 大野製作所

本社 東京市芝区三田四國町二番地
三田工場 電話三田(45)3737・3738・3787
板橋工場 東京市板橋区志村一五九二番地 電話赤羽2768・3272
大阪詰所 大阪市此花区上福島中二丁目六十番地 電話福島(45)588

建築物强度計算用

風壓規準

昭和15年5月20日發行

發行所 社團法人 日本建築協會

定價 35錢 送料 3錢

神戸高工講師 古塚正治氏譯

裝僞

CAMOUFLAGE

著者は第一次世界大戰後歐洲各地に留學し航空機による爆撃の慘禍を建築技術家的視角を以て具さに見聞、歸朝後吾國將來の防空施設の必要と防空建築の促進を提唱しつゝあつた秋恰も今次大戰の勃發によつて防衛上の現實に直面、今やその施設の忽緒に附すべからざるを認め茲に C.W.Glover 著 Civil Cetence ∘市民防衛∘の一部を抄譯して國民の防空に對する知識の普及に資することゝなつた、内容は僞裝の一般原理・爆撃の方向、色・ペイント・迷彩・燈下管制等に就て剩す處なく參考寫眞及圖解表百點を挿入して頗る懇切、戰時下國民必讀の文書として推薦す

A列六號本文九〇頁 定價一部㊐一圓二十錢
書店實切の節は直接本社宛振替にて注文を乞

日本 滿洲 支那

土木建築名鑑

最新刊

最新の資料に基き良心的編輯に依り業界人の所在を判然せしむ登載人員實に五萬

定價㊐五圓也

御注文は振替口座利用直接本社へ

請負者編 全國各府縣、樺太、北海道、臺灣、朝鮮、關東州、滿洲國、中華民國に營業してゐる土木建築請負業者の住所、電話、代表者及役員、支店、出張所々在地を詳記する他會社組織にありては資本金、重役名をも加へ一目してその組織内容を明瞭ならしむ。

技術者編 前記地域に在つて官公署、會社土木建築部、建築事務所、請負業者に在勤する土木建築設計技術者を網羅し何れも勤務先住所、電話等を詳記せるもの

資料業編 全國各地の資料業者の署名なるものに就てその扱商品別に、住所電話を記し材料業者の紹介及取引上の便とせり

體裁 規格版型B列6號表紙は總クロース金箔文字入り、本文八百餘頁の豪華版

建築工學圖書發行
土木建築文獻資料調査

大阪市西區靱北通一丁目二六番地
大阪市西區靱北通一丁目二六番地

發賣元 建築科學社
日刊 土木建築新聞社

電話土佐堀四〇三二番・振替大阪四一二六七番

建築と社會

第25輯　第3號　　昭和17年3月發行

三月號

目　　次

逆瀬川實爆演習報告書……演習本部調査班…（1）
投下爆彈彈痕調査報告書……調査神戸市役所…（6）
「南方事情を語る」座談會……（12）
勞務調整令について……松田德太郎…（29）
勞務調整令の解說……松田正太…（31）
勞務調整令についての質疑應答……係官　松田正太、王置直忠、赤松直俊、橋本卯三郎…（37）
新興木構造の理論と實際……宇賀神行一…（42）
☆建築行政☆
大規模木造建物防火改修……小原敏一…（49）
煙突設計に就て……横見幹…（50）
資材難と建築物法……岡田達彌…（50）
☆紫烟室☆
さかさま……山口正…（54）
革新期の若き建築家へ……小泉嘉四郎…（56）
☆寫眞欄☆
南洋事情寫眞……近藤泰夫……逆瀬川實爆演習實況寫眞……
會報……（58）
編輯後記……（61）

會　　告

◎創立廿五年記念事業計畫に就いて

昨年來、豫告の記念事業は愈々來る三十日の記念日を期して、其の實行に入らんとし、近く豫算等總會開催の運びに相成候が、目下の計畫事業や概要下記の通りに候。素より時局の進展に伴ひ、內容改廢せられる場合あるべきも、將に記念日を迎へんとするに當り、計畫の大要を揭げて大方の熱心なる翼力御協賛を乞はんとするものに候。

事業區分並に主なる管掌事項

第　一　部　會……厚生住宅展覽會、防空展覽會、25年記念展
第　二　部　會……建築と社會記念特輯號、爆彈記錄刊行、記念史出版
第　三　部　會……防空講演及講習會、技術員養成
第　四　部　會……記念行事事項
第　五　部　會……防空研究及指導事項
第　六　部　會……時局對策研究事項

昭和十七年三月一日

社團法人　日　本　建　築　協　會

會　員　各　位　に　告　ぐ

來る三月三十日は本會創立廿五年に相當し、上記の通り各種記念事業の實行期に入り、着々諸般の準備を進められつゝあるが、不取創立記念日行事の一として、下記の通り本會功勞者に對する表彰式並に自祝會開催仕候。大東亞戰の眞只中にて時局益々多端の折柄、自肅による事勿論なるも、待望の新嘉坡陷落し、引續き南方制壓日を逐ふて効を收めつゝあり、國を擧げて祝福の際、本會も其の祝意を表すると共に許されたる範圍にて之の記念日を迎へんとするものに候。廿五年に一度遭遇する此の好機會を得たる事は、誠に御同慶の至りと存じ居候何卒奮つて御參會あらん事を熱望仕候。

追而　準備の都合有之至急御申込み置き下され度

表　彰　並　に　自　祝　會　次　第

1. **時**　　三月三十日（月曜）創立記念日
　　午後五時より　表彰式擧行
　　午後六時より　自祝會開催
1. **會　　場**　中央公會堂（中之島）三階大食堂
1. **會　　費**　金3圓50錢
　　振替39.975番　其の他の方法にて前納の事
1. **申込及締切**　ハガキにて會費拂込方法記入の上申込の事
　　三月廿日締切

○申込後當日不參の場合にても會費の御負擔願上候

會　　告

創立廿五年記念事業寄附申込御芳名

本會記念事業計畫發表するや各方面より多大の御聲援と御賛同を辱ふしつゝあるが本稿締切迄に御援助を得て寄附金御申込を受けたる諸賢下記の通りなり茲に尊名を列擧し御芳志に對し深甚の謝意を表す

追而　別項會告の通り本年は愈々記念事業として都市武裝促進に邁進するため着々進行中に御座候尚寄附金募集期限も三月末日迄の認可につき本會趣旨御賛同賜る諸賢にして御申込洩れの向も之有候は此際至急御援助方御申込み賜はらん事を熱望仕候

一月中ノ御申込芳名

10.00	田邊正雄殿	150.00	吉崎工務店殿
5.00	恒岡俊行殿	5.00	明石常三郎殿
300.00	株式會社朝日工業所殿	35.00	青盛繁男殿
200.00	伊奈製陶株式會社大阪出張所殿	20.00	伊藤元殿
30.00	岡部次三郎殿	2.00	今井二郎殿
200.00	齋藤久孝事務所殿	5.00	岩井金三郎殿
500.00	政正合資會社殿	5.00	石井一殿
300.00	淡陶商事株式會社殿	3.00	池原眞三郎殿
300.00	東亞鐵工所殿	3.00	上野三男殿
100.00	有限會社陶和商會殿	50.00	岡村德一郎殿
100.00	東洋木材防腐株式會社殿	5.00	大黒義男殿
100.00	東洋洋瓦商事株式會社殿	5.00	岡本義男殿
100.00	日本陶纖株式會社殿	100.00	王丸源次郎殿
100.00	藤田重太郎殿	10.00	川人繁一殿
100.00	堀富化學工業株式會社殿	2.00	金築源市殿
100.00	やよひスレート株式會社殿	5.00	龜井幸次郎殿
180.80	山本窯業商店殿	10.00	木野榮吉殿

3.00	國川正	殿	
30.00	桑本眞太郎	殿	
50.00	小西一良	殿	
50.00	小崎修	殿	
2.00	櫻井實	殿	
20.00	鹽路惣吉	殿	
100.00	清水一雄	殿	
4.00	關谷信次郎	殿	
2.00	高木久夫	殿	
5.00	高垣優造	殿	
2.00	飯塚源吉	殿	
30.00	池田泰山	殿	
100.00	石田信夫	殿	
30.00	伊藤和夫	殿	
5.00	中野順次郎	殿	
2.00	新野京次郎	殿	
30.00	錦田直一	殿	
10.00	星廣文	殿	
3.00	正岡隆市	殿	
2.00	益子忠勝	殿	
50.00	松本儀八	殿	
5.00	宮飼克二	殿	
10.00	南信	殿	
3.00	椋原正則	殿	
10.00	森山松之助	殿	
2.00	山口次一郎	殿	
10.00	八尾實	殿	
15.00	山中茂一	殿	
10.00	山本磯十郎	殿	
10.00	山本資一	殿	
50.00	吉崎源三郎	殿	
10.00	吉原治三郎	殿	
10.00	吉田清春	殿	

以上　本月計　¥ 3,735.00

累　計　¥164,429.00

（振替貯金にて御拂込賜りし分は本會告を以て領收書に代へ
別に領收書發行いたさず候條不惡御諒承被下度候）

昭和十七年三月一日

社團法人　日本建築協會

會　　告

三　月　見　學　會

時局のため工場其他一般建築物の見學が至難の事となりましたので今般奈良縣廳內觀光課大和史蹟顯揚會と連絡し同會主催の見學會に參加する事と致し、其第一回の試みとして下記の通り見學會開催いたします。要領御熟覽の上御申込み下さい。

1.時　　三月二十二日（日）晴雨不論擧行

1.見學先　(イ)大和三山附近　藤宮跡其他數ヶ所史蹟
　　東道說明講師、田村吉永氏、末永雅雄氏
　　(ロ)室　生　寺
　　東道說明講師、猪熊兼繁氏、小島貞三氏
　　(ハ)櫻井中心赤阪古墳石井寺忍阪等ノ史蹟
　　講　師　未　定

1.會　費　不要（但交通費自辨）

1.食　事　各自携帶の事

1.申　込　ハガキにて本會宛希望地記入の上申込の事

1.〆　切　三月十五日〆切(但各部共十名を限られ居り先着順に〆切ます)

1.集合所及時間其他注意事項申込者に對し後日詳報いたします

1.本見學者は普通賛助員を除く他の會員に限られてゐます

○追而顯揚會主催の見學會は史蹟及考古學研究と併せ郊外散策の三要素を有してゐます。加ふるに得難き講師を配され居り毎回 200名以上の申込みありいつも滿員で本會員にても謝絶されてゐる盛會の中に加はるのでありますから、參加希望の向は右お含みの上至急御申込下さい、尙當日は不參なさらぬ樣希望いたします。

三　月　一　日

日本建築協會會勢幹事長

山　脇　友　三　郎

豫　　告

防火改修展覽會開催懸賞募集之件

本會創立廿五周年記念事業の一として現下の緊急事業たる防火改修事業の促進を計り、改修の完備を期して展覽會を開催致す事となり其の詳細に就いては近日發表の豫定であるが、内容の一部を豫告し廣く應募を願ふ次第である。

1, **應募要件** …… ……（詳細規定は追て發表）

2, **考案圖及實物見本說明** ……（詳細規定は追て發表）

3, **入賞者の人數及賞金**

入賞　五名　賞狀及賞金五拾圓宛

佳作　五名　賞狀及賞金貳拾圓宛

4, **締切期日**

昭和十七年四月十五日（日）午後三時迄

5, **發表**

審査の結果は本人に通知をなすと共に「建築と社會」5月號に發表す。

三月一日

社團法人　日本建築協會

會費其の他御拂込に就て

昨年集金の取扱ひが出來ぬ樣になつて以來、會費其の他集金郵便で御請求申上げる事が不可能となりました。就きましては誠に御面倒ですが、振替大阪三九九七五番御利用の上、適宜御拂込下さいます樣お願ひ致します。

尙振替貯金にて御拂込賜りし分は領收書を發行し居らず特に必要の方は其の旨係へ御申付下されば御送付致しますから惡からず御諒承下さる樣御願申上ます。

昭和十七年三月一日

社團法人　日本建築協會主計



1. テニアン島
タガ族遺跡

6基宛2例に並立せしと傳ふるも、現在2基のみ停立す。古來家屋說、基地說、齋庭說等の諸說があり。柱列軸の方向はN7°20′Wに向ふ。

（寫眞　南洋郡島寫眞帖より）

南洋方面の建築

• 京大工學部教授　近藤泰夫



2. ヤツプ島の石貨

家寶として珍藏せらる、パラオ諸島に產する大理石にしてヤツプ島に於てのみ貨幣價値を有す。英人キヤプテン、オキーフはパラオより帆船にて運び來り、巨利を博せりと言ふ。

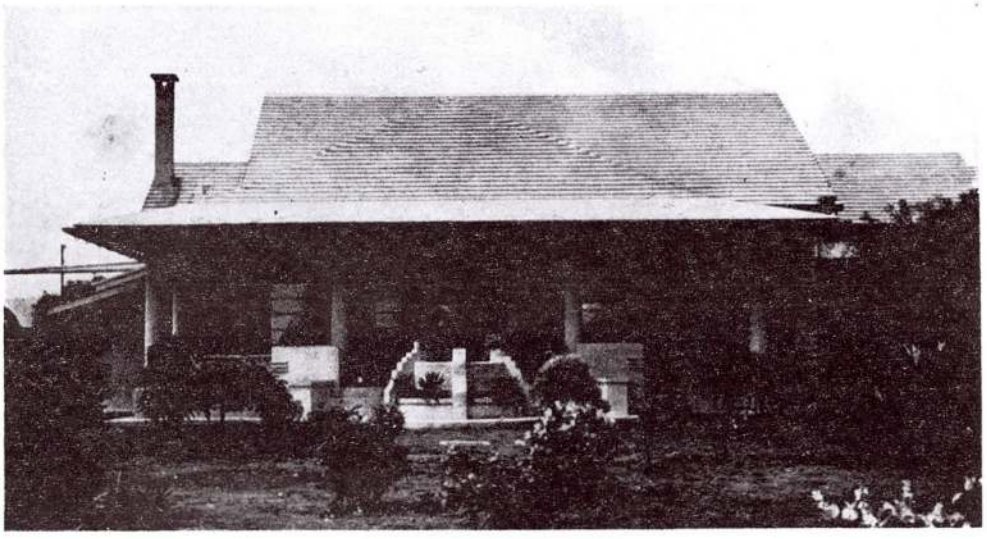
（寫眞より　南洋郡島寫眞帖）



3. 渡月橋（ヤツプ島）

月ケ瀬公園内タガレン水濱に架す。鐵骨コンクリートゲルバー橋、昭和13年架設

（寫眞　南洋郡島寫眞帖より）





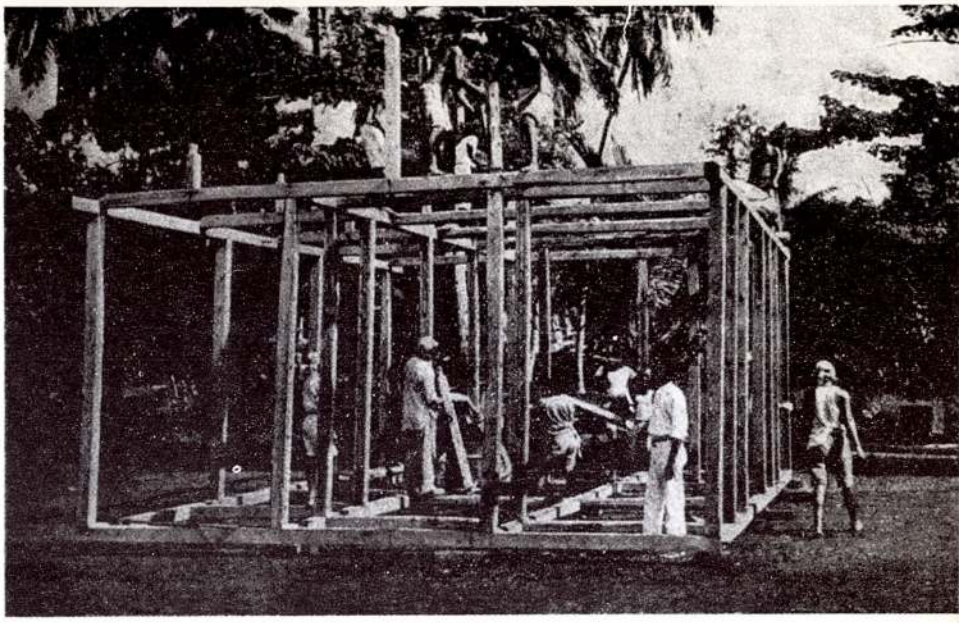
4. 南洋廳長官官舍

平屋建、廣きベランダを設く、雨水を受けて貯水槽に集め、雜用水とす。

5. ヤツプ郵便局

鐵骨造、壁及床を鐵網コンクリートとす。舊獨逸時代の建築にして領有後補强せるものなり。

（4.5 圖共南洋郡島寫眞帖より）



6. 木工徒弟養成所建築實習

（コロール島）

島民に對して建築技術を教授し、職業指導をなす在所年限本科2年、研究科1年

（寫眞より　南洋郡島寫眞帖）

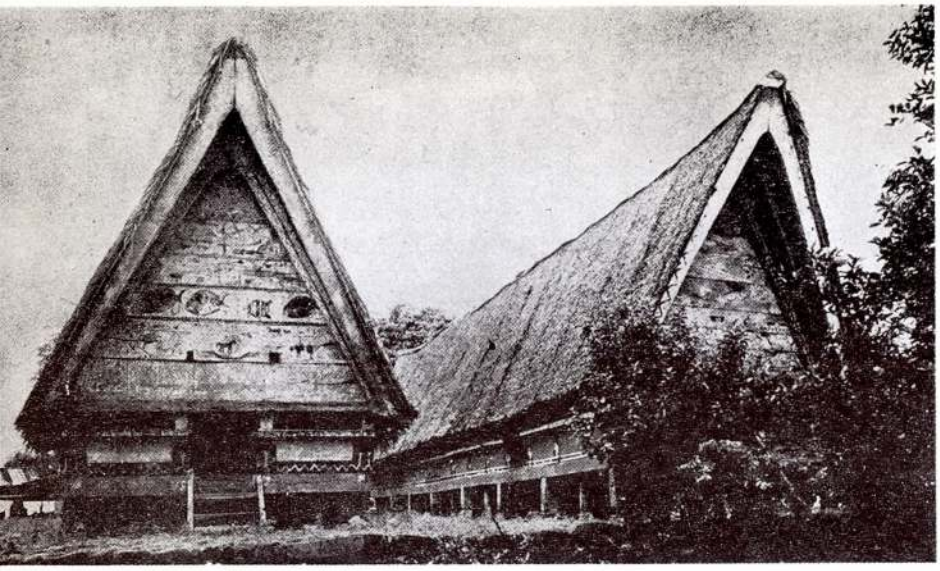
・南洋方面の建築・京大工學部敎授　近藤泰夫



7. ヤツプ島民集會所

島語で言へば、ペバイであるヤツプ建築のあらゆる特色を備へ、男子の共同宿泊所であると同時に部落の公會であるヤツプ島ウルル村バーラバツト所在の代表的なペバイで構造は間口8間、奥行30間、高さ7間半、柱は全部王名材釘を用ひず、一切椰子綱で組立てある。

（寫眞より　南洋郡島寫眞帖）



8. パラオのアバイ

ヤップのペバイと同じ目的の島民集會所である。樣式に於て前者とかなり相違がある。前のものには床がなく、又角材を用ひてない。此れには屋内に柱を設けぬが、前者は三列の柱を用ひる。裝飾に前者は彫刻採色を用ひぬ代りに繩の結節を以て美しく飾るなど特徴的なところである。

・南　洋　方　面　の　建　築・

京大工學部教授　近　藤　泰　夫



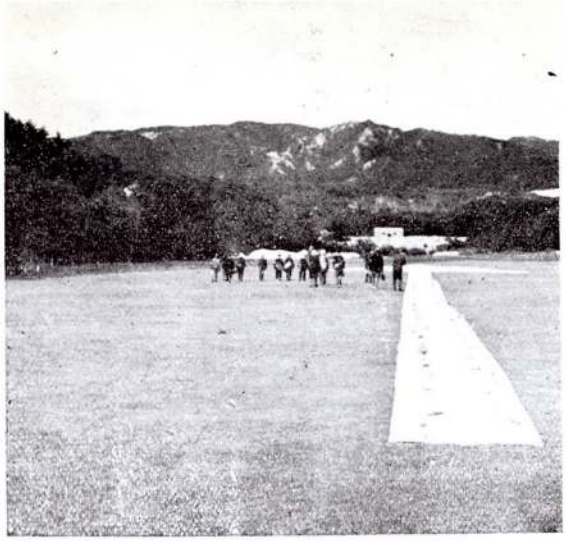
9. アバイの彫刻

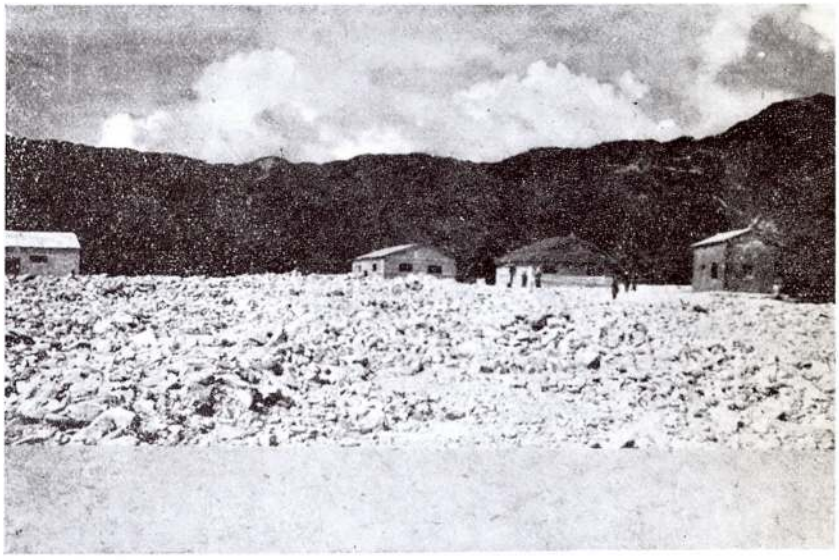
パラオ諸島到るところにアバイを見るが、コロール島にあるのが、代表的なものである素朴ではあるが極めて精緻な彩色彫刻が適當な所に施され其の異樣な藝術的表現は島民の詩と傳說とを傳へて居る。

(8.9 圖共南洋郡島寫眞帖より)

逆瀬川實爆演習實況寫眞

・演習本部調査班





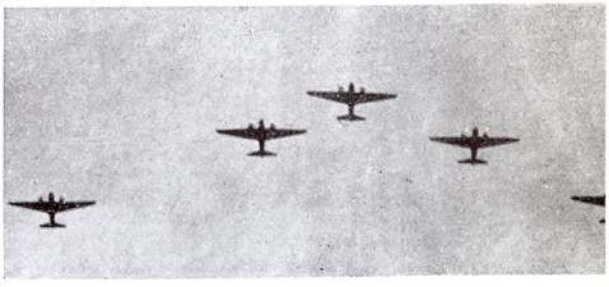
1.布　　板

現場より 500米離れたゴルフ場に設けたる布板

2.被實驗家屋

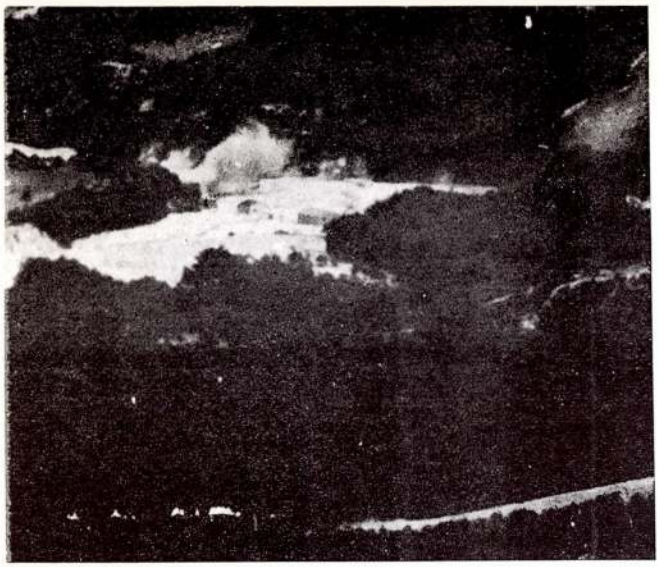
現場實驗家屋を川をへだてゝ觀る





3.輕爆撃機の編隊急降下

4.重爆撃機の編隊

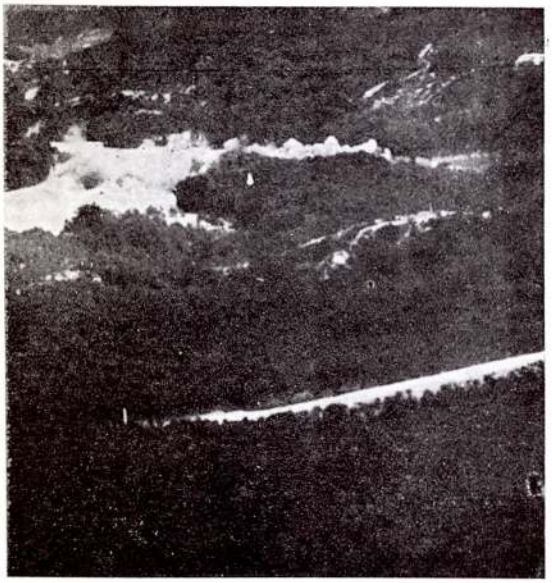


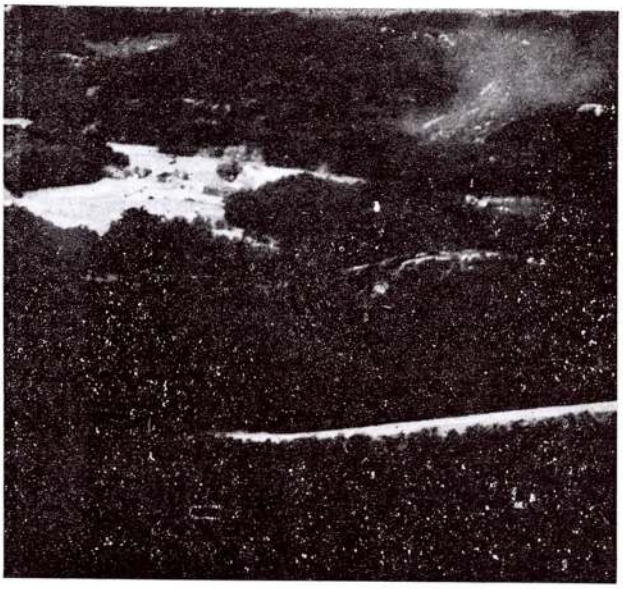
逆瀬川實爆

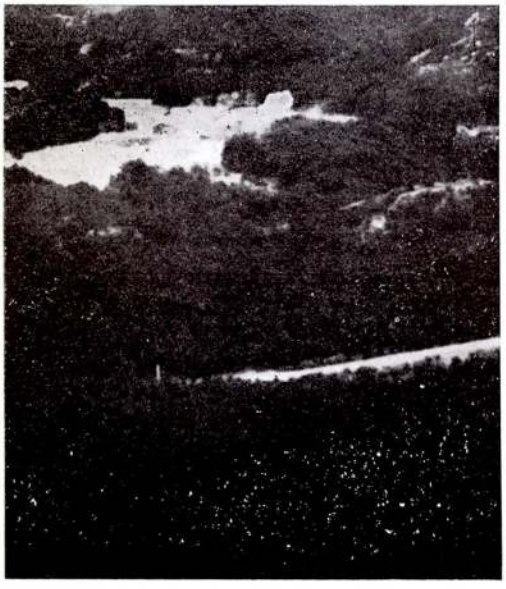
演習實況寫

眞・演習

本部調査班







上より下へ

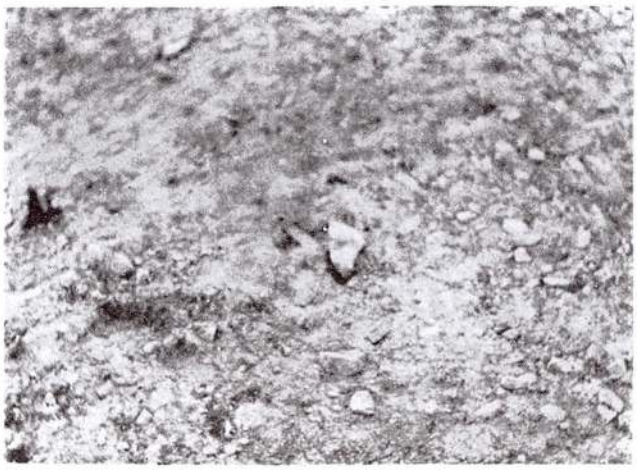
5. 第6回爆撃狀況
6. 第9回爆撃狀況
7. 第10回爆撃狀況
8. 第11回爆撃狀況



9. 13.0米近くに落下した50瓩彈による蛇籠針金の切斷



10. 15瓩不發彈

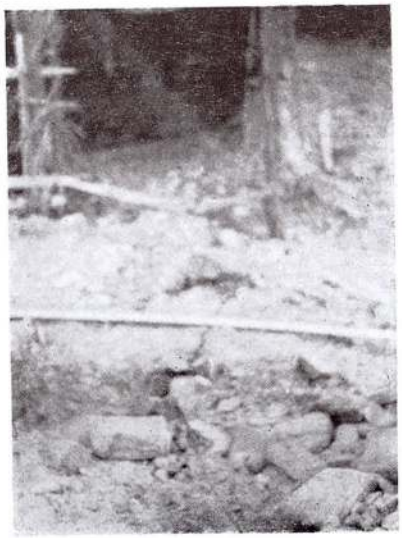


11. 4號バラック西方17米の地點に落下せる50瓩彈孔及破片



12. 15瓩彈の彈孔及破片

14. 3號バラックの北隅2.5米に落下せる15瓩彈孔





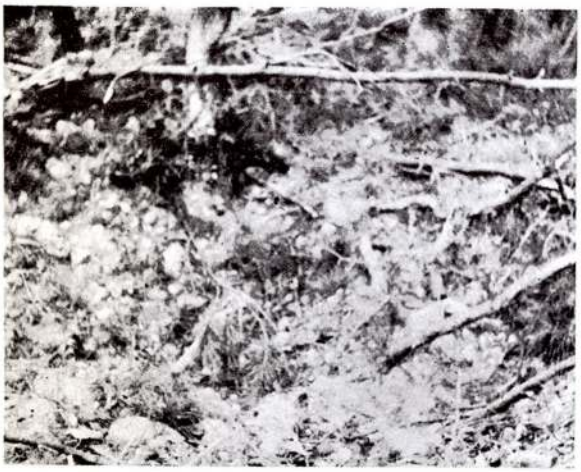
13. 15瓩彈の彈孔



15. 中心目標西方1.4米に落下せる15瓩彈孔



16. 100瓩彈に依る大木の被害



17. 同上100瓩彈による彈孔



18. 礁に落下せる100瓩彈の爆風による被害



19. 50瓩彈より10.5米離れたる松枝
(徑13糎)の破片による切斷



20. 15瓩彈より3.5米離れたる松
(12糎)の彈片による被害

演習本部調査班
逆瀬川實爆演習實況寫眞

逆瀬川實爆演習報告書

演習本部調査班

序　論

第1節　演習實施までの經過

昭和15年10月の防空演習に際し、大阪市内某町會に於ては防空演習の眞劍なる訓練に資する爲め該町會區域内に實燒夷彈の投下方を中部軍司令部に願ひ出でた。勿論之に依る被害乃至或程度の傷害も覺悟の上で一切の辨償は町會に於て責任を持つと云ふので、町會全部の連書まで添へたものであつた。中部軍司令部に於ては、其の眞劍さには感じ乍らも、實際問題としては幾多の困難危險を伴ふので、許可にはならなかつたが、併し何等かの機會に之等市民の眞劍な希望に應へる事を期待されたものである。其の後軍關係者に於ては適當なる機會適當なる場所に就て常々考慮されつゝあつたのであるが、適々昭和16年9月20日の航空紀念日を卜し、阪神間逆瀬川の地を擇んで空地上下の實相を現示した劃期的の大實爆演習實施の運びに至つたものである。

昭和16年9月2日大阪師團參謀部に於て第1回の會合を催し、演習の大綱に關し、協議が進められた。9月5日には大阪市役所參事會室に於て、第2回會合をなし、實爆演習實施要項が決定され9月9日には現地踏査が行はれた。演習實施が全國一齊の航空紀念日たる9月20日と決定されたため、餘す所僅かに2週間に過ぎず、各關係者は直ちに夫々業務を分擔し、演習實施要項に從つて各般の準備が進められ、9月16日には阪急ビル會議室に於て最後の打合會を催し、之には○○、○○各飛行隊、大阪放送局よりも參加され、此處に各般の準備を完了する事が出來た。

第2節　演習實施要項

1. 目　的

航空紀念日に際し、多數爆撃機の參加を得て、爆彈投下の演習を實施し、一般人に對し爆撃の實相を正識せしめ、併せて爆撃破壞による諸種の實驗を行はんとす。

1. 主催

大阪府　兵庫縣　大阪市　神戸市

後援

中部軍司令部　大阪師團　姫路師團　陸軍航空本部

協賛

大日本防空協會大阪府支部　同兵庫縣支部　日本建築協會　寶塚カンツリー倶樂部

1. 參加飛行機並に投下彈種（豫定）

重爆撃機（○○飛行隊）
輕爆撃機（○○飛行隊）　} 約20機

投下彈種　100瓩爆彈　5
　　50瓩爆彈　10
　　15瓩爆彈　40

1. 實驗供試物件

木造家屋5戸　煉瓦造家屋1戸　簡易防空濠2基　防彈壁4基　起爆層1基　其他室内防護施設及び耐爆風硝石實驗箱並動物實驗

1. 高射砲陣地

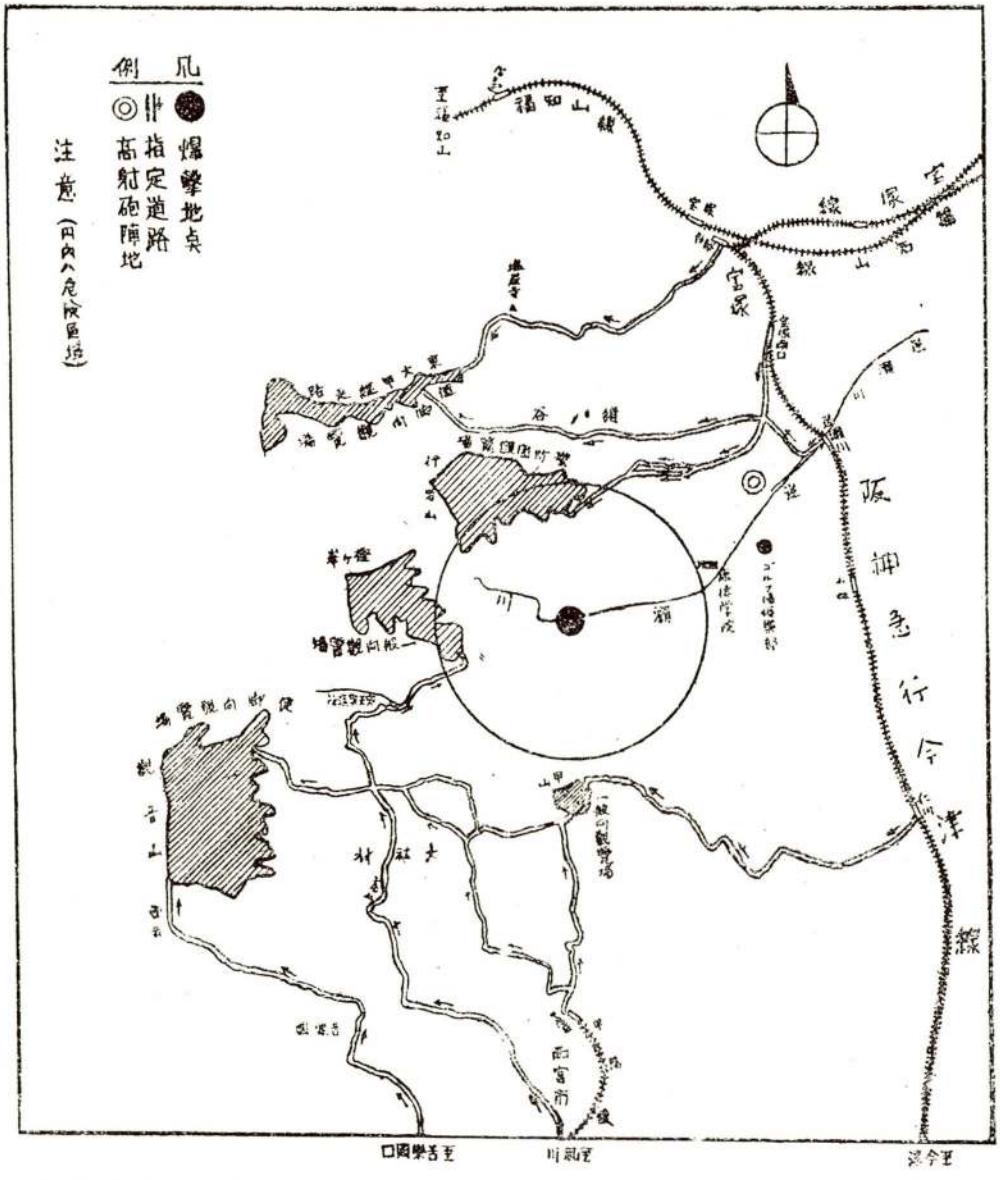
阪急線逆瀬川停留場西に高射砲陣を設け、空襲敵機射撃要領を一般觀覽に供し、聽測を併せ實施

1. 觀覽者及觀覽場

觀覽者

招待者　（樫ケ峯）

大阪府　兵庫縣　大阪市　神戸市　中部軍　大阪師團　阪神海軍部　姫路師團　大阪府防空協會　兵庫縣防空協會　日本建築協會　寶塚カンツリー倶樂部　阪急電鐵　航空本部　内務省　京都市



第 1 圖

奈良縣　和歌山縣　鳥取縣　岡山縣
計　約　300人

警防團員　（行者山約20.000人）

一般觀覽者　（東六甲縱走路 5.000人
觀音山20.000人　甲山 5.000人及樫ケ峯20.000人）

1.　實況放送

○○よりの重爆撃機に大阪放送局より出張機上放送を行ひ、更に行者山上に大擴聲器を設け、ゴルフ倶樂部南側臺上よりの現地放送を併用

1.　日時

9月20日
自午後2時30分　至午後3時30分

第3節　技術室實驗要項

今次實爆演習は先に滋賀縣○○及び千葉縣に於て、軍が實施せる爆撃試験を除いて、一般に公開せる試みとしては最初のものであり、又今後と

もかくの如き機會は又と得られざる可く、民間建築關係者にとりては常に千載一遇の機會と云ふ可きものであらう。即ち大阪府、兵庫縣及び大阪、神戸兩市建築關係者は、日本建築協會と連絡をとり、此の千載一遇の實爆演習を機會に出來る限りの學術的實驗を行ふ事となつた。即ち技術調査班を組織し、軍方面の御指導を受け、又一方建築業者材料關係者方面の絶大な援助と相待つて非常に短期の準備期間にも拘らず、諸種の設營準備を完了し、所期の實驗目的を達し得られた事は、關係者一同最も欣懐とする所である。

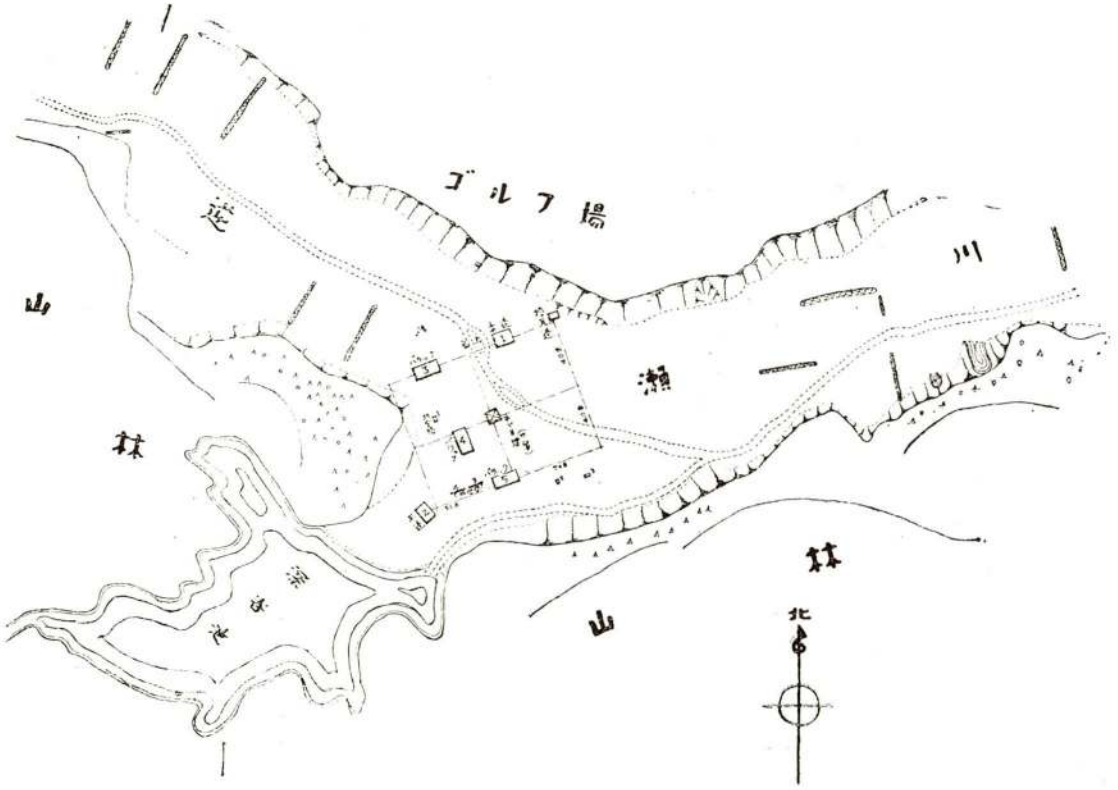
先にも述べたる如く、完備せる鐵筋混凝土造建築に對する直撃彈による被害に關しては、軍に於て施行せる實驗に於て、既に嚴密なる各種測定諸元の完備せるもの有りと雖も、一般民間建築、特に民間建築の大分を占むる木造家屋乃至煉瓦造家屋に對しては、從來何等の準據すべき實驗も無く之等建物の被害程度に關しては、或者は過大に想像して恐怖、或者は過少に評價して、何等の對策も講じない有樣である。即ち今次實驗の目的とする所は、一般民間の建築に對する

1. 爆彈破片による被害程度
2. 爆風壓による被害程度

を目標とし、出來る丈け簡易なる建物、簡易なる防空設備を對象としたものである。

初め軍方面より目標として木造家屋5戸建設の話が有つたのであるが、實驗の目的から見て、又短時日の準備期間とを考慮して實驗用本家屋は2戸とし、他の3戸は掘立葦簀張りの單なる目標物とする事にした。尙之等木造家屋內部には一般民家に於て簡易に應急に施工し得る各種の待避設備を設計、之等の實際的効力の有無を實驗する事とした。尙之等本建築2戸の配置に就ては1戸は中央目標に近く、1戸は中央目標より最も遠く配置し集注爆彈の距離の遠近による影響を明らかにするやうに考慮した。

簡易防空壕は家庭に於て造り得る程度の最も簡單なるもの2基の豫定であつたが、愛國式防空壕



第2圖　演習場平面圖

より特に既成組立式のものを實驗に提供方申入れ有り、結局3基となし、初めの2基は木造家屋の場合、同樣距離を異にした場所に設けた。

此の外に煉瓦造建物1戸、及び防彈壁4種を設け、又外に中心目標下に竹資子製の起爆層1基を設備した。尙又人畜に對する爆彈破片或ひは爆壓の影響を見る爲めに、各種の動物を適宜に配し、之等は現場での傷害程度を檢する外に更に解剖によつて其の內臟變化をも研究する事とした。尙又一般家庭に於ける硝子の損傷による人畜被害の程度を檢する爲めに、中心目標より種々の距離に各種硝子を裝備せる實驗箱を配置した。

今之等各種實驗施設を綜合するに、次表の如くである。

實驗木造家屋	2戸	組立式防空壕	1基
目標木造家屋	3戸	防彈壁	4種
煉瓦造家屋	1戸	起爆層	1基
簡易防空壕	2基	硝子實驗箱	49個

第4節　演習業務擔任區分

本實爆演習は準備期間非常に切迫せる關係上、演習に關する各種業務は、夫々擔任區分を定めて各廳各團體が一齊に準備に着手したものであるが其の擔任區分を示せば、下記の如くである。

1. 飛行機及高射砲
   中部軍司令部　大阪師團　航空本部
2. 演習物警戒
   大阪師團　兵庫縣
3. 特別觀覽者案內及一般觀覽者周知
   大阪府　兵庫縣　大阪市　神戸市
4. 演習場設營
   阪急電鐵會社　日本建築協會
5. 新聞發表
   大阪市
6. 技術實驗指導及調査
   大阪府　兵庫縣　大阪市　神戸市
   日本建築協會
   彈痕調査　神戸市
   木造家屋被害調査　大阪府・兵庫縣
   煉瓦造家屋被害調査　日本建築協會
   硝子實驗調査　日本建築協會
   防空壕被害調査　大阪市
   防彈壁被害調査　大阪市
   起爆構造調査　大阪市
   調査員　計　150人

尙本實驗の性質上記錄寫眞の分散漏を防止する爲め一般の寫眞撮影を禁じ、特に寫眞班員は16名に限定し、寫眞は凡て軍の檢閲を受ける事とした

7. 動物實驗　大阪市

尙本實爆演習要項決定より演習當日までは僅かに14日間に過ぎず、此の短時日に而かも設營着手當日より降雨となり、演習2日前まで連日連夜降り續くるの惡條件の下に於て設營工事の指揮監督に當りたる各員及び工事從業者の勞苦は特筆に値するものにして、特に此處に記して深謝する所である。

第4節　演習の經過

本實爆演習當日たる昭和16年9月20日は、數日來の雨も霽れ、絶好の演習日となり、早朝より一般觀覽者は既に早く一般觀覽指定地に喞集し、各指定地共全山人を以て蔽はるゝの盛觀を極めた。當日の人出は概略20萬人と推定されて居る。一般觀覽者は本演習が危險を供ふ關係より午後1時迄に觀覽場に到着するやう豫ねて示達して有り、零時以後に於ては演習地の一切の交通を禁止した。危險區域には赤旗が設置され、又觀覽場には標識として日章旗が揭揚された。

當日演習開始は午後3時10分過ぎ、終りは同3時55分であつたが、此の間天候は曇時々晴、南々西の風5.0米であつた。

爆彈投下の實況は下記の如くである。

機種並機數			投下彈種並彈數			高度
輕爆機	6機	單機急降下	15瓩	27發	計	700米
	3機	編隊急降下	瞬發爆彈	13發	40發	
	3機					
重爆機	5機	編隊水平	50瓩	6發	計	1000米
	5機		100瓩	3發	10發	
			100瓩	1發		

此の內100瓩彈は5發投下の豫定の所1發は投下せず基地に携行せり

技術調査員は始めの豫定にては目標地と甲山との中間直線距離約700米に在る岩山背後に觀測陣を置き、各種爆彈投下及び家屋被害狀況を觀測記

錄する豫定の所、萬一の危險を考慮して、急に樫ケ峯に位置變更となつた。此の爲め實驗家屋の一部は、一部山陵の影になり、充分なる觀測をする事が出來なくなつた憾みがある。此の爲めに調査に於て稍不明確な點を殘した事は調査員全員の痛恨事である。

演習終了と同時に調査員は特設バスによつて第一に現場に參着、警防團の現場保存繩張りを待ち調査に着手、日沒迄僅々2時間足らずの短時間を以て各種調査を完了したのである。尙彈痕調査に於ては2.3發現場を稍離れた山中に落下せるもの有り、之が調査は當日日沒の爲め、翌日引續き繼續調査をなした。

第5節　演習後の經過

以上を以て航空紀念日に於ける演習は、一通り終了したのであるが、當日用ひられた爆彈が瞬發信管であり、且つ人馬殺傷用のものである爲めに所謂破甲爆彈と異なり、穿入度も淺く破壞力も弱かつた。從つて各種實驗施設に對しても破片の影響は充分認められながらも、表面上の總體的な破壞は比較的少なかつたのである。特に煉瓦造家屋の如き或ひは硝子破壞實驗箱の如きは大した被害も受けず、原形をそのまゝ殘存して居る有樣であつた。實驗委員に於ては之を此のまゝ取片附けるのも惜しく、更に軍方面にお願ひして9月29日に改めて煉瓦造家屋の爆破試驗をして頂き、同時に硝子破壞實驗箱の面試驗をなし、充分なる研究材料を與へられた事は何よりの收穫であつた。

尙本實爆演習に關せる費用は、下記の如くである。

實爆演習經費明細書

木造建物（內部施設共）	5戸	14.465.00
煉瓦造建物	1戸	4.000.00
防空濠	2基	600.00
防空壁	4種	860.00
起爆構造	1基	2.845.10
演習場現場整理		440.00
警防團手當謝禮		1.500.00
關係者打合及宿泊		619.56
自動車		333.30
案內狀其他印刷		149.50
招待者辨當		297.50
演習役員用腕章		87.95
擴聲器損料		171.19
演習後ゴルフ場復舊		255.00
計		2.664,10

之等は大阪府、兵庫縣、大阪市、神戸市、日本建築協會及び阪急電鐵會社等に於て、夫々分擔せられたものである。

軍方面が多大の犧牲を拂つて本演習を一般民間に提供された御厚意は數々の御指導と共に厚く感謝する所であるが、同時に各廳、各團體の御協力によつて、演習自體は勿論各種實驗が無事に且つ最も功果的に完了した事は、協力せられた各位の賜物と御同慶に堪えない。

演習終了直後、寶塚に於て實爆演習關係者懇談會が設けられ、又技術調査員は9月26日日本建築協會に於て、打合せ旁々座談會を開き、之は雜誌「建築と社會」昭和17年2月號に發表された事を附記して置く次第である。

因に本實爆演習參劃者は下記の通りである。

中部軍司令部		桃井少佐
大阪師團		小合中佐
		外山中尉
姫路師團		岩永少佐
大阪府		三谷警防課長
兵庫縣		本村警防課長
大阪市		土井總動員部長
		谷垣防護課長
神戸市		平間防護課長
阪神急行電鐵道會社		仁木事業部長
		柳谷事業係主任
技術調査	大阪府	玉置技師
	兵庫縣	藤田技師
	大阪市	伊藤技師
	神戸市	野坂技師
	日本建築協會	藪中常務

（以上）

投下爆彈彈痕調査報告書

調査　神戸市役所

主任　大崎祐弘

委員　西村義一　野坂和儀　三好篤
堀内石夫　松本俊一　平松太郎
告野新作　藤田重夫　砂川和夫
十河安雄　北畠敏夫　（五十字順）

第1章
投下爆彈彈痕調査報告書

第1節　豫備調査

先づ現場の事前測量を行ひ當日の調査に便ならしむ可く2日前の9月18日及び當日の調査開始直前に之を行つたのである。9月18日は經緯儀測量にて現場附近全般に亘り20日の當日には18日以後に完成したる防空壕及防彈壁の位置に就いて之を行つた測量圖は500分の1及1000分の1の2様に分け作製建築物地形の配置以外に地盤の高低差等も記入した。最初の豫想では爆彈に依り大孔の連續狀態になつて地形の大變化を來すのではないかとも考へたのであるが之は全く杞憂に過ぎず高低差はあまり役立たなかつた譯である。

現場の狀況は北西から流れ降りた川が此處で東方向へ急カーブとなる丁度曲り角で更に西方向の池の方からも流れ込んで1面の磧となつて居り北は斷崖を以てゴルフ場に隣り西及南に山林を控へた場所で平常水は小川の如く流れてゐる程度で此の磧を利用して東西80米南北100米の區域に試供家屋並に防空壕、防彈壁を配置なしたもので圖面及び寫眞(1)及(2)及(3)に見らるゝ通りである。要するに所要の調査は此の豫備調査に依る平面圖を基として行つたのである。

第2節　爆彈の落下位置及その判定

投下彈の落下位置は豫備調査に依る測量圖面上に於ける既知の2點より彈孔中心迄の距離を測り後で之等を作圖して求めたので圖の如くなる。投下彈は之以外にも第1回目の爆撃の中池の方向に落下したと見受けられるのがあつて其等は遂に發見出來なかつたのである。

投下彈は人馬殺傷用の瞬發信管にして建物、樹上等に落下したものは地下に屆かぬ内に炸裂するので彈孔を殘さないため之等に就ては被害狀況及び軍並に行者山及甲山方面よりの目撃者談等を參考にして推定記入したのである。圖上直徑深さの記入なきものは其である。

尙ほ圖中圓内或は圓の傍に15とか50とか書込みのあるのは彈の大いさを示したのである。サフイツクスは落下順位を示すもので爆之最初技術調査團の希望として一發毎或は一爆撃毎の調査案が出たのであるが事情上到底不可能なりしため順位丈でも知り得たならばと觀測位置でスケツチ撮影等に依る記錄を取つたのであるが觀測の場所が極めて不適當なりしため正確を期し得なかつたのは殘念である。

然し乍ら之等の判定は何れも炸裂時の發煙量音響並に調査時に於ける彈孔或は被害の狀況等に依り尙ほ軍の御意見をも參考推定したのであつて大體間違のない所と確信する。

記錄されたる諸元を整理すれば次の如し。

投下順	爆撃機別	機數	投下方法	高度	投下彈數	彈ノ大イサ
1	輕爆撃機	單機	急降下	1200米ヨリ700米迄降下	3	15瓩
2	同	同	同	同	4	同
3	同	同	同	同	3	同
4	同	同	同	同	3	同
5	同	同	同	同	4	同
6	同	同	同	同	3	同
7	同	同	同	同	4	同
8	同	同	同	同	3	同
9	同	3機編隊	急降下	同	10	15瓩
10	重爆撃機	5機編隊	水平	1000米	9	50瓩 6 100瓩3
11	輕爆撃機	3機編隊	同	同	3	15瓩
12	重爆撃機	5機編隊	同	同	1	100瓩

以上で實際投下彈は

15瓲	40發	內不發彈1發	合計50發
50瓲	6發		
100瓲	4發		

之に對し調査に依れば

15瓲	37發	內不發彈1發	計47發
50瓲	6發		
100瓲	4發		

となり15瓲3發の彈痕は發見し得す、恐らく第1回目の爆撃が可なり外れたと思はれるのであつて或は池の中へ落ちたのではないかとも考へらる。

圖に依り明なる如く命中精度は極めて的確である。落下彈の全範圍は不明のものを除き既知のもの丈について云へば南北145米東西192米の矩形範圍に集中落下して居り爆撃進行方向(東より西へ)の縱方向への振れの方が横への振れよりも大きいといふ點は注目す可きと思ふ。

直接建物に命中したのは四發であつてその比率は全投下彈の8%であるが試供建物丈について云へば上底65米下底90米高85米の梯形內に配置されてゐるのであつて此の面積は前記矩形面積の23.7%に當る。上空から見た場合此のブロツク全體として一目標と見られたであらう故に假に此の範圍を目標範圍と假定すれば命中彈は20發となり全投下彈の40%の命中率となるのである。而して此の命中彈比率が面積比率よりも大であるのは集中精度の良好さを示してゐるわけである。

尙ほ當然のこと乍ら同一回に投下された爆彈は特に急降下の場合集中落下してゐることに氣付くわけである。

第3節　彈孔の調査

各彈孔に就き其の直徑並に深さ及び爆壓半徑等測定なし併せてカメラをも使用した。孔の大いさはそのまゝ作圖に表はし且つ傍書を以て示した。

一般に落下した爆彈の孔は漏斗狀をなし中心部最も深く火藥の灰と石の粉が直徑50糎—100米位存在し孔の終端部肩の邊りより外部へ向け2—4米程火藥焦げして黑ずんでゐる。而して中心部にある石は完全に粉碎されてゐるが周圍の石は飛散し彈片と同時的被害を周圍の地物に與へるものと思はれる。勿論彈片は飛散し去つてゐるが中心部附近には相當大きな破片が殘つてゐることがある。

樹上家屋の屋根等に命中したものは其の場で炸裂するため地上に彈孔は殘さないが附近の樹木は切斷され家根には大きな孔が明く。尙ほ非常に接近して落下して彈孔が相重なり一體として孔になつてゐるのが二ケ所あり、之は全體としての深さ及び直徑を記入して置いた。

次に爆壓（爆風）に依る影響は非常に顯著であり附近樹木、地物等の被害狀況に依り明に看取されるのである。試供物に對する被害は他の調査にまつことゝし此處では主として樹木に與へた被害より推定したのであるが例へば西北方山中に落下した50瓲彈に依つて周圍15米圓內の樹木は徹底的に破碎されてゐる等圖面には落下位置の圓の外側に更に點線を以つて圓を畫いたのであるが、後で述べる樹木等の被害狀況の項目について參照されたい。

之等の調査の結果を隻均すれば大體次の如き結果となる

爆彈ノ大イサ瓲	漏斗狀ノ直徑　米	深サ　糎	爆壓直徑米
15瓲	2—3米	10糎—50糎	—6.0米—
50瓲	3—5米	30糎—60糎	10米—15米
100瓲	4—5米	30糎—100糎	15米—20米

地盤は磧にして大玉石、栗石、砂利及砂の混合したるもの單なる砂或は土壤等に落下したる例が皆無なりしため比較するわけには行かぬが破壞半徑或は浸度等の案外小なる點より見て斯る地盤が耐彈的に可なり優秀であると云へる。その例として丁度大玉石の直上に命中したものが十五瓲彈の中にあるが石は勿論大破してゐるが重力に依る浸度が殆んど無かつたと云へるのである。

之は重力に依る浸力を見る唯一の例であるが徑90糎深50糎で止つてゐるのである。不發彈の浸力が相當するのに反つて炸裂した方の深さが一般的に少いのは瞬發信管であるに依つてであらうと考へらる、以上地盤に對する破壞力の案外小なるに反し地上に曝露されたる目標家屋等に對する被害はさすがに目立つてゐたもの丶樣であるが家屋其の他の試供體の被害はその方に讓るとして次に樹木の被害に就き述べることゝする。

第4節　爆彈に對する樹木の被害狀況

現場磧の西南部方面には樹木疎生し又山林中には同じく密生してゐて松を主とし各種灌木が生えてゐたのであつて此の方面に落下した彈の被害狀況は樹木に對し極めて顯著に現はれてゐる。その主なるものを拾つて圖上にプロツトしたのである圖上の矢印は倒壞乃至風靡方向を示したので矢の長さは樹木の切斷け所より先迄の長さを表はし大體樹の大いさに比例してゐる。附記の記號と對照してその被害狀態を記述すれば次表の通りとなる

記號	樹種	切斷ケ所ノ太サ（米）	切斷ケ所ノ高（米）	切斷ケ所ヨリ先迄長サ（米）	最短彈孔ヨリノ距離（米）	被害要因	備考
イ	松	0.09	3.00	3.00	5.10	50瓩彈ノ爆風ト破片ノ同時作用	切斷ケ所ヨリ4.5米外方ニ飛ビサル
ロ	〃	0.10	切斷サレズ	——	7.00	50瓩彈ノ爆風	根ヲ引拔カレル如キ樣デ中心ヨリ外側ヘ靡キ半倒
ハ	〃	0.08	〃	——	7.00	〃	〃
ニ	〃	0.09	2.00	行方不明	3.40	〃	
ホ	〃	0.06	1.20	〃	2.00	50瓩彈ノ爆風破片ノ同時作用	
ヘ	〃	0.09	0.20	4.00	0	〃	此ノ樹ノ眞上ニ50瓩彈落下シ根諸共堀起サレ切斷ノ上2.5米外方ニトバサレル
ト	樫ヤシヤブシ	0.09	0.20	3.50	5.50	50瓩彈ノ爆風	根本ニテ折レ外方ニ靡倒ス
チ	〃	0.09	0.15	3.00	3.50	50瓩彈ノ爆風	根本ニテ折レ外方ニ靡倒ス
リ	松	0.12	0.20	4.00	3.50	〃	外方ニ靡倒ス
ヌ	〃	0.06	30.0	2.50	6.50	50瓩彈ノ破片	
ル	〃	0.08	4.00	2.00	3.50	〃	
ヲ	〃	0.08	3.00	2.50	2.00	50瓩彈ノ爆風破片ノ同時作用	
ワ	〃	0.09	2.50	3.00	4.00	50瓩ノ破片ノ作用	
メ	〃	0.09	0.60	3.00	2.00	50瓩ノ爆風破片同時作用	樹上ニ落下炸裂ニヨルモノト認メラル
シ	〃	0.25	1.60	6.00	2.00	〃	
カ	松	0.12	2.00	4.00	4.00	破片ニヨル	
ヨ	〃	0.10	1.00	4.00	4.00	〃	
タ	〃	0.09	0.60	3.50	3.00	〃	
レ	〃	0.09	0.60	2.00	13.00	15瓩彈ノ破片ニヨル	15糎×18×5糎（深）ノ彈痕アリ
ソ	〃	0.18	切斷サレズ	——	14.00	〃	
ツ	〃	0.05	3.00	2.00	12.50	〃	
ネ	櫟	0.09	0.10	3.50	12.00	100瓩ノ爆風ニヨル	根本ヨリ靡倒リ
ナ	松	0.08	3.00	1.50	26.00	50瓩及15瓩ノ破片	
ラ	〃	0.24	切斷サレズ	——	21.50	50瓩及15瓩ノ破片	一米高ノケ所痕三ケ所アリ
キ	〃	0.06	0.30	2.00	18.50	〃	
ム	〃	0.13	0.60	2.00	10.50	〃	
ウ	〃	0.12	0.50	2.00	3.50	15瓩ノ破片	
ヰ	〃	0.09	4.00	3.50	1.00	15瓩彈ノ爆風破片同時作用	

ウ	松	0.09	3.50	3.50	1.00	〃	
キ	櫟	0.08	2.00	2.00	1.00	〃	
ノ	松	0.12	0.60	4.00	7.50	100瓲 彈ノ破片爆風ノ同時作用	足ヲサラハレタ形デ孔方向ニ向ツテキル
オ	〃	0.12	1.20	4.00	4.00	100瓲 彈ノ破片爆風ノ同時作用	足ヲサラハレタ形デ孔方向ニ向ツテ倒ル
ク	〃	0.27	0.20	8.00	0.60	〃	引キチギラレタル如ク切斷サル
ヤ	〃	0.21	1.00	8.00	3.00	100瓲 彈ノ破片ニヨル	
マ	〃	0.21	切斷セズ	——	2.50	——	高40米以下ニ彈痕無數大サハ約½迄ヲ缺取ルモ致命的ニ至ラズ
ケ	〃	0.15	3.00	4.00	5.00	100瓲 彈ノ破片ニヨル	
フ	〃	0.08	7.00	2.50	15.00	〃	
コ	〃	0.09	0.20	1.50	2.50	15瓲彈ノ爆風破片ニヨル同時作用	切斷サレタケ所アリ1.5米トバサル
エ	櫟ヤシヤブシ	0.09	半切斷	2.50	4.00	50瓲彈ノ爆風	外方ニ靡キ倒ル小枝ハ全部ナシ
テ	〃	0.08	切斷サレズ	——	5.50	50瓲彈ノ爆風	外方ニ靡キ倒ル小枝ハ全部ナシ

右の表に依りても分る如く大體被害の原因は爆風に依る場合と破片に依る場合とに分けて考へられるのである。之に就いて今少しく檢討を加へて見やう。

1、爆風に依る場合の被害

此の特色は落着中心附近に限られ而も一率的であることである。其の徑內のものは徹底的に破壞される。其の狀態は中心部に近いものは殆んど切斷され下半が殘つてゐると云ふ狀態で外周部に近づくに從つて被害の程度が輕少になり切斷されるに至らず風靡して半倒壞になつてゐると云つた形である。それから外側に對しては無被害なのである（スケツチ參照）そしてその上向反射方向は大體3分位の勾配になつている。

亦之等の被害狀況は落下位置の條件に非常に支配されるのであつて、例へば山腹の30度位傾斜した所に落下した場合其れより上部にある樹木はスート根の所からやられてゐるのであるがそれより下部の谷側にあるものは被害線が水平になつてゐるのである。

2、彈片による場合の樹木の被害

此の圖面には顯著な被害を受けたるものゝみを記入し無被害乃至少被害程度のものは記入してゐないので之丈では少し被害概念は解り難いのであるが、實際には或る木が非常に損傷を受けてゐるに抱らず直ぐ隣の木は何ともなつてゐないといふ場合が非常に多いのであつて、之全く彈片に依るものであつて爆風に依る場合と著しい相違を示してゐる。既ち爆壓に依る被害が中心周圍に限定され而も一率的なるに反し破片に依る場合は相當遠方迄被害を及ぼし而も前途の如く偏頗的なのである、調査に依れば20米—30米附近にある樹に多くの彈痕を見たのである。而して之も落ちた場所の條件其の外の彈自身の條件によると思はれるらしく決して四方八方に均一な威力を及ぼすのでなく或る特定の方向へのみ集中されるといふことがあるので弱點へのエネルギー分散と見るべきであろう。その飛散方向は矢張爆壓と同樣射狀に上方に逃れる。

以上に於て爆擊と彈片に依る被害を個々に分けて考へて見たのであるが之等が同時に働いてゐるとみられるものが又處々あるのであつて例へば中心部附近に於ける大木の切斷等は兩方同時的な作用共思はれるし亦彈片で切斷して爆風で吹飛ばした共考へられるものもあるのである其の他飛散した石片に依る二次的被害も考へられるがその明な例は見られなかつた。

3、其の他の被害

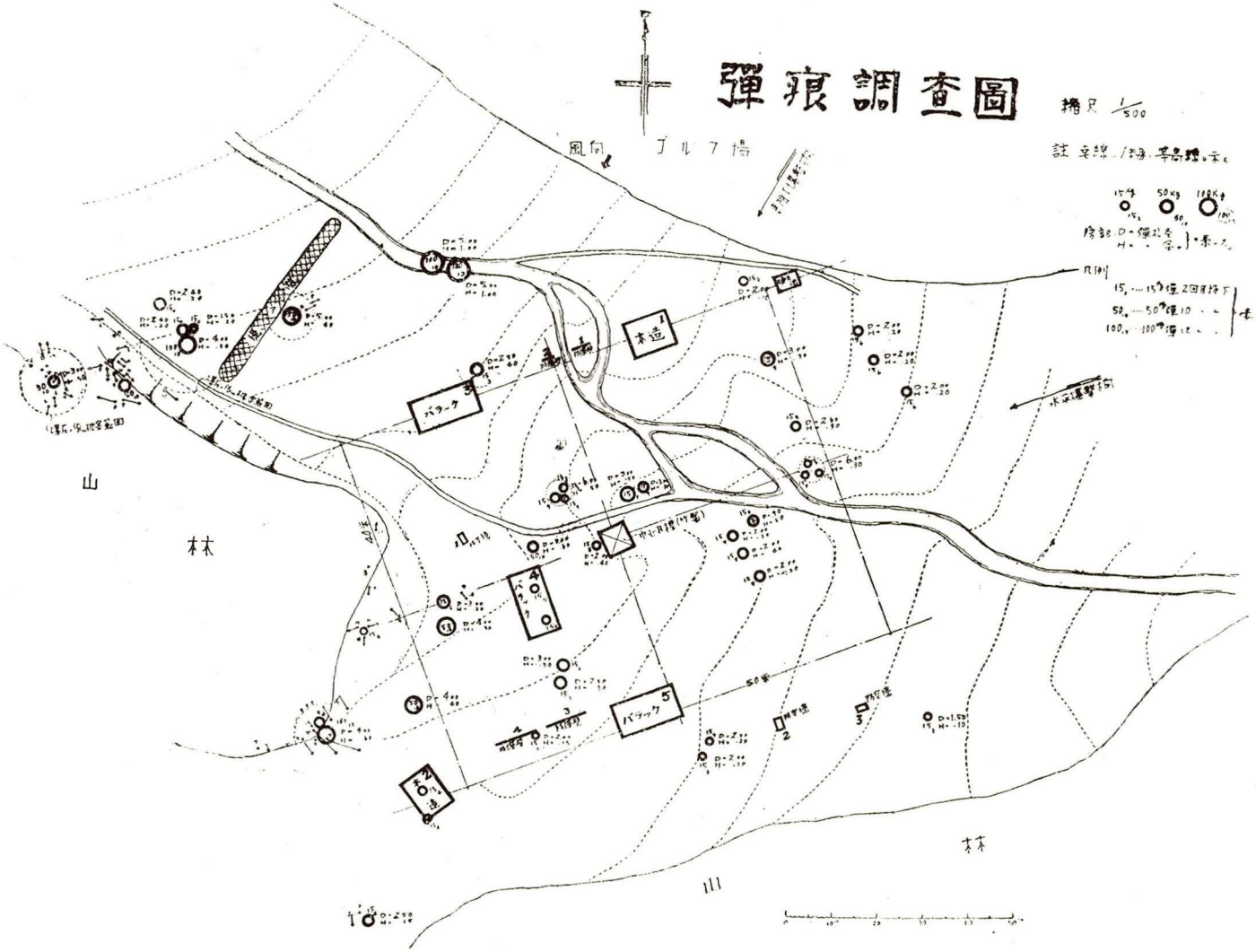
之は特別であるが現場の北西に砂防用の簡易堤防（蛇籠床止）の附近3米の點に於て炸裂した例に見ると此の堤防は栗石を集めて徑6粍及4粍15糎間に網狀の針金で包んでゐる巾、高共1.00

米程度の簡單なものであるがその被害程度そは此の針金が高1.0米巾3.0米に亘り切斷され栗石が少し崩れてゐる程度である（寫眞參照）がその裏側には及んでゐない若し之を防彈壁とすれば相當抵抗度の高いことが分る（スケツチ參照）

第5節　結　　論

以上要するに神戸市の擔當した調査要目はそれ自身としての價値よりも、むしろ他の調査即ち各種の被害狀況等の調査に對する基礎的資料を與へる點に於て重要性を持つのでその意味に於て忠實に測量作圖した迄のことで其の成果は全部圖面に包含されてゐるわけである。

唯彈孔調査及樹木の被害調査に於て些か破中爆彈の作用の一分野を實見に基き記錄した次第である。尙ほ終りに臨み貴重なる種々の資料をお與へ下さつた大阪師團參謀部に對し深甚の謝意を表する次第である。



第1圖　煉瓦造家屋附近爆彈落下位置實測圖



座談會　南方事情を語る

（昭和17年1月30日）

出席者

三興株式會社本店	社長	岩倉要吉氏
坪野商店支店	支配人	坪野秀一氏
ユニバース寫眞工藝所		山本三郎氏
京都帝大工學部	教授	近藤泰夫氏
大阪市産業部貿易課	課長	古久保立次氏
三井物産株式會社大阪支店雜貨第二課	課長	齋藤安弘氏
日本工業新聞社	編輯愛讀・マレー語研究家	宮武正道氏
醫學博士 大阪市立西診療所	所長	深山杲氏
工學博士 京都帝大工學部	教授	森田慶一氏
編輯及び幹事	長務	小林清
本會編輯幹事	常務	伊藤和夫
同		大下順三郎
同		錦田直一

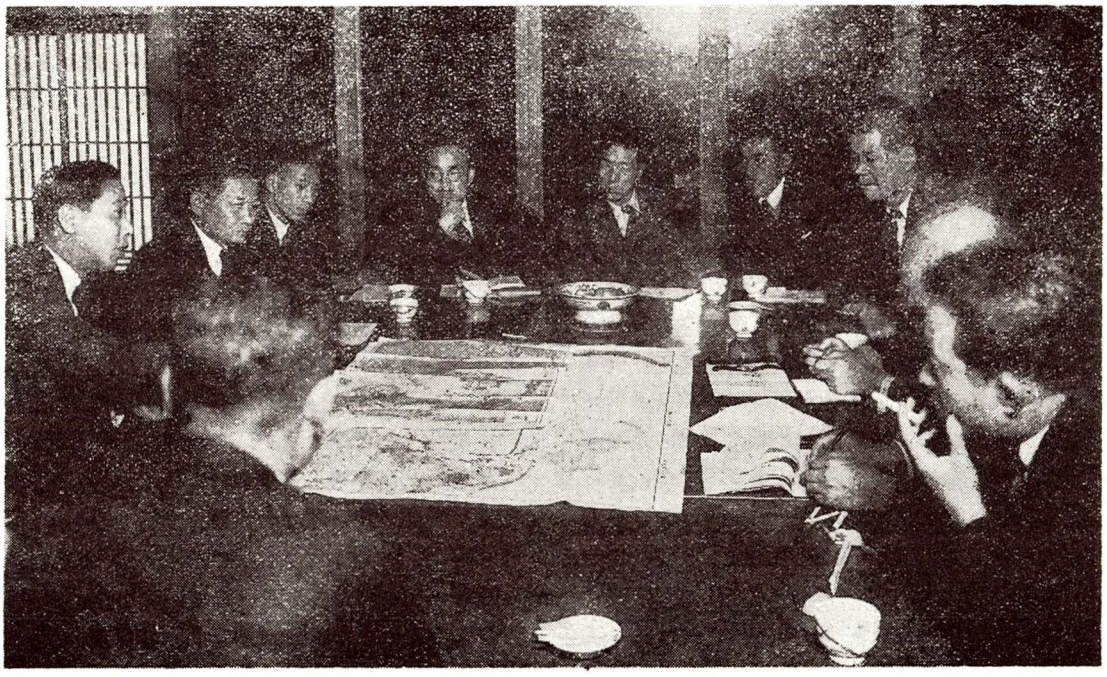
小林——それではちよつと御挨拶を申上ます。本日は皆さんお忙しい所を御出席下さいまして、有難う存じます。厚くお禮申上ます。

大東亞戰爭が勃發しまして、皇軍將兵の華々しい活躍に依り、ハワイ爆擊、或は香港、マニラの占領、更に引續きシンガポールの命も旦夕に迫ると云ふ輝かしい戰果を收め得ました事は感謝の念に堪へぬ次第でございますが、一方我々としましても、これより大東亞共榮圈の建設に邁進せなければならぬと痛感する譯であります。そこで本夕は多年南方各地に居られた方、或はそれらの土地の事情に詳しいお方をお招きしまして、何かお話を承り、建築協會の出して居りまする「建築と社會」誌に發表させて戴きまして、汎く會員を稗益したいと考へて居る次第であります。我々建築家の多くは、甚だ遺憾なことでありますが、南方の建築其の他の事情に極めて疎く、其の知識なるや非常に心細く存じますので、雜誌が「建築と社會」と云ふのでありますし、南方の建築の事情のみに限らず、氣候風土と云ふ樣な一般的の事や或は原住民の生活の狀態と云ふ風な事に付てもお話を願へれば、非常に結構だと思うて居ります。

司會の方は甚だ勝手でありますが私共の方の伊藤常務にお願ひしたいと思ひます。どうぞ宜しく

伊藤――それでは甚だ僭越でありますが、進行係を勤めさせて戴きたいと思ひます。今日お集り願ひましたのは、先程お配りしました名簿で御覽のやうなお顔觸の方々でありますが、其の中市の貿易課長の古久保さんは何か他にも會議があるさうでありまして、七時半頃には大抵來られるだらうと云ふお話で、もうそろそろ見えるだらうと思ひます。大體建築の方の連中も今度の戰果に伴つて何れは相當の人間が向ふへ行かなければならぬのではないかと思ひますが、どうも無精者が多くて、南方はどんな所か餘り知りませぬので、行つたら病氣になりはせぬかと云つたやうなこともありませうし、單に建築の事に限らず、病氣の事とか、或は氣候風俗とか物資の問題其の他色々の問題に付て皆樣の豐富なお話を承つて、一般會員の參考にしたい積りでございます。先づ話の順序として、御承知の通り、南と云ふと、第一に氣候はどうだらうと云ふことが心配になりますので、先づ氣候の關係、次に風俗、或は熱帶病の問題、或は資源の問題、次に開發關係から貿易等の問題もありませう。隨つて今後建築家が向ふへ行つて仕事をするやうなことになる場合、それ等を綜合しまして、向ふへ行つての建物に對する色々の御注意とか云ふやうな點までお聽かせ戴いたら非常に結構だと思うて居ります。第一氣候關係に於ても南と云へばもう熱いものだと思つて居りますけれども、赤道を越して向ふの方に行けば、又涼しい所がありませうし、或は同じ赤道地帶でも高い所へ行けば涼しい所もありませう、其の邊が分らずに唯赤道直下は熱いやうに思うて居りますが、さう云ふやうな問題からぼつぼつお話を聽かせて戴いたらどうかと思ひます。近藤先生がお出でになつたのは何時頃でありますか。

近藤――私の參りましたのは內南洋だけですから、話が極めて局限せられまして、餘り一般的な話は出來兼ねるのでありますが、內南洋の所謂委任統治領の範圍內では矢張り夏が暑くて冬が涼しいと云ふのがノルマルだらうと思ひます。ズツと赤道に近寄りました南に行きますと、春より夏が涼しいと云ふことになります。向ふでは太陽が避暑すると謂つて居りますが、太陽が北へ避暑しますから、夏が涼しくなると思ひます。尤も極く僅



左より齋藤安弘氏、深山 泉氏、坪野秀一氏、近藤泰夫氏、森田慶一氏、山本三郎氏、小林 清氏、伊藤和夫氏 一人おいて鎌田寅一氏、大下順三郎氏

な2.3度の差であります。

伊藤――マレー方面はどんなものですか。

近藤――此處に理科年表を持つて居りますが、シンガポールの一番暑いのは五月で、月平均の溫度が27·7度となつて居ります。勿論暑いことは暑いのですけれども、甚しく暑い譯ではないだらうと思ひます。大阪は8月が一番暑くて平均27.3度ですから。

山本――日本の夏より却て涼しいかも知れませぬですね、天神祭頃になりますと、こちでは非常に蒸暑くて汗ばみますが、あちらに居りましては殆ど汗も出ないやうな譯であります。

伊藤――今の赤道から向ふと言ひますと、セレベスなんかもさうですね。セレベスは非常に氣候の好い所ださうですが。

坪野――セレベスの氣候は大別すると、乾期と雨期の二つになる譯ですが、大體11月から翌年の2月までが雨期で、あとは乾期です。それでセレベス島でも一番平均溫度の低いのが、赤道の南の方面で25度位、多少暑くなつても26度位ですが、ジヤワは大體に於て26度から7度です。それでセレベス島はジヤワ、スマトラ、ボルネオ方面より幾分涼しくて、降雨量も少い。日本の眞夏よりズツと涼しい譯であります。

近藤――ボルネオは氣候の悪い所ださうですねそれに比べるとセレベスは非常に氣候が好く、山が直ぐ近い所に在つて、高い所が別莊地になつて居りますが、內南洋の連中もセレベスには直ぐにでも飛んで行きたいと云ひますね。

齋藤――ジヤワも好いですね、一萬フート以上の山が澤山ありまして、5千フート、6千フート位の所までアスファルトが敷いてありますが、そんな所に行きますれば、非常に設備が宜しいですジヤワなら今でも行きたいやうな氣が致します。

坪野――それから猛獸毒蛇と云ふ種類のものは一切居りませぬ。大體內南洋はさうですが、セレベスでも草原を歩いても蛇が一匹もゐない、非常に安心でありますが、ボルネオへ行くとなかなか恐しい。

伊藤――生物學上でもボルネオとセレベスとは何とか線（ウオーレス線ですか）と謂つて、之を區別し、生物が違ふと言つて居りますね。

坪野――大體セレベスは隣のボルネオとは全然別個のものでありまして、動物でも鳥類でもアジヤ的のものもゐますが、先づ濠洲及アフリカ系統であります。だからセレベスには特殊な動物が相當居るらしいのです。

小林――濕度はどうですか。

坪野――濕度はセレベスは比較的宜しい。

小林――日本の家屋の根本の形は南方にあると云はれてゐますが。つまり家が開放的に出來てゐたり、床の高いのも濕氣を防ぐ意味からだと思ひます。かう云ふ點で我國の民家との共通點と云ひますか、防溫の點でお氣付の事はありませんか。

坪野――其の邊はどう云ふものですかね。

森田――一體が高いでせうね。

岩倉――ジヤワなんかでは雨期の終り頃になりますと、部屋は相當濕つぽくなります。日本人の住つて居る所はヨーロツパ人並の生活をして居りますので、衞生設備の完備した天井なんかは此の部屋の倍位の所が多いのでありますが、雨期の終ひの3月、4月頃になりますと、何となしに濕つぽいですね、大體雨期の終りが濕度が高い、11月から翌年の4月位までは雨期ですが、乾期と雨期の轉換期が蒸暑くて其の間2箇月乃至4箇月が比較的暮しにくいので、其の外の間は非常によろしい。隨つて旅行するには6月頃日本を發つて9月頃まで居つて歸つて來るのが一番よろしい。夏知らずで涼しいです。

宮武――大谷光瑞さんですか、其の時分に避暑に行かれますのは……。

岩倉――大谷さんは世界中歩いて居られましてジヤワのガローにも農園を有つて居られますし、セレベスのメドナの近くにも農園を有つて居られますが、あゝ云ふ方が世界的に廣く御存じになつて居つて、樂園だと云つて居られるのは餘程好いからだらうと思ひます。

伊藤――今度若し僕達が行くやうになると、さうさう時期の好い時ばかり選んで行くことも出來ませぬが。

近藤――內地は冬が寒いので、其の間に南洋へ行つたら宜いと思ふのは逆です、冬眞夏の所へ飛込んだら耐へられない、內地の夏　南洋へ行くと云ふ行き方が宜いのです。

山本——マラリヤなどに罹り易いのですね。

伊藤——武田先生が南洋に行かれて、わざわざ夏に南へ行つて、身體を鍛えたと言はれたのは嘘ですね。

坪野——大體日本の夏は向ふの乾燥期になり、日本の冬が向ふの雨期になりますが、雨期と乾期の變り目が一番蒸暑いやうです。

近藤——內南洋では雨期が夏ですね。

森田——雨季と乾季の差はさうひどくありませぬね。

近藤——さうひどくありませぬ。

森田——氣候はメラネシヤ方面の小さい島と高地は好いやうですね。內南洋はしよつちう海陸風が吹いて居るし、氣候的には佛印や泰のような大陸に近い所と島とでは大變違ふやうです。

宮武——ジヤワ島でも氣候の好いプリアンゲル地方で毎年2千人程多い時には3千人もペストで死んで居ります。氣候が好いと云ふことも餘り當にならない、太陽のきついかんかん照つて居る所では黴菌が死にますから、少いやうです。オランダ政府が一生懸命になつてペストの撲滅運動をやつて居ります。

岩倉——ジヤワのチラチヤツプ附近にはマラリヤが多いやうですが、マラリヤの繁殖する特殊の樹木がありまして、其の媒介力があるのでないかと思ひます。ジヤワなんが何處へ行つても非常に衞生設備が整つて居るのですが、チラチヤツプにはマラリヤが多いやうです。

宮武——防空壕を造つてからマラリヤが殖えたらしいです、最近の向ふの新聞に出て居りますが防空壕を掘つて、放つて置くと、水が溜つていけないと云ふことです。

伊藤——それでは純南洋と言ひますか、南の島々の方は氣候的に大して恐るゝに足らぬと云ふことになるやうですけれども、佛印とかマレーの方は餘程氣候が悪いのですか。

岩倉——佛印も南の方は暑いのですが、北の方の少し海岸を離れると、非常に寒いですよ。

齋藤——ハノイなどに行きますと、確かオーヴアが要るとか聞きましたが、それは內地程寒くないかも知れませぬけれども、併し毛織物を着て行くやうな溫度らしい、サイゴンまで行くと暑いです。

近藤——サイゴシは暑いらしいですね、シンガポールは27度7で、大阪の8月の溫度が27度3でありますから、大阪と變らない譯ですね、理科年表の表で見ますと、サイゴンが30度4とありまして、此の附近ではサイゴンが最も暑く、シンガポールより遙に暑いのです。詰りシンガポールは半島の端ですし、サイゴシなどは大陸に接して居りますから、大分違ふらしいのです。

岩倉——一つは地理的の關係で、サイゴンは御承知の通り小さい河を上つた沼地の横に出來た都市ですから、濕氣が高いのですが、苦しいやうな暑さですね、陽も相當強いです、北へ行きますとまるで氣候が違つて參りますね、よく繪葉書などに河の中に家を建てたのがありますが、溫度はどうか知りませぬけれども、からだにこたへるのは溫度がひどいことで、結局あすこらの人は晝飯を食つて2時、3時頃まで寢ないといけないです。

宮武——バンコツクあたりもさうらしいですが3尺掘れば水が湧いて來るのですから、推して知るべしです。

岩倉——ジヤワに居りますと、オランダ人なんかは朝はべらぼうに早く起きて、夜は12時まで凉みながら閑談をして居りますが、晝はオフイスから住宅に歸つて晝飯を食つてから、2時、3時頃まで寢て居ります。日本のやうに春夏秋冬の氣候の變化がなく、平均して居りますから、朝早く起きて冷い空氣に觸れ、夜又冷い空氣に當つて皮膚を刺戟するより刺戟の方法がないのでありませうが、さう云ふ生理的關係でありますか、南洋に居る人は、非常に朝が早く、夜も非常に晩くまで起きて居つて、晝寢をするやうです。

齋藤——それは各本國の習慣が影響して居るのでないですか、例へば非常に時間を惜んで克く働くイギリス人やアメリカ人はマレー半島フイリツピンに於ても晝休まない、處がフランスの植民地では晝休む、私も彼處に2日ばかり居りましたが皆寢て居りましたけれど、私は別に晝寢する程の必要も感じませぬでした。

岩倉——日本人が行つたら寢なくなりますね。

伊藤——それは結構な話ですが、日本の商社などに行つて居る人も晝休を哭れますか。

齋藤——銀行も店も閉ぢますから、自分一人働かうとしても仕様がないので、初は眠くないさうですが、自然寝ることになり、其の中に癖が附いて寝ないと體が續かなくなると云つたやうなことを言つて居ります。

伊藤——どうです、日本人がどんどん行くやうになりますと、さう云ふ好い風習を壞してしまふのでないですか。

岩倉——日本人は確かに克く働く方ですね。

伊藤——建築屋なんか行つても晝休まして呉れさうにありませぬね。

齋藤——それですから、日本人が澤山行くと變つて來はしませぬか、フランス人などは非常に怠惰でありますし、オランダ人も同樣でありましてそれが原住民を搾取して榮耀榮華をして居るのでありますが、シンガポールに行きますと、ころツと樣子が變つて、皆殆ど晝飯も食はないで働いて居ると云ふ譯であります。

伊藤——シンガポールでも銀行は休んで居りますか。

齋藤——殆ど休みませぬ、用事があつて行けば何時も逢せます。

伊藤——さうすると、オランダ本國が休みが多いから、蘭印も非常に休みが多いのですね。

坪野——それから支那人がよく休みますね。

宮武——曆にしてもジヤワ曆と云ふのがありまた、更に回教曆や舊曆がありますから、正月も何回もあるわけです。今日は舊正月だ、或は孔子の祭日だ、何だ彼だと言つて、よく休みます、矢張り本國の氣風が移つて居るのですね、新聞も向ふのは日本の新聞の半分位ですが、日曜は勿論、よく休みまして、一週間に6回入ることは少い、大抵5回です。

伊藤——從業員も休ませるのですか。

坪野——向ふ生れ？支那人を相當使つて居りますが、それを休ませない譯にはいかないです。

伊藤——建築なんかの方面では、昔から現場では日出から日沒までと云ふやうな働き方になるのですけれど、日本だと冬と夏で大分晝の時間が違ひますが、赤道直下であると、大體1年中日の長さは同じものでありますか。

平野——殆ど變らない、違つても30分ですね。

岩倉——それと夕方の明るい時間が少い陽が落ちたら急に暗くなりますね、5分か6分かで。

伊藤——空氣が澄んで居るのですか。

近藤——イヤ太陽が地面に對して直角に入るからです、北へ行く程太陽が斜に入るやうになつて段々明るい時間が長くなります。ドイツなんか夕方が非常に長い。

宮武——向ふでは1日の勘定が違ひます、こつちは0時から始まるのですが、向ふでは6時から始つて居るのです、蘭印なんかさうですね、マレーでうつかり日を聽くと間違ふ、日曜日の晩は向ふの土曜日の晩です、それで初の中はちよつとへこたれますね。

伊藤——それはよく聽いて置かないと困りますね。

齋藤——夕方の6時からですか。

平野——晩の6時からです。

山本——大體彼等は日の入を拜むことになるのです。

坪野——總ての事が6時を基準にして居ります要するに彼等の宗教即ち回教からきた基準で、日の入は6時で、日の出が6時です、禮拜をするのもさう云ふ理由からですね。

宮武——だから回教の斷食期に入ると、朝6時までに飯を食つて晝は食はない、斷食するのですが、晩の6時になると飯を食ふ。

坪野——斷食は大したことはありませぬね、私はやつたことはありませぬがな。

岩倉——貴族階級はどうか知りませぬが、一般の住民は殆んどやつて居りませぬね。

坪野——一般に勞働者はやりませぬね。

坪野——メツカー參りをしたハジと云ふ白い帽子を被つて居る連中は徹底的にやりますね、是は實に嚴重にやります。

伊藤——それでは氣候に付いては是位にしまして、次に人類のお話を少し承りたいと思ふのであります。人種の問題はなかなか大變なことになるのですが、大體大別すると、フイリツピン方面と島の方とマレー、佛印と云ふやうなものに分れると思ひます。

宮武——先づ大雜把に分けて見ますと、佛印の人種はインド支那系のアンナン人、其他が主で泰國はタイ人、ビルマはビルマ人で、これは全部西

藏支那民族の系統です。マレー半島から蘭印、フイリツピンまでが昔マレーポリネシヤとも謂つたインドネシヤ族で、ニユーギニヤか一寸毛色の變つたパプア族です。大体此の三つ位に大別出來ますが、ニユーギニヤの原住民のパプア族と云ふのは數が少いから問題ではないとして、佛印と泰國を除いてあとは全部マレー人種だと言つて間違ひない。殊にマレー語はフイリツピンのルソン島には通じませぬが、ミンダナオ島では一部で通用します。フイリピン以外には全部通じます。勿論スマトラの地方語とかジヤワの各地方語とか其の他色々な言葉がありますが、それ等の共通語として全部マレー語をやつて居ります。

岩倉——併し原住民にすればマレー語は外國語になります、それぞれに自分の言葉を有つて居りますが、今仰せになつたやうに一般にはマレー語なんです。

坪野——マレー語は南方共榮圈のエスペラントですね。

伊藤——それは日本で謂ふ標準語と鹿兒島辯の違ひ位ですか。

坪野——それ位ですね。

宮武——書いたのをよく見れば分るのが少しはあります。專門的にマレー語をやつた人は一寸した單語など大體皆想像が附きますね。

近藤——マレー語は日本人が喋れば非常にスムースに喋れるが、毛唐は駄目ださうですね。

宮武——アクセントが違ひますね。

深山——マレー語には字に書けない言葉がありますね。

宮武——そんなものもローマ字であれば、大體書ける譯ですね。

近藤——內南洋の島々では皆言葉が違ふやうですね。

宮武——併しパラオ語とマレレ語と比べて見ると、自から類似語が出て來ますね、例へばパラオ語で羊のことをカミングと言ひますが、マレー語でカンビングと言ひますし、豚のことは矢張りバビです。さう云ふ風に單語など比べて來ると、類似語が澤山あります。

伊藤——日本語と同じのがあるのでないですか。

宮武——皮はくりつと剝くから、クリツト、寫眞は頑張るからガンバル、血はだらだら流れるからダラー、魚は美味しくないからイカン、とか、そんなのを捜すと、幾らでもあります、それは他人の空似です。それ以上の言語的關係がありますかどうかちよつと申上げ兼ねます、マア今の所では他人の空似程度です。しかし何かしら民族的な關係があるらしいようにも思はれます。

近藤——メナドは「みなと」だと云ふ話が新聞に出て居りますね。

岩倉——メナドの一劃は日本人に非常に似て居るさうですね。

宮武——キリシタンの流された者が行つて居りますね。

坪野——大體あすこの傳說として、メナドの北端即ちセレベスの名はセレブレス岬からと稱せられ、岬とフイリツピンとは昔は通じて居つたものが、地震か何かの爲に陷沒したのだと謂ひますね戰國時代に八幡船あたりが行つたのかも知れませぬが、要するに日本人が彼處を征服して雜婚したのが現在のメナド方面の人間だと云ふことで、非常に日本人に近いし似て居ります。

宮武——德川時代のキリスト教を禁じた時分に向ふの方へ信者を流したから、さう云ふやうな連中が大分行つて居るらしい、それは事實らしいですなア。

伊藤——向ふの人間が來て、日本人の人間になつたのもあるやうですか、逆輸入ですね。

宮武——兩方ありますね。向ふからも來て居るでしよう。現に日向の靑島に熱帶植物が澤山來て居つて、南洋系統のものが日本の方に來ると同時に、こつちからも向ふへ行つたものでしよう。相當人事の交流が行はれて居つたに違ひない。

坪野——事實繪で見る日本の神代の風俗と、今日ボルネオの或地方に見る風俗とは非常によく似て居ります、或學者はダイヤ族は我々と同じ祖先の子孫でないかと云ふ說を唱へて居ります。臺灣の紅頭嶼の原住民は殆どダイヤ系統でありまして色々の傳說がある譯でありますが、大體に於てよく似て居ります。此の間ボルネオの方にちよつと旅行して來た者が、ダイヤ族は日本人そつくりだどうも我々の先祖は南方の人間で、今我々は又祖

先の土地へ歸つて行くのだと言つて居りましたが非常によく似て居ります。

近藤——同じやうなことが建築にありませぬか日本の神社建築は向ふのものによく似て居ると聞きますが。

坪野——セレベスの土俗建築は日本の宮造とそつくりです、遠くから見て居れば、お宮さんのやうな恰好をして居ります。

近藤——森田君、南洋と日本ぢや似た所があるのでありませぬか。

森田——似た所がありますなア、それは系統的にどう云ふ關係があると云ふことは證據立てられないですがね、例へば棟持柱にしても同樣の形式があるけれども、まア何處にでもあるもので、棟を支へようと思へば、あゝ云ふ柱が要るんだからそんなものを見ただけで同じ系統だとは簡單に言へないけれども、系統を想はせる所はありますね大體自然發生的な形式であるか、文化傳播による形式であるかは充分な材料に就て研究した上でないと云へないでせうが、日本の建築には矢張り南方建築の要素が非常に多いでせうね。

伊藤——今の日本の建築は南の方が大分強いのでないかと云ふ氣持がするのです。大體寒さに對しては餘り考へて居らぬやうですなア……。

錦田——向ふの建物の寫眞を見ますと、地上から6尺位上に床があるやうですが、あれは氣候とか生活樣式とかに關係して居るのですか。

坪野——あれはマレー系統です、セレベスは家の建て方はマレー系統なんですが、同じ蘭印でもジヤワに行きますと、地上から直ぐ床です、又スマトラのアチエ邊りに行くと、矢張り脚が附いて居ります。

錦田　脚の高いのが立つて居る所は、あゝしなくちやいけないのですか。

森田——濕帶地の水の浸くやうな所は必ずあゝやつて居りますね。

坪野——マレー方面の如く虎や豹の居る所なら護身的な立場から必要と思はれるが、セレベスのやうな全然猛獸がゐない所で、同じ建物をやつて居るのはどうか、我々の考へ過ぎかも知れませぬがね。

錦田——あの下を何かに使つて居りますか。

坪野　物置ですね、薪とか、豚とか、鷄とか色々のね。

森田——內南洋でも床を高く上げて居る所と、さうでない所とあります、パラオは床を上げてゐるが、隣のヤツプは地面に床を作つて居るのです大體二つの系統があつて、濕地帶へ住んだやつは床を上げ、山の方へ行つたやつは上げなかつたと云ふこともありませうが、今では傳統的な形式になつてしまつたのではないですか。

伊藤——日本の古い建築は床が高くなつて居つたのが、段々と下つて來て居るのでないですか。

森田——そんな氣がしますね。

齋藤——僕は素人考ですが、インドネシヤ人、大和民族、漢民族と三つあるとすれば、其の三つがそれぞれ特殊な所もあり、共通點もある。大和民族とインドネシヤとは共通點が非常に多いけれども、大和民族と漢民族とは共通してゐない點が多い、それは顏にしても、日本人と間違へる位よく似て居るけれども、漢民族とは殆ど間違へない。外國でも支那人は支那人と分りますが、インドネシヤ系統のやつは日本人的で、話でもしなければ、ちよつと分らない。尙衣食住の點から言つても、衣服に於ては大和民族と漢民族とはまるで違ふ、處が大和民族の太古の服裝はインドネシヤ人の服裝とよく似て居ります。或は體に著ける褌とか腰卷と云ふ風なものは大體南方民族の使つて居るもので、北方民族或は漢民族は使はない、又食糧にしても、漢民族、蒙古民族などは脂肪分の多い食物を攝りますが、大和民族或はインドネシヤ人は脂肪分の少い食物を多く攝ります。更に住居の問題に付ても支那の方では床は全然瓦敷で、北方と同じ系統ですが、日本は先程お話のやうに神社建築のやうな床を造つたり、庇を造つたりした住宅が多い。そんな風で、僕は南洋の方はちよつと旅行で通つただけで、詳しいことは知りませぬけれども、どうもよく似て居るやうな氣がするのです。それだけに漢民族と大和民族と近いと云ふより、インドネシヤ人と大和民族の方がより近いやうである。隨つてインドネシヤ人を統轄するのは、それだけ漢民族よりやり易いのではないかと思ひます。

伊藤——室伏さんの書いたものを見ますと、日

本民族の主力は北の方から來たのでないかとありますが、建物の方から見ると、南の方の影響が強いやうな點がありますね。

宮武——日本の建物はアイヌ系統の北方民族のものが主になつて居りますが、肌に著ける褌とか腰卷は南方民族のものであります、さう云ふ意味に於て折衷して居るのです。

岩倉——あの水浴なんかは代表的なものであります、どんな貧民階級でもやります。

小林——川の中に入つてやるのですね。

岩倉——水浴をすることは身を淨めると云ふ意味なんだらうと思ひますが、大抵朝早く起きて、一遍やりますが、洗濯もすれば、顏も洗つて居りますし、迚も滅茶苦茶です、水に入ると云ふこと其のものが神聖だと云つたやうな觀念があるのでないかと思ひます。よくヨーロツパ人がプールの非常に水のきれひな所で、男女が嬉々として享樂的な水浴をやつて居るのに、其の直ぐ裏の泥川には原住民が水浴して居つて、何かしらヨーロツパ人の爲に原住民が非常に壓迫されて居るやうな工合に宣傳されて居りますが、彼等にすればそれで滿足でないかと思ひます。それだけ壓迫されて居りましても、教育もされて居らぬから、無關心で居ると云ふ點もあるかも知れませぬ。それ等は研究すべき問題でないかと思ひます。

宮武——向ふの人だつてきれいな水に浸りたいけれども、經濟的な理由で出來ないのでせう、ジヤワ邊りは川が汚いから、已むを得すそれでやつて居りますので、別に汚い水を選んで居る譯ではないと思ひます。きれいなのと汚いのと二つあれば、きれいな方に行くのでないかと思ひます。

錦田——川はきれいなものでないですか。

齋藤——佛領インド邊りは水は汚いけれども、山へ行けばきれいです。スロープがありませんから、自然に赤茶けた色になるのです。

宮武——人が入つてチヤブチヤブやれば、きれいな水でも相當濁つて來ますね、其處で洗濯でも何でも皆やるのですから、濁る譯です。

伊藤——風俗の問題は後で又色色の問題に關聯して出て來ることと思ひますが、先程お話のあつた病氣の點でありまして、ペストがあると云ふ話でありすが、向ふへ行つたら、えらい病氣が澤山あるやうな氣がするのですけれども、病氣にはどんな病氣があるか、一つ聽かして戴きたいと思うて居ります。

岩倉——私はジヤワに6年ばかり居りましたがマラリヤに一遍も罹りませぬ。又向ふに居られる日本人の住宅は皆衞生設備が宜しいし、運動もよくして、うんと汗をかいて體を輕くしなければいかぬと云ふ習慣も出來て居りますから、胃腸病などは少いのでないかと思ひます、要するに向ふへ行つて居る日本人は非常に攝生して居られるやうです。御飯でも內地米程粘り氣がない、ジヤバ米は外米の中では良いのでありますが、少し冷えますと、ばらばらして粘り氣がありませぬ。鄕に入つては鄕に從へでありますが、食物なんかも粘り氣がありませぬが、それで宜いと云ふ關係があるのでないかと思ひますね。

伊藤——南洋諸島のパラオやなんかの方の主食物は何でありませう、米が出來るのでせうか。

森田——芋類です、澱粉ですね、パンの實とかタピオカとかの。

近藤——此の頃は大分內地の米を食ふやうになつて困ると云ふことです。

坪野——病氣は第一マラリヤで、其の次はアミーバ赤痢、チブス、コレラ其の他ペストも偶にはあります。

齋藤——是は各地で大分違ひませうけれども、例へばフイリツピンでは、統計を見ますと、主な食糧は非常な輸入ですね、昭和14年には米を8萬3千噸、小麥粉10萬噸、其の他の色々な食糧を3萬噸輸入して居ります。併しそれ程米が出來ないのかと言ふと、さうではない、作れば充分出來る筈だが、人間が怠情であるから、作らないのでないかと思ひます。

古久保——作らないのか、作らないやうに政治をして居るのでないかと思ひます。

齋藤　それは主に砂糖でないですか。

古久保——一國民の怠情と云ふより英米の政策です、例へば泰とか、ビルマとか、世界的の米の產地でありますが、殊に泰なんかはお米だけで持つて居る國ですが、それは要するに泰人が米を作るのでなく、英國が彼處で米を作らせなければ自分の領土が困ると云ふので、政策的にやらして居る

と言ふ方が宜しいですね。

齋藤——それで1940年の統計でフイリツピンへ輸入して居ります米が、泰からは幾らですかな、佛印13萬噸、其の他色々な所から3萬8千噸、それを見ますと、今仰つたやうに、フイリツピンにアメリカが政策的に作らさせないで、他の國から入れて居る、又例へば砂糖なんかも、或一定の量まではアメリカへ無稅で入れてやるけれども、それ以上は稅金を課けると云ふ政策を執つて居ります。さう云ふ譯で自然に色々のものが出來なくなつて居る傾向が多分にあるのであります。フイリツピンにしても、泰にしても、其の土地の氣候風土から言へば、米より棉花なんかを作つた方が宜いやうですが、泰國に棉花を作らすと、インド棉が困り、フイリツピンに棉花を作れば、米棉が困ると云ふので、棉花を作らさなかつたのでありますそれが從來の政策だつたのですが、今度の大東亞戰爭で、フイリツピンなり、泰なりが日本の勢力範圍になるとすれば、强いて從來の英米の政策を其の儘踏襲して、米ばかり泰に作らせ、麻ばかりフイリツピンに作らせる必要はない。結局日本の立場から、棉花が足りなければ、棉花を作らしたら宜い。要するに從來のさう云ふ南方方面の各地の生產額の數字は此の際一應抹消してやつて宜いのでないか、即ち總て日本の立場から斯う云ふ方面の生產を考へて行くべきでないかと云ふ風に僕は考へて居るのであります。

岩倉——今のお說非常に御尤もですが、僕は素人ですけれども、現在棉が非常に必要だから、澤山な米を作ることを廢めて、棉を作れと云ふやうなことも考へられませうが、インドが直ぐ日本の勢力下に入ると云ふことも目先に見えて居る、果してインドが日本の勢力下になつた場合、泰の米を棉に換へて、インドの棉をどうするか、棉に代へて何を與へるか。

古久保——それは現在の場合泰に棉花を作つたら宜い、　　と云ふことを申上げて居るので、從來泰は米ばかり作り、フイリツピンが砂糖ばかり作つて居るのは、要するに英米が政策的にやらせるのであるから、今度日本の勢力範圍のものになつたら、東亞共榮圈全體を對象にして適當に考へて行つたら宜い譯です。だからインドが日本のものになつたら、當然泰に棉花を作ると云ふことは無意義ですね。

岩倉——今棉花のお話をしなすつたが、棉と云ふものは非常にデリケートな作物で、試作を百町歩位ではどうかと思ひますが、マア5百町歩位やつて見て、新しくやつて行かなければならぬと云ふ技術的な問題もあり、又南方に對して今お說のやうに砂糖を作らせ、棉花を作らせなかつたと云ふことは、それは勿論現實に其の通りで、ジヤワにしても、フイリツピンにしても砂糖會社は降々として居りますけれども、棉作會社と云ふものは一つもありませぬ、棉のプランテーションは採算が非常に惡い、それは英米の政策から來て居るのか知りませぬが、原住民には餘り棉作觀念はありませぬ、砂糖會社には强制的に棉花を栽培せしむると云ふのが大體の行き方でないかと思ひます、砂糖會社は儲かるのです。

齋藤——唯問題は、從來英米は砂糖が足りないし、ゴムが足りない、砂糖なりゴムを作つたら、それを高い値段で買つてやると云ふので、原住民が作つて居つたのですが、之が全部日本のものになつたら、結局砂糖にしても、ゴムにしても非常に殘つて來る譯ですけれども、ゴムなんか泰の生產額は約350萬噸、佛印も大體それ位で、ビルマは5000萬噸位です、そんなものが全部日本に來たら、迚も消化出來ない。之が有り餘ると云ふことになつたら、當然相場が下つて來る譯であります相場が下つたものを原住民としても欣んで作る譯がない。ゴムを作るよりも餘計買つて呉れる棉花を作ると云ふことに奬勵しなくてもなつて來るのでないかと云ふ風に考へますがね。

岩倉——棉は氣候に對して非常に敏感な植物でありますが、先に雨量のお話が出ましたけれども砂糖畑は大體に於て棉花が出來る筈であります。雨期と乾燥期とけじめがありますから出來ます、マレーやボルネオの一部は非常に雨が多いから、出來ませぬ、佛印なんかは確か所用の棉花の一割位より自給出來てゐませぬ。

古久保——私は事變前に泰に參りまして、ツイ先日泰から歸つて來ましたが、フイリツピンの事情は餘り知りませぬので、泰の事情を申上げますと、1935年に泰の政府が日本の農學界の權威三原

博士を泰に招聘しまして、棉花が泰に出來るかどうか研究させたのでありますが、三原さんの研究された所に依ると、泰程棉花の栽培に適する所はないのださうです。雨期と乾期がしつくりして、種を播いて刈取るまでがうまく行くのと、泰の全體の土質が非常に平均して居るのださうです。棉花のやうなあゝ云ふ大規模生産の原料となるものは、地味が違つて色々な種類の棉花が出來るのは非常に困るので、地味が一定して、同品質の棉花が出來るのが最大條件ださうですが、泰の土質は何處の土質でも一緒だそうでありまして、三原博士の報告に依ると、泰は棉花の適作地あつて、之を5年計畫でやれば100萬瓲位簡單に穫れると云ふことです。それで泰の政府が其の方針でやり掛けた處、英國から抗議が來て、そんなことをやられては困ると云ふので、中止しまして、現在の處泰の棉花の生産は2萬瓲か3萬瓲位で、問題になりませぬが、今後日本人が行つて、うまく指導すれば、きつと良い棉花が出來るのでないか、現在の棉花を鐘紡の品質檢査をやつたのですが、米棉と一緒だつたさうです。但だ之をやつて居るのが土人でありますから、撰別が非常に悪いので、色々な雜物が混つて居ると云ふのが缺點ださうですが、是から撰別を上手にやつたら、米棉なんかに負けないと云ふ話であります。

伊藤——大分産業方面に深入りしちつたですけれども、今の病氣の方ですね、日本から行くとすると、又色々な豫防注射をして行かなければならぬのだらうと思ひますが、大體どんな豫防注射をして行つたら大丈夫なものですか。

齋藤——私共の方にも色々の地域に店がありますが、例へばイギリスとかアメリカへ行つて居る人々は、齒根の病氣とか關接骨の障害とか一種の風土病の樣に可なり病氣をする人もありますが、ジヤワ邊りに行つて居る者は、餘り病氣したことを聞きませぬ、又シンガポールに參りました時にマラリヤをやつたり、非常に病人が出るだらうと言つた處がそれは非常に認識不足だ、此處に5,6年居つても餘り病氣しないよと言つて居りました。それはよく寢ますし、運動をやつたり色々攝生をして居るのも原因でせう。

深山——それに英米の衞生學とか、病理學が發達して居ると云ふだけでなく、もつと日本人は南洋に向いて居ると云ふ點があるのでないですか。

齋藤——私はそれを考へるのですが、どうも南洋に行つて居る日本人は、餘り病氣にならぬと云ふことは體質當に南洋に適して居るのでないですか、滿洲邊りに行つた人は1年か2年居ると青くなつて歸りますが、南洋に行つた人は、意氣洋々として若返つて來るやうですね。

伊藤——深山さん、南洋の方には肺病はないですか。

深山——インドは世界一の肺病國と謂はれる程多いです。

岩倉——花柳病が多いですね。

伊藤——それは氣を附けなければいかぬですね

近藤——それは大丈夫でせう。

深山——蘭印方面では熱帶病研究所を盛に造りまして、萬全を期して熱帶病の研究をやつて居ります。私共も見學して參りましたが、マラリヤを昆虫に移植して、其の昆虫に食はしたりしてやつて居ります、インドではイギリスが自然陶汰主義で、餘りさう云ふ政策を執らない爲に、インドはしよつちう國際病の流行地になつて居ります。

伊藤——此の間腦溢血の心配のある人に言ふた話なんですが、君達は南の方に出て行つたらいかぬだらうと言ひました處が、イヤ腦溢血の危險のある者はああ云ふ方面に行くと、溫度が一定して居つて、却て宜いよと言つて居りましたがね。

深山——其の根據は分りませぬなア。

山本——是は素人の話でありますけれども、マラリヤは蚊から來るのが多いのでありますが、向ふの人は一般に建物の方から防禦施設をやつて居ります。

坪野——それはスマトラ、ボルネオ方面の農園關係の人がやつて居ります。詰りジヤングル地帶を拓いて農園を拵へると、蚊とか何とか色々な虫が多うございますし、其の爲に金網を張つたり、色々の防禦處置を講じて居りますが、蘭印の方にはあゝ云ふのが向くのです。私も向ふに15年間生活して居りましたが、マラリヤに罹つたことはありませぬ。だから、文明人で多少衞生思想を有つた人には先づ風土病に對する危險はないと思ひますね。

深山——さう云ふ意味で、今後日本から相當多數の移民が行くでせうが、百姓さんなどがどんどん行く場合には、熱帶病の事なり、さう云ふ環境衞生とか保健思想を相當よく注ぎ込んで置く必要があるのでないかと思ふのであります。それに對しては單に知識だけでなく、日本人向の醫療機關を相當向ふへ持つて行く必要があるのでないかと云ふことを我々の側から主張して居るのであります。此の際南方々面の保健衞生を一元的に研究する機關を速く造らないと、犧牲者が多く出來てからでは仕方がない、其の點軍隊は支那に於て痛い目に遭つたので、今度のマレー作戰では相當處置を講じて居るやうです。

齋藤——是はおかしな話ですが、皆樣御承知の通りインドへは虫除けの金網が日本から相當出ますね。又佛印邊りは本國から來るかも知れませぬが、ジヤワとか南洋方面には金網高價と云ふものは餘い樣です。大部分の金網は何處へ行つたかと言ふと、インドへ行くのでありまして、インドは可なり衞生狀態が悪いのでないかと思ひます。そんなに虫除けの金網が要る程下水設備などが發達して居ないのでないかと思ふのであります。

深山——內地でも金網が要るのです、熱帶病研究所の方に熱帶病自體に對する對策もありますが環境衞生を良くしなければならぬと云ふ風な衞生的思想が土木屋なり建築屋に入つて、衞生第一主義で環境整備をやつて來たから、抜本塞源と言ひますか、本が塞がれてしまつたのです。其の他衞生思想が發達して居る爲でありますがね。

伊藤——さう云ふ風に言つて貰ふと、建築屋も大に出て行かなければならぬことになりますね。

古久保——兎に角內地では南方を衞生的に恐れ過ぎて居りますね、南方と言へば、マラリヤとか色々な傳染病があるやうに謂はれて居りますが、決してさうでないのです、それで私はツイ先日ホンの2ケ月か3ケ月廻つて來たのですが、豫防注射でも隨分色々やりましたし、藥も方々から戴きまして、相當大きな鞄に一ぱい持つて行つたのですけれども、其の藥も一遍も使はずに又持つて歸りました。それから見ても、恐しい所ではないと思ひますね。

齋藤——斯う云ふ冗談を聞いたことがあります南洋を遠い國と考えてゐた時代、南洋は氣候が悪い悪いと大分誇大に宣傳して、だから手當を良くしてれ呉と言ふ材料に幾らか使はれたと云ふことです。內地に居るならば、月給は2百圓でも宜いけれども、どうもあんな所へ行くには餘計貰はなければならぬと云ふやうにね昔話しのことですが

宮武——統計ではペストで死ぬ者が2千人と云ふ數字になつて居りますが、ジヤウの人口4千萬の中で2千人死んでも極く僅な數であります。

深山——インド邊りに比べれば問題でないですね。

宮武——別に肺病の流行地の指定を受けてゐるわけでもない日本でも肺病で死ぬ人は2千人位ではなく、何十萬人に達するのですから、ジヤワでペストで2千人死ぬと云つても、全體から見れば小さな數字です。

森田——ジヤングルの中でも家を建てる土地を中心に5百米位の土地を拓いたらマラリヤに宜いと云ふ話を聞きました。

深山——濕地帶でなければ宜いでせう。今やつて居るやうな防火用の用水桶なんかあつては大變ですれど。

伊藤——蚊の培養器になるのですね。

古久保——衞生と云ふことで泰國の話になりますと、泰人なんかの行商人が色々なものを賣りに來ます、例へば砂糖黍とか、バナナなどを賣つて居りますね、それを泰人が買ひますと、其の砂糖黍を行商人が庖丁で皮を剝きまして、それをどろどろの川の水で、ちよつと一遍濯いでから渡して居ります。綺麗なバナナなどを1本1本皮を剝いて一遍汚い水で濯いで貰つて平氣で食べて居る。僕等が見て居ると、あんな汚い水で洗つたものを食べたら忽ちチブスになり、コレラになるだらうと思ふのですが、洗ふのが當然のやうに考へて居る譯です。

岩倉——それを日本人が食ふたらどうですか。

古久保——日本人が食ふたらやられますね。

坪野——精神的にやられます。

伊藤——次に移ります、南洋方面と云ふと、それは餘り資源が豊富で、殆ど足の踏入場もないやうに聞いて居りますが、事實資源が非常に多いだらうと思ひます。今度占領して行つて、差詰め資

源開發をどんどんやるのだらうと思ひますが、隨つて建築家なんかが向ふへ行くに付ても、其の資源開發に付ての建物が多いだらうと思ひますが、石油なんか第一にやらなければならぬとして、其の外に一體どう云ふ風な仕事が多くなるか、勿論準備が出來たら住宅はどんどん造らなければならぬでせうけれども、其の外に建築方面に關係するやうな資源と云ふと、どんなやうなものが先になるでせうか。

近藤——矢張り日本本位に考へると、鑛山の開發が一番最初で、ゴムなんかは有り餘つて居るのですから、それ以上やる必要はないやうに思ひますね。

齋藤——さうですね、今までは例へば佛印あたりは本國から織製品を賣らなくちやいかぬものですから良い鑛區も掘らなかつたし、搾取的なものを賣つて居つたのですが、今度日本の立場として外國から買はないで、自給自足でやるとなると、鐵も掘り、石炭も掘ると云ふことになつて來るのでないか、農產物は默つて居つても出來、破糖だつて出來る　ですから、拵へさせて、今まで開發されてゐなかつた方面を開發して行くのでないか是が政府の方針でありませぬか、我々はよく分りませぬが。

伊藤——鐵や石炭は餘程豐富にあるのですか。

齋藤——それはあります、マレーは勿論、佛印は恐らく非常にあるでせう。

藤藤——錫、ボーキサイト、タングステン、何でもありますね。

齋藤——此れも戲談に言つて居りましたが、今に煙草も錫の紙が捲かれるやうになるだらう。今日迄の生產をその儘踏襲すれば、それ程までに使はなければ使ひ切れないだらうと思ひますね、日本の石鹼に使ふコプラの量は年3萬噸位でせうが椰子は年產63萬噸からあるので、日本だけで之を使つたら、朝から晚まで毎日石鹼を使つて居らなければならぬ、從つて此れを現地で工業化して、之を他の方面に使ふことを研究することが問題になる譯です、又は生產調節して他の欲しいものゝ生產に向けるとか。

深山　資源開發に關係して居る建築に付て、工場或は商家の建築は別として、あちらの海岸地區に日本人の集團住宅をどんどん作つて貰ふやうに此の際大にお願ひしなければならぬと思ふ。而して其の集團住宅を作るには、日本人の考を棄てゝあゝ云ふ熱帶圈に於ける集團建築はどうしたら宜いか、綠地帶をどう云ふ風に取入れるかと云ふやうなことを克く研究し、或は風通關係を良くし、而も雨期に於ける濕氣を豫防出來るやうな集團住宅の設計圖を今から考へて置かなければならぬと思ふのですね。

伊藤——其の前に先づ見にやつて戴かなければいかぬですなア……。

齋藤——建築と云ふものは南洋風土に適する様イギリスなり、オランダなりが、已に何10年か掛つて作つて居りますから、その特長も取り入れて見れば宜いでせう。

深山——日本人にさうした建築に生活することが出來れば宜いけれども、日本人が多く行けば矢張り坐る生活をするだらうと思ひますね。

岩倉——それはね長く居りますと、偶に疊の所へ坐つて見たい氣持も致しますけれども、矢張り鄉に入れば鄉に從ひと云ふ氣持でやつて行くのが宜いですね

近藤——南洋でも洋式に和式を加味したものを建てましたけれども、其處に入つた日本人はどうも好きませぬ　矢張り疊の上にごろつと寢ないと氣持が悪いらしい、洋式のやつは窓が高くて好いけれども、ごろつと寢るのには窓が低くなければならぬと云ふことになるのです。

深山——外國に行ける日本の人は相當理解がありますけれども、今後は普通外國へ行けないやうな日本人が、どんどん集團的に進出して行くと云ふ事になれば、矢張り日本の生活を向ふへ持つて行くやうにしなければいけないのないかと思ひます、と云ふのは、ヨーロツパ人が向ふへ行つて原住民の生活をして居るのでなしに、矢張り立派なヨーロツパ人の生活を南洋へ持つて行つてやつて居る。あゝ云ふ風にやれば宜いので、もつともつと澤山日本人が行くやうになれば、日本の生活を持つて行つてやる必要がある　是はヨーロツパ人に遠慮する必要はなし、原住民に遠慮する必要もない日本人に適する生活をやらなければいかぬのでないか、坐る生活より腰掛が宜いと云ふのは或範

圍のことで、兵營生活は百姓さんでも腰掛をする生活を日本でもやらして居りますが、あの程度の生活ならばあれで行けるのであつて、椅子式の生活が日本の全部に適するかどうかと云ふことは問題でないかと思ひます。

齋藤——現在の日本式の生活の儘向ふに移して宜いか悪いか、それは無理でないですか。

深山——それは今から日本人の集團生活を研究して置かなければいかぬのでないかと思ひます。

岩倉——通風なんかゝら言へば天井はズツと高くしなければならぬと思ひますね。

錦田——原住民の住居で一般的なものはどんな風ですか。

宮武——ジヤワなんかはよく似て居りますね、椰子の葉で編んだアンペラみたやうなもので壁を作つて居ります。

岩倉——スマトラあたりの契約苦力などの集團住宅のバラクツなどは亞鉛でやつて居ります。

近藤——內南洋は全部亞鉛屋根です、又亞鉛屋根にしなければ雨水が採れない、飲料水は全部雨ですから。

古久保——唯問題は、從來日本人の海外發展と言ふたら、滿洲とか支那大陸でありましたが、今まで日本人は滿洲とか支那方面に發展するのにも何處へ行つても日本人の生活を持つて行かなければ承知しなかつた。廣東へ行つても、上海へ行つても、天津へ行つても、哈爾賓に行つても、疊を敷いて味噌、醬油、豆腐を食はなければ承知しないのが日本人であつた、それが爲に日本人の海外發展がどれだけ阻碍されて居つたか分らない、兎に角日本人位同化性のない國民はない　是は一面に於て非常な長所ですけれども、又一面海外に發展する爲には、さう云ふ因習に囚はれ、何時までも日本の生活に戀々として居つたのでは本當の發展は出來ないと思ひます。從來は滿洲とか支那と云ふやうな極く近所であつたから宜いですけれども、今度大東亞共榮圈となりますと、隨分廣いものです、佛印、泰、マレー、ジヤワ、濠洲、インドと云ふやうな所まで疊を持つて行き、味噌、醬油、豆腐を持つて行くと云ふやうなことをやつて居つたのでは日本の本當の發展は出來ないと思ひます。今度は好まなくても南方共榮圈の各民族に同化させるやうにする政策を執らなくては政策的にどうかと思ひます。是は一つの理想論かも知れませぬが、餘りに日本內地の生活と同じ生活をやらせると云ふことになると、經費も非常に掛ります。土地の生活をやつて、土地の產物を食べて居れば非常に安く生活出來るのですが、外國へ行つて、疊を敷いたり、味噌汁を吸はうと思ふたら隨分高價なる生活費を要します。從來は相當インテリの連中が海外へ出て行つたから、それでも宜かつたか知りませぬが、今後は一般大衆が多數出て行くのだから、さう云ふ餘り經費の掛るやうな生活は此の際除去してしまふと云ふのが政策的に見て宜いのでないか、勿論住み心地とか何とか云ふ點から言ふたら、深山さんの御しやる通り疊式の生活が宜いに極つて居りますがね。

深山——さう云ふ意味から言ふと、西洋人はヨーロツパの生活を改めて、原住民式の生活をしなければ發展出來ないと云ふことになるのですが、事實西洋人は南洋に行つて、ヨーロツパの生活を向ふに移し、アツト・ホームの心地を以て生活しながら發展して居る。日本人も向ふに行つて發展するには、因習を重んじてアツト・ホーム生活を與へなければ、本當に居續かないのでないかと思ふのです。其の場合味噌、醬油を持つて行くことが困難ならば、向ふで造るやうにすれば宜し、刺身にしても向ふの魚を獲つて食へばやつて行ける譯です。西洋人は絕對に刺身を食ひませぬが、日本人が向ふへ行つて刺身を食はぬ生活をすると云ふより、刺身を食へる日本人の生活、風俗習慣を保持して行けるやうにしてやらなけば、日本の植民政策は成功しない。西洋人が日本へ來ても、疊に坐らぬ、彼等は椅子式の生活をして立派にやつて居る。我々が向ふへ行つて疊に坐ると云ふことは決して悪いことでない。西洋人は日本へ來て味噌汁を吸ひ、刺身を食はなくても、立派に發展して居る。日本人が向ふへ行つて、日本の生活をして居つても、發展の妨げにはならない。誰もそんなことを心配しなくても宜いと思ひます。

伊藤——そこで唯僕等建築家として心配するのは、向ふへ日本風の建物を持つて行くとして、良い悪いは別としても、向ふで以て疊にするやうな材料が得られるか、或は建築材料として適當な木

材が得られるかどうかと云ふことで、僕達が聞いて居るのはラワン材とかチーク材と云ふやうなものですが。

坪野——チーク材は餘計ないので、矢張りラワン材でありませす。殊にセレベスは非常に木が多いのです。それで板も拵へられますし、勿論藺もあれば、藁もありますから、疊も出來ない譯ではないのであります。原料其のものはあるのですから、是は向ふでも日本人が指導すれば、簡單に出來る譯であります。又タイルを製造し、煉瓦も拵へて居りますし、鐵材は別として、木材家屋なら向ふの木材で10分やつて行けます。

伊藤——日本の委任統治になつて居る南洋諸島なんかはどんどん日本人が行つて居る關係上、日本の木材なんかも持つて行つて居るのですか、どうですか。

森田——みんな持つて行つて居るですね、それは島が皆小さいからです。

伊藤——建築の方で見ると、木材統制が出來る關係もありませうが、或意味で日本内地の木材をあつちへ持つて行かなければならぬ必要があつてそんなことになつて來て居るのでないかと考へて居りますが、そんな心配はありませぬか。

坪野——兎に角木材には心配はない。私は專門家でありませぬが、熱と雨量の多い所ですから、木ノ生長が早いし、森林が多い。何處で建築をやらうとも、其の點は心配はないと思ひます。

山本——結局滿洲でも日本人は初は奥地へ行つても、滿洲人と同じ生活をして居りましたが、段々日本の勢力が强くなつて、日本の家が出來、疊も出來るやうになつたので、日本人は器用ですから、其の中には段々日本の家屋に適するものを拵へるやうになつて來るのでないですか。

森田——先の問題を私は建築家として建築に即してもつと具體的に考へる譯です。こつちの生活を持つて行くか、向ふの生活にするかと云ふことですが、是は實際問題として建築家としては南洋に内地と同じ家は建てられないと思ふ。氣候的にもさうだし、第一非常に大きなベランダを造ると云ふやうなことで、疊を敷く所が少くなつて來ますし、本當に坐るだけの生活はちよつとやりにくい、矢張り椅子に腰掛ける生活が加はつてくるだらうと思ひます。それは强いてやつて行かなければならぬ。是から行く人は矢張り何箇月間かこちらで訓練して、向ふへ送り出す位のことは是非必要でないかと思つてゐます。敢て向ふの生活になり切る必要はないけれども、或程度こちらの生活を保有しながら、向ふの生活に充分合して行くことが必要だと思ひます。又春夏秋冬の變化のない所で、精神生活の上でも相當違つて來ると思ひます。内地のようなデリケートな生活をしようと思つても、無理だと思ひます。こう云ふ點も建築に相當影響をもつて來るでせう。

山本——さうです、秋になつたら松茸を食ひ、春になつたら筍を食ふと云ふやうな生活は出來にくゝなりますね。

齋藤——大陸方面では日本人が家屋を造り、疊を敷いて住つても居りますが、南洋では實際に於て疊を敷く爲に特に拵へた建築物は一つも無い。普通の洋館に勝手に板を打つて疊を並べたと云ふだけの話で、疊を敷く爲に窓を下げるとか、さう云ふ考慮は全然拂はれてないのです。

森田——併しこれからはそれをやらなければならぬと思ひます。

坪野——現在の建築は相當洗練されたものでありますから、現在出來て居る建築を基本にして、それに日本式を加味配合した方が結局宜いのでないか、刺戟が少く、單調な生活をやらなければならぬから、或程度日本式を加味した住宅も必要だらうと思ひます。

岩倉——專門的なことはよく知りませぬが、天井を高くし、ベランダなんか廣く取つて、壁なんか圍壁のやうなものは一切拵へずに、開放的なものが向ふの家として住み易いと思ひますね。

森田——ヴエランダを取ること、壁に日光をあてないことゝ、屋根裏を開け放しにすることが必要なんでありますから、さう云ふ建築としては内南洋からフイリツピン、インド支那、マレーの北部等は大體モンスーン地區で、風が强いですから之を造ることは困難な點がありますが、南の方は恒風地帶で、風が穩かですから、之を造ることが樂なんです。隨つて大體北緯十度あたりを境にして建築の造り方も少し變らなければならぬと思つてゐます。

岩倉——私等はさう思ひますね。

齋藤——フイリツピンは特殊の事情ですね、要するにアメリカの物を買はす代りに、お前の方の物も或程度買つてやらうと云ふ趣旨で、今まで窘め附けて來たのですが、其處にちよつと他の地帶と違つた事情があるでせう。

山本——それと同じやうなのが佛印ですなア……。

古久保——佛印も泰もビルマも皆さうですよ。

森田——建築材はどうですか、建築が速く進めば木材をこつちから持つて行かなければならぬ。南洋の方は木がありますが、それを伐るのが大變です、道路はないし、ジヤングルですからね、直ぐ伐出すと云ふことが出來るでせうか、どうですか、セレベスとかボルネオとかチふ所に行つたら木は非常に澤山ありますがね。

近藤——フイリツピンなんか木を出して居るのですか。

岩倉——出して居りますよ。

古久保——建築に付て或は御參考になるかと思ひますが、私が泰に參りましたのは泰國の憲法發布記念博覽會がありまして、之には東亞共榮圈の一翼として泰が出て來たと云ふ關係で、日本の政府が非常に力を入れまして、劃期的な日本館を建設しました。其の建築費だけで10万圓でありますが、是までニユーヨークの外國博覽會の設計をされた山脇と云ふ人が設計されまして、あの人自身私も一緒に泰へ參りましこが、其の外に相當な大工が3人あつちへ參りました。それで山脇技師と內地の大工が3人と現地の泰人の大工を1日平均約75人位雇ひまして、約2箇月掛つて約4百坪位の相當劃期的な立派なものが出來たのですが、其の感想を聽いて見ますと、あちらの材木はチークではないらしい、ちよつと名前を忘れましこが、何とか云ふチークによく似た木ですが、非常に堅いらしい、內地から持つて行つた大工道具は一切役に立たないで、ちよつとやると齒がこぼれてしまふと云ふ譯で、結局向ふの極く原始的な大工道具を使はなければ、材木一本も截れないと云ふやうな狀態でありました。

伊藤——さうでせうね、僕達もさう云ふことは可なり心配して、どうも良い材木があるかどうか見當が附かない、直ぐチークなんか　頭に來るものですから、矢張り日本から日本式の材料を持つて行かなければいかぬのでないかと思ひます。

古久保——結局方々板張りに使ふベニヤ板はあつちにはない全部內地から持つて行きます。南方には軟かい材木は絕對に無い。向ふの材木は實に勿體ないやうな良い材木で、しつかりしたもので餘りしつかりし過きて、內地の大工道具ではちよつと間は合はないと云ふ話です。

岩倉——恐らく木は區々で、種類は非常に多いと思ひます。單一の建材を揃へると云ふことは困難だらうと思ひます。

坪野——西洋人はコンクリートの家とか、石造の家に住つて居る譯でありますが、日本人が行つて同じやうなことは出來ないので、現地の材料を使つて自分達の生活にふさはしい建築、所謂西洋館を造るのでありますが、さう云ふ式で木材が南洋で十分得られないとすれば、現地の鐵とか、其の他のものを使つて、日本の固有の生活から餘り遠ざからないやうな建物にするやう十分考慮された日本人向の家を造ると云ふ事を考へて戴くことも一つの方法でないかと思ひます。日本の建物も必ずしも木造でなくても出來るのでないかと思ひます。現に近頃の防空用のものも餘り板を使はずにズツと壁で造つて居りますからね、あゝ云ふ風にすれば大した費用も掛けないで日本家屋が出來るのでないかと思ふのです。

伊藤——現在どうでありませうか、一般には木造が多いのですか。

坪野——一般住宅と言つても、ヨーロツパ人と支那人と原住民と、それぞれ其の住宅は違ひますが、ヨーロツパ人は大體に於て煉瓦をセメントで固め、床は全部タイルです。屋根は向ふの木材を使つて、瓦の家もあれば、木を重ねて瓦代用にして居る所もあります。支那人の家屋は一般的に見て木造で、大體2階建が多いのですが、ヨーロツパ人の家が全部2階なしです。だから向ふでも隨分立派な木造家屋もあるので、さう云ふ方面の心配はないと思ひます。

伊藤——話は違ひますけれども、山本さんどうです。建物の方も形式の方も相當研究されて居るのですけれども、向ふの風物と建築の調和と云ふ

やうなものに付て何かお考はありませぬか。

山本——さうですね、西洋人のやつて居る家なんかを見ますと、田舍では殆ど木造でございますね、市街地で日本人が住んで居る所は矢張りマレー人か支那人が多うございますが、大抵煉瓦建で天井板なしのものが多いですね、我々の住んで居りましたものは、2階で莫蓙を敷いて生活して居りました。寢臺もありますし、さう云ふのが生活し易いですね。

坪野——我々が單に事務的の事をやるのは大したことはないのですが、本當に肉體勞働をやる人は矢張り脚を伸して日本式の肱枕で寢ぬと疲れが直らないのです、英領ボルネオタワヲ附近の農企業に從事してゐる日本人移民はどうも椅子では疲れはとれない、やはり日本人は横にならないとなど言つてゐます。

深山——さう云ふことをやれるやうにしなければ、本當の發展は出來ないのでないかと思ひますさう云ふものを造つたからと言つて、西洋人も憤慨せぬし、向ふの原住民だつて怒りはしない。日本人が日本人の生活をするのに誰にも遠慮は要らぬのでないかと考へるのであります。

近藤——大體向ふの住民の生活は日本と同じものでないですか。

深山——矢張り原住民をして尊敬の念を起さすだけの嚴肅さを持つて居らなければいけないと思ひます。日本人の生活と、其の他の生活と比べて日本人の生活は餘り自慢の出來るものでないと思ひます。さう云ふ方面に付ては今後大に注意しなければ、日本人は戰爭には强いが、國民生活自體はあの程度だと云ふやうな考を有たれる虞がありますから、其の點十分警戒しなければならぬと思ひます。

山本——其の點我々建築に携つて居りまして、どう云ふ感じを有つて居るかと云ふと、向ふではポルトガル人等が割合に小ましな家に住んで居りまして、寧ろ日本人の生活の方が見た所何だか劣つて居るやうな所が多いのであります。勿論三井三菱と云ふやうな大きな商賣人は別としまして、一般の商賣人は借家でやつて居ります。是から大に進出して戴くのであれば、向ふの住宅と日本の住宅の好さとを織まぜた大東亞型の住宅と云ふものを拵へて戴いたらどうかと思ひます。

伊藤——大下さんどうです、住宅營團　　も一つ奮發して大東亞共榮圏の型をそろそろ創めなければいかぬのでないですか。

大下——南方住宅營團が進出しなければいかぬのでないかと思ひますね。

齋藤——内地も少し家を拵へて貰はぬと、借家捜しで苦勞をして居ります。

伊藤——南方の建築に對して何か型と云つたやうなものがあつたのでないですか、前に南洋諸島に對する何か案を諸大家でお作りになつたのでありませぬか。

森田——臺灣の大倉君の方で研究會を作つて研究して居られるそうですが、一つやらなければいかぬですね、日本建築協會でさう云ふ風な委員會でも造つたらどうですか。

伊藤——どうも建築家の方では經驗が少いのですから、今日は一つ教へて戴きたいのです。京都大學の方は相當研究されて居るやうですが、

。

近藤——南洋では官舍建築は殆ど型が出來て居りますね。

森田——出來てゐますが、それは内地のと殆ど同じ型なのです。

伊藤——前に武田先生なども關係させて研究されたのでないですか。

森田——よく知りませぬが、向ふへ行つたら、日本人の生活感情を持つて行つても、矢張り違つた建築が出來るのでないかと思ひますね、充分な研究が必要ですね。

深山——其の日本人向の家を造る場合に、先程山本さんのお話もありましたが、どちらかと言へば、日本の上流階級の人が住む家を造つて、勞働者にも住はせてやるやうにするのですね、ドイツの勞働者住宅は、上流社會の人が住むやうな、十分空地もあり、青い所もあつて、明るい部屋もあると云ふやうな建築を造つて提供して居るやうな譯であります。日本の勞働者が南洋に行つた場合には、内地に於けるよりも、更に高等な住居生活が出來るやうなものを提供してやるやうにしなければならぬと思ひます。

大下——僕達も熱々さう思ひますけれども、どうも日本人は衣食住と言ふて、衣食住の中で住を一番輕視して居ります。殊にえらい人は建築屋が少し言つた所で、相手にしない。唯間に合せで、早く造らうと云ふことになりますから、本式のものは出來ないで、間に合せのものが出來るのです

森田——殊に南洋では餘計其の危險があります竹の柱に茅の屋根で、兎に角住めるのですから、滿洲ではさうはいかぬのですが。

坪野——御參考までに申上げますが、蘭印に於ける住宅は殆ど光線の入らないやうに出來て居ります。常に光線の中に生活して居るので、それ以上の光線を入れる必要はないのです。

錦田——一個々の住宅の話は大分分つたやうな氣がするのですが、蘭印方面のバタヴィヤ、スラバヤと云ふやうな都市の中はどう云ふ風になつて居りますか、矢張り密集地帶があつて、其の周圍に閑靜な住宅地があるのですか。

齋藤——住宅地帶と密地帶と分れて居ります。

錦田——それは大阪みたやうになつて居りますか。

岩倉——此の頃のジヤワは違ひますが、十年程前のジヤワは農業立國でありますから、日本のやうに工業都市の密集地帶と云ふのはない、バタビヤでもスラバヤでも海岸地帶は比較的暑いので、寧ろ海拔3千呎、4千呎と云ふ山地の方に原住民の人口は密集して居ります。都會は工業がありませぬ關係上、工業に關聯したる工人の住宅地は、大阪で言へば港區と云つたやうな所はないのです。

坪野——大體支那人の商業地は下の方を事務所にして、2階を寢室にすると云ふ風でありますが歐米人なり、日本の大會社などのちよつとした店は、住宅地と全然別になつて居りまして、住宅地は住宅地で一緒になつて居ります。それが商業地になると、全部櫛並に列んで居ります。支那人の密集地帶は2階建が多いのです。さう云ふ所を借りて、其處へ疊を入れたりして居る人がある譯であります。大體住宅を持つて居りますから、住宅は今お話の通り一軒毎に獨立して立派なものであります。

錦田——さうですか、さうすると、商層ビルデイングは全然要らないやうな氣がしますが、矢張りありますか。

古久保——矢張りありますけれども、實際問題としては少い。

坪野——實際問題として空地が多い爲にさう云ふ必要がない、上に伸して、下に潛る必要はないのです。

錦田——唯美觀を添へると云ふ程度ですね。

伊藤——どうも色々と御意見なり何なり聽かせて戴きまして、大に參考になりました。何れ此の座談會の記錄を整理しまして、建築と社會誌上を飾りたいと思うて居ります。今後とも建築方面でお氣附の點がありましたら、御指導を仰ぎたいと存じます。どうも有難うございました。〔終り〕

（昭和17年1月30日夜速記）

勞務整調令について

松田德太郎

かねて御依頼がありまして私の勞務調整令に關する話をお聞きになるといふことでありましたがむしろ普通の講演會の如き講演をするよりも各係のものが出席致しまして極く和やかのうちに皆様の質問を承つてこれに對する答をする、しかもその質問は抽象的でなくしてなるべく自分の立場から考へて實際にぶつかつたときに解決しなければならないやうな問題を取上げて回答を求める、また答へる方と致しましても從來取扱つて參りました上から考へまして、かういふ點はかういふ風に御理解になつて頂きたい、またかういふ準備をして頂きたい、更にまたかういふ問題はかう考へれば簡單に濟むのだといふやうなことを十分にお示しすることが出來て非常に結構ぢやないか、さらにまたもう一つの問題は近頃の指導所はいろいろ新しい法令が公布されました關係上、これを取扱ふものが幾分官僚式になつてゐるやうな傾向があるとみられてゐるのでありまして、さういふ様な氣持をお互にもつことは法令の趣旨徹底上、即ち國家が此の法令を實施してその效果を狙つてゐる上からみて、どうしてもさういふやうなお互の考へ方があるといけないと存じますので少くともこの機會に係りのものゝ顏をよく覺えてゐて貰つて、皆様がいろいろ申請をするとか或は分らぬところを解釋して貰ふといふやうな時に顏なじみをもつて遠慮なしにお互が質疑應答ができるやうになれば非常に皆様の仕事の遂行上好都合ではないか、かやうに考へましたので、本日は各係を滯同致しましてこの席に參つた次第であります。從つて私はこの調整令の解釋をするといふよりも各係を皆様が和やかな中に目的を達するやうに致した、かういふ考へから今日の催を致したやうな次第であります。

特に此の際申して置きたいと考へます事柄は、どうも從來日本人は各種の物資に缺乏致してゐたわけであります、凡ての產業の成立には物資と勞力と言ふものが必要であります、此れは經濟の原則から當然でありまして、この物資を勞力と言ふものが必要であるにも拘らず我國は人口過剩に過去を過してゐますので、人のことは餘り重きを置かないで參つたのであります。いかにしてこの過剩なる人口をコントロールするかといふことに頭を使つて參りまして、人といふ問題に就いては餘り重きを置かなかつたのであります、ところが物資には缺乏してゐるから品物、資材といふ點になると血眼になつてこれが充足に全力を注いで來たのであります。資源の豐でない國と致しましてはまた當然のことゝ考へらるのであります、然しながら事變以來わが國の戰果は中天に太陽の輝く如く偉大なるものがあるのでありますが、この偉大なる戰果の陰には多大なる勞力を要求してゐると言ふことを考へなければならないのであります。此れは第一線であると、銃後であるとを問はないのでありまして、ことに第一線のこの活躍に相呼應して銃後に於る聖戰目的遂行のために各種の產業はその生產力の大擴充を致さねばならないのでありますが、同時にまたその生產は國家目的のために聖戰遂行のために必要なる產業を中心と致しましてこれが擴充に一大努力を致さなければ相ならぬことになるのは當然であります。

從ひまして近代戰が一大科學戰であり大消耗戰であるとするならばその使用されたる物資の補充とさらにこの先何年續くかわからないこの大聖戰を遂行して參ります上から致しまして、將來に備へるために產業界は著しく飛躍進展しなければならないのであります、從つて生產に要する物資のみならず勞力の完全充足を希望することはむしろ當然であるのであります。

然しながらいかに澤山の人的資源をもつてゐる日本と雖もこの近代戰に對應して行くために生産力の擴充をやつて行く上からしては、この人的資源では十分とはいひ得ないのであります、でありますから此處に最も國家に必要なる方面に人を十分に差向け比較的國策に副はないといふよりもそれほど重要性のないと思はれる方面から人的資源を廻すといふことが必要となつてくるのであります。從來の自由經濟主義はこの聖戰目的を遂行するためには十分ではないのでありますので、こゝに統制經濟となりさらに計畫經濟を行はなければならぬといふ今日に至りましてはこれまた當然の處置とみなければ相ならぬのであります。

從ひまして或は過去において從業者の雇入制限令を實施し、又移動防止令を公布せられ、さらにまた青少年雇入制限令を實施されるといふ事になりましたが、これのみによつても足らないと言ふことになりまして、更にこの移動防止令ならびに青少年雇入制限令のやうな法規を一緒に混ぜて更に一歩進められたる法令が實施されるやうになつたのであります。此れが即ち今日お聞きにならんとする勞務調整令そのものであります、從つてこの勞務調整令はこの非常時局におきまして人的資源確保の上から最も大切なものでありますので、その第一條におきましてかういふことが書かれてゐるのであります。『國家ニ緊要ナル事業ニ必要ナル勞務ヲ確保スルタメニスル國家總動員法第六條ノ規定ニ基ク從業者ノ雇入、使用、解雇、就職及ビ退職ノ制限ハ別ニ定ムルモノヲ除クホカ本令ノ定ムルトコロニヨル』此ういふことになつてゐます、從つてこの法令を中心と致しまして今後の勞務行政は行はれることに相成るのであります。

この調整令の重點と致しますのは、從業者の解雇及び退職の制限、從來は從業者は自由勝手にこれが許されたのでありますが、この法令の實施によりまして或る例外を除く他は自由に處置することが出來なく相成つたのでありまして、更に又もう一つ重要な點は、從業者の雇入、就職及び使用制限であります、從來は自分で雇入れんとするものは思ふ存分に雇入れることが出來たのありました、また自分が雇はれ就職しやうと思ふのであれば自分の好きな所へ就職も出來たのであります、また雇傭關係でなくとも自分が人を使はうと思ふときには自由に使ふことが出來たのでありますが、これまた制限を受ける事となつたのであります。

因よりこれには例外が設けらてゐますが大體において制限を受けることになつてゐるのであります、更にまた、新しく學校を出ますもの例へば國民學校を出るとか中等學校を出る、この方にも勝手に自分の思ふところへ行けないし雇入れる方もむろんその通りであります、これから新たに卒業するものゝ處置に關しましては面倒な規定が設けられ、又詳細なる本省の方針がありまして皆樣の直ちに考へ通りには處置が出來ないことになつて居るのであります、その他從來皆樣と關係のある勞務の供給者との關係、これも相當に面倒なことになつて參りまして簡單に處置する事が出來なくなつてゐるのであります、その他いろいろの點におきまして制限を受け取締をされ皆樣の事業の遂行上不便な點が多々あらうと思ふのであります。

しかもこの法令を檢討すれば檢討するほど實際に當りまして疑問が出來さらにお困りになるやうな點も出て來る事と思ふのであります。然しながらこの法令の實績を擧げなければ眞の生産力擴充計畫を遂行することが出來ない延いては聖戰の目的を達成することが出來ない樣なことに相成るのでありまするから、これらの法令の制定の趣旨を十分御手得になりまして、官民相互に緊密なる連絡の下に十分に法令の實績のあがりますやうに皆樣の御了解と熱意のある御協力を願ひたいと思ふのであります。

私の申上ます事は極く輪郭に止めまして、これから私と同性の松田君に法令の細部につきまして御說明をすることに致します。さらに係から應答させることに致しますから御質疑を願ひたいと思ひます。

（講師は大阪國民職業指導所長
昭和17年2月18日講演會速記錄より）

勞務調整令の解說

松田正太

私指導所の調査係長の松田であります。只今所長から勞務調調整令の趣旨を詳しく御說明がありましたので、私は條文の解釋につきまして簡單に御說明申上ます。

まづ勞務調整令の第一條には調整令の目的といふことが書いてあります。即ち國家に緊要なる事業に必要なる勞務者を確保するために、この調整令が作られたといふことをはつきり書いてあります。全くその通りでありまして、緊要でない事業の勞務者は確保しないが、緊要なる事業の勞務者は確保しなければならない。不急事業の方は手が廻りかねるといふことになるわけであります。御承知の通り勞務資源といふものは非常に窮窟になつて參つてゐますので、平和產業方面、不急產業方面におきましては、うんと人手を節約して頂きまして、そこから出てくる餘剩勞力を時局產業方面に集中しなければならぬといふのが、この調整令の役割になつてくるわけであります。この調整令は國家總動員法第六條に基いて制定せられてゐます。從ひまして、罰則も總動員法の罰則の適用があるわけであります。つまり1年以下の懲役または千圓以下の罰金が科せられ、雇主のみならず就職者をも規制してゐますので、違反がありますれば就職したものも處罰するといふ徹底したものになつてゐます。

第2條は從業者の解雇、退職の制限の事を規定してゐます。從來の移動防止令をさらに强化致しまして、解雇、退職をも自由にさせない、解雇、退職がなされるには一々職業指導所長の認可を要するといふ制度になりました。工場なり事業場なりに勤めてゐる人は、どこでも解雇、退職が自由に出來ないかと申しますと、さうではありませんで、厚生大臣が指定致します。特に重要なる工場とか、鑛山とか或は事業場、その指定を受けたところのみが退職制限或は解雇制限を受けるといふ事になつてゐます。そして指定の方法は大臣が一々何々工場、何々鑛山といふやうに、個々の工場なり事業場なりにつきまして指定を致します。そしてこの指定通知書は大臣から大阪府知事に送つて來て、府知事は各工場主、事業主にこれを手渡しまして、各工場なり事業場はこれが來ましてはじめて制限が實施せられるわけであります。それは現在のわが國にとりまして、最も大事な工場から順次指定せられることになつてゐます。そしてこの指定を受けました事業主は、全從業員にその旨を言渡さなければならないことになつてゐますなほその後に採用になつて新規に入る人にも洩れなく傳へなければならないことになつてゐます。其れからこの制限を實施する工場に指定された工場におきましては、原則として全從業員が、この制限を受けることになるのでありまして、工場長も、技師も、職工も、事務員も、小使、給仕も、男も女も皆制限を受けるのが原則であります。但し大臣が女子は制限するに及ばないと考へたときには、但し女子は除くといふ但書を附けまして、指定された範圍の男子のみとか、職工のみを制限するといふ條件を附けるので、この條件外の人は制限を受けず、自由に退職が出來る、かういふわけになるのであります。さらにこの制限を受けた大指定事業場、工場におきましても、ある特殊な人は例外として自由に退職、解雇が出來ることになつてゐます。たとへば陸海軍への入營、應召或は陸海軍の生徒になる、或は徵用令によつて徵用せられる場合、或は日雇人夫はよろしい、卅日以內の短期の臨時雇はよろしい、或は法律によつて解雇しなければならないといふ規定のある場合はよろしい、更に事業を廢止しました場合も自由にしてよろしい、といふ例外が7つほどあります。

次に第4條に移りまして、技能者の雇入制限について申上ます。技術とか技能とか學識經驗のある人の中で、厚生大臣が特に指定致しましたものを技能者と名づけます。これは厚生大臣が百卅四種の職種と工業學校以上の工業、鑛山關係の學校卒業者と、自動車の運轉手、電話交換手などの免許或は試驗合格者、或は檢定合格者といつたやうな種類の全技能者として指定致してゐます。その範圍は簡單に申しますと、國民登錄の要申告者と申しまして、國民登錄の中の技能登錄をする義務のある人と殆ど一致します。但し年齡の點において登錄は16歲以上50歲末滿となつてゐますが、技能者は14歲から60歲まで、女子は14歲以上40歲までとなつてゐます。

女子も三ケ月以上經驗ある人は技能者であり、電話交換手の免狀をもつてゐる人は技能者でありまして、この點は登錄と大いに異つてゐるわけであります。それから職種におきまして、登錄には百卅四種のほかに大工、左官、蕎職、ブリキ職の四種がありますが、これは技能者から省かれてゐます。これは一般青壯年の雇入手續で、雇入就職出來ることになつてゐます。それから指定職種の職業を廢めてから、三ケ月以上一年未滿の經驗者も六ケ月間は技能者と致します。

この點は登錄と異つてゐます。また一年以上の經驗ある人は五ケ年間、男も女も技能者の扱ひを受けます。この女の點は登錄と異つてゐます。大體の解釋としては登錄しなければならない人は皆技能者だといふ風にお考へになつて結構だと思ひます。指定職種即ち百卅四種の職種に三ケ月以上經驗があれば、皆技能者と考へてよいと思ひますこの技能者の雇入については一人々々につきまして指導所長の認可を受けるか、指導所の紹介を受けた場合でないと雇入、就職することは出來ないことになつてゐます。認可の申請は雇主と就職者とが連署致しまして申請して頂くことになつてゐます。それから從來は移動防止令におきましては指定從業者の雇入の際には、前雇主の同意書があれば認可を要しないことになつてゐますが、今度の調整令の技能者の雇入は前雇主の同意書があつても認可を要するといふことになつてゐます。それからもう一つ移動防止令と異る點は、從來の移動防止令におきましては、指定從業者が同意書を貰へない場合には、商店方面に轉業すればよかつたのですが、今度はたとへ商店方面に轉業致しましても、或は事務員になりましても、認可を要することになつてゐます。これが從來のと異る點であります。それから技能者の雇入の際に認可または紹介を要すといふのに對しまして例外が10ばかりあります。

まづ年齡14歲未滿の男子とか、六十歲を越した男子は技能者と雖も自由に雇入れることが出來、また女子にあつては14歲未滿40歲を越したものは自由に雇入れが出來る、次には入營應召しました人が、除隊になりまして3ケ月以內に舊の雇主のところへ歸つて來る場合には自由に雇つてよろしい。それから學校卒業者使用制限令に該當する卒業者は、この認可はいりません。技能者雇入としての認可は要しないといふことになつてゐます。また官廳の雇入の場合も要しない、傷夷軍人の方で相當重傷の方でありますが、調整令の施行規則に揭げてあります程度に達してゐる傷夷軍人の方は、たとへ技能者であつても雇つてよろしい。これに匹敵するやうな身體に傷害があり、作業能力が著しく劣るといふやうな方を指導所長が認定致して、身體傷害認定書といふのを差上ますが、この方も自由に雇つてよろしい。

それから次は造船所等の方面におきまして、特に必要があつて認めた例外でありますが、鉄打工、塗裝工のやうに年中仕事がありませんで、どうしても短期間臨時に雇傭しなければならないといふ職種の人を指導所長が認定して日傭技能者認定書といふのを上げた方は自由に雇つてよいといふことになつてゐます。其れからこれからは澤山出て來ると思ひますが、營業の讓渡或は企業の合同等に伴ふ從業者の取扱でありますが、これはたとへ技能者であつても引繼いでよろしい。事業と共に人も引繼げばよいといふことになります。又船員紹介によつて船員を雇つてよろしいといふやうに十ほど例外があります。この技能者の雇入をせられた場合には國民勞務手帳に使用開始の旨と書いて報告して頂くことになつてゐます。その報告の際には手帳に添へて認可證なり、紹介狀なりを出して頂きたいのであります。さうしないと係の

方では認可なしに雇つてゐるのぢやないかといふので、受付をしないことがあります。

次には第5條の國民學校終了者の雇入、就職の制限に就いて說明します。今年の1月10日以後の國民學校の初等科、または商業科を修了したもの又は高等科の中途退學したもので、二年間經過しないもの、しかも技能者に該當しないもの、かういつたむつかしい條件になりますが、こんな人を國民學校修了者と申します。言ひかへれば今後國民學校を出て來まして2年經たない子供で、技能者に該當しない子供を國民學校修了者と申します。この國民學校修了者は原則としてすべて指導所の紹介によらなければ就職できないといふ事になつてゐます。指導所においては職業相談、職業指導、身體檢査や知能檢査、性能檢査等を致しまして、その子供に最も適當する職業に紹介を致します。なほ國家的見地より事業の緊要度を考慮致しまして、最も大事な方面に、しかも計畫的に紹介する事になつてゐます。其ために各人勝手な雇入とか就職とかは禁止してゐるわけであります。この國民學校修了者は指導所の紹介に依らなければならぬ原則に對しまして例外があります。まづ國、道府縣等官廳に雇ふ場合はよろしい。船員として雇入れる場合はよろしい。日傭人夫で雇ふ場合にはよろしい。30日未滿の臨時雇で使ふ場合もよろしい。この日傭は30日未滿と雖も、30日を超過せば違反になるといふ事になつてゐます。この30日の計算の法は日傭人夫の場合に引續いて30日で途中に公休日とか、一齊休業日があつてもこれを出勤と看做して通算して計算する事となつてゐます。

30日未滿の臨時雇の場合には30日で解雇すれば違反にならないわけです。またこれを翌日雇へば違反にならないやうにみえますが、そんなずるいことは認めません。30日雇つた後は五日間をおかなければ雇へないといふことになつてゐます。次に又農業、林業、畜產、養蠶、水產業といふやうな食糧生產方面の雇入の場合も自由になつてゐます。但しメロンとか花とか眞珠養殖といつたやうな贅澤品の生產は含まれてゐません。これは除外されてゐます。

その次には技能者の場合と同樣に事業の承繼がありました場合に、國民學校修了者があれば、これを引繼ぐことはよろしい。これも雇主からいへば新たな雇入であり、就職者からいへば新たな就職となりますが、引繼ぐ場合は特によろしい。最後に特別な事由のあるときには特定の國民學校修了者といふ個人について雇入の認可を得た場合には雇つてよろしいといふことになつてゐます。これは特別な事由のある場合でないと申請出來ません。そしてこれは特定の子供について雇入認可得るのでありまして、特定の國民學校の子供なら誰でもよいといふのではないのであります。國民學校修了者については技能者と異つて身體の障害あるものも自由に雇へないのでありまして、これらのものに對しても指導所は責任をもつて職業指導をする事になつてゐるので、例外としなかつたわけであります。以上七つばかりの例外があります

次に第7條に移りまして、一般青壯年の雇入制限について申上ます。一般青壯年と申しますのは男子は14歲以上40歲未滿、女子は14歲以上25歲未滿のもので、先に申しました技能者、または國民學校修了者に該當しない人を申します。換言すれば若い男なり女なりであつて、技能とか經驗のない人、若いもので未經驗者といふことになる、或は若い素人の人だといふことになるわけであります。皆樣方が事務員とか、見習工などを雇ふ場合は、或は轉職者を雇ふ場合などがこれに該當すると思ひます。この一般青壯年の雇入はどうすればよいか、これは指導所の紹介によつて雇へば問題はありません。それからまた1人々々について認可を取つた上で、雇入れても結構であります。1人々々について認可をとつて雇入れるとなると大工場等にあつては非常に手續上面倒でありますので、厚生大臣の指定致しました時局產業方面即ち大臣の指定しました事業を行ふもの、或は大臣の指定しましたもので、事業は行はないが、特に指定されたものがあります。それらの大臣の指定したものは特に一般青壯年の雇入について便宜な方法が設けられてゐます。それは1人々々について認可を受ける代りに一年を四期に分けまして四月から六月までの三ケ月間に何人まで雇入れて宜しいといふ人數の認可を受けることが出來ることになつてゐます。その認可をとつて置きますと、その人數の範圍內ならば、どの人を雇つてもよい

わけであります。時局産業に對しては、この便利な方法が設けられてゐますが、いはゆる不急産業、平和産業方面即ち指定せられなかつた方面におきしては1人々々について認可を得なければならないことになります。

只今申しました指定事業の緣故雇入認可といふのは、從來の青少年雇入制限令の雇傭定員の認可と少し趣が異つてゐます。すなはち青少年雇入制限の雇傭定員の認可は、その制限數迄は常に人を雇入れ得るといふ認可でありましたが、今度の調整令の指定事業の緣故雇入認可といふのは、その員數だけ人を雇入れることが出來る。いひかへればその回數だけ雇入れられるといふ回數券のやうなものであります。從ひまして譬へて申せば從來の青壯年の雇入をハイヤーとすれば、そのハイヤーの定員が4名であれば、この4名は1人降りれば1人乘れる、5人乘せれば違反になるが、2人降りれば2人乘れるといふやうに、常に4人を乘せ得るのでありますが、今度の調整令の緣故雇入認可は乘合自動車の回數券を買つたやうなものでありまして、10回の回數券を買へば10回迄は差支ないが、バスが空で走つてゐても、11回目は新しく1枚切符を買はなければならないのと同樣で、10人の認可をとつて10人入れてしまつて、尙缺員ある場合には、更に新しく個々認可を受けねば雇入れることが出來ないといふやうに、青壯年の場合と趣を異にしてゐます。それからこの便利な緣故雇入の認可は年4回しか受けることが出來ません。從ひまして申請を怠つた場合とか、認可員數を雇入れて、なほ缺員のある場合は、個々認可によらなければならないのであります。この原則にし對して17ばかりの例外があります。

まづ原職復歸といつて、元の店へ除隊者が歸つて來た場合、船員雇入、農業方面雇入、官廳の雇入、傷痍軍人たる一般青壯年の雇入、身體に障害あるものとして指導所長が認定した人の雇入、或は技能者並びに國民學校修了者の場合と同樣、事業承繼しました場合、その人員も引繼ぐ場合、日雇人夫を雇ふ場合及び30日未滿の臨時雇は自由に雇つてよろしいことになつてゐますが、この日雇とか、30日以內の臨時雇の場合でも、或種の業務に常時從事してゐるものは、指導所長が認定しますと、たとへば港灣勞務者、土木建築作業者、小運送作業者等でありますが、これらの認定を受けた人は、日雇なり30日未滿の臨時雇なりと雖も、自由に雇ふことが出來ないことになります。これらは雇入る際に認可または紹介を要することになります。皆樣方には土木建築作業者が指定されるといふことになりますと、非常に關係が深いと存じます。

勿論この認定のあるまでは自由でありますが、指導所長の認定がなされた後には指導所に日雇の紹介を貰ふか、或は每日認可をとつて雇ふかといふことになつてくるわけであります。其ういふことになれば、どういふ結果になるかと申しますとまづ雇ふ側、就職する側いづれも非常に面倒臭いその反面からいへば、そこに働いてゐる常傭が逃げることが困難となる。さうすれば充分に訓練せられ、或は優遇せられてゐる勞務者に逃げられる心配が少くなつて來て、好都合かと思ひます。それから月給150圓以上の事務員は自由は雇つてよろしいことになつてゐます。但しこれは事務員に限つてゐるのでありまして、技術者は150圓以上でもいけないことになつてゐます。

また一般青壯年に該當する人を事務員として使ふ場合の例外で、技能者に該當する人を使ふ場合には150圓以上でも認可を要します。大學、專門學校を卒業した人は、大臣の指定致しました時局産業方面に就職するのは自由に出來ますが、平和産業方面の場合には一々認可を要しま。農會の技術員とか、食糧品の技術者、理化學の研究員と言つた、人は例外として自由に雇へます。また學校教職員も自由に雇ふことが出來ます。計理士、醫師、獸醫師、藥劑士、看護婦、産婆、按摩、理髮師といつたやうな人は免許なり免狀なりを持つてゐる人は自由に雇へることになつてゐます。即ち看護婦の免狀を持つてゐる女を看護婦として雇ふ場合は自由でありますが、これを女中なり事務員に使ふ場合は認可を要します。看護婦見習は免狀がありませんから、認可が要るのであります。産婆も同樣であります。最後に一般青壯年たる女子の家事使用人1世帶につき1人を使用する場合は自由であるといふことになつてゐます。これを1世帶25歲以下の女中さんには1人だけは自由であ

るが、二人以上必要の場合は認可を受けなければならない。26歳以上なら2人使ふ場合も自由であります。以上申上ました17ほどの例外がありますが、原則としては認可又は紹介を受ければならないことになるのであります。以上申しました通り従業者の雇入は、すべて1人々々について認可を受けるか、或は1人々々を紹介して貰はなければならないわけです。たゞ時局産業方面においては特に便宜な方法として一般青壯年の雇入に人數で認可するといふ制度が例外的に認められてゐるのみであります。

次に第11條の勞務供給業者から供給を受けまして使用する場合の制限について申上ます。勞務供給業者から常時從業者の供給を受けて使用する場合には、今後は指導所長の認可を要することになつてゐる。すなはち年4回に分け3ケ月間に何人の人夫を何處の業者から供給を受けて使用したいといふことについて認可を要することになつてゐます。これは4月から6月までに使用する分を3月1日までに申請する、つまり1ケ月前に申請することになつてゐます。又技能者は勞務供給契約によつて使用してはならぬといふことになつてゐます。これも指導所長が認可致しました場合は使用し得る例外がありますが、これは造船所方面に認可する筈であります。或は皆樣方の方でも塗裝工等におきまして認可しなければならない場合も起るかと思ひます。

以上申上ましたことで、制限の方法の說明を終りますが、なほ附加へまして國民學校在學中に雇入れるのは自由でありますが、修了の途端に新たに雇入れるものと看做して認可を要すといふことになつてゐます。14歳未滿の人を雇ふのは勝手ですが、14歳になつた途端に新たに雇入れると看做すのであります。なほこれは皆樣にとつては御面倒ではありますが、使用の場所間の移動といふことも雇入と看做してゐます。從ひまして大阪の本店から東京の支店に轉勤させる場合は、東京の指導所の認可を要します。大阪市內の西區の出張所から東區の出張所に轉ずる場合にも、東區の出張所を管轄する指導所長の認可を要することになつてゐます。これは調整令の脫法行爲を防ぐために作られた規定であると存じます。從ひましてどの範圍の移動をば認可を要し、どの範圍であれば雇入とみないで認可を要しないことにする方がよいのぢやないかといふやうな點は、個々の業者につきまして指導所の係のもつと御相談願ひたいと思ひます。

皆樣方の建築現場の轉勤移動といふやうなものを一々認可を要すと解釋致しますと、非常に面倒臭いことになると存じますので、ある程度の纏りがあるならば、相互間の移動は使用場所の移動とみないで取扱つてよいのぢやないかと思ひます。また不正や虛僞のあつた場合とか、指導所長の必要と認めた場合には認可の取消をすることが出來ます。また認可を受けず、紹介を受けずに雇入れた場合には、解雇、退職を命ずることも出來るのであります。

また技能者、國民學校修了者、一般青壯年を通算して常時5人以上使用してゐるところでは從業者名簿を所定の樣式によつて備へなければなりません。この名簿には雇入の年月日と共に雇入手續を書くことになつてゐます。即ち何月何日どこの指導所の紹介を受けた。或は何々の認可を受けて雇入れたといふやうに書くのであります。なほ150圓以上の事務員とすれば、そのことを書き、傷痍軍人である場合も、その旨書いて頂きたいのであります。それから指導所長は各種の報告を徵することが出來ることになつてゐますが、その一つとして指導所の紹介または認可によりまして雇入れた場合には、雇主は年四回3ケ月毎に從業者の移動狀況を報告せねばならないことになつてゐます。これは1月から3月までの狀況を5月1日までに報告して頂きます。5月の1日と申しますのは、前申しました一般青壯年緣故雇入認可書の7月から9月までの分を提出すべき期限と一致いたします。言ひかへますれば、一般青壯年緣故雇入申請書の提出と移動狀況報告の提出とは同日に一緒にして頂きたいと思ひます。

それから勞務調整令によりまして國民勞務手帳法施行令が一部改正になつてゐます。この改正の點は指導所長の認可のあつた場合、即ち退職の認可技能者雇入認可又は特定の青壯年の認可特定の國民學校修了者の雇入の認可があつた場合には、手帳は留置出來ないことになつてゐます。言ひか

へれば、手帳を取戻せることになつてゐます。技能者雇入の認可申請書には勞務手帳法の適用を受ける方は、勞務手帳を添へて頂くことになつてゐます。

所が手帳が留置せられてゐて、提出出來ないといふ場合がありましたら、その者を申請書に書いて認可を受けることも出來ることゝなつてゐます。その場合認可がありましたら、その旨を申請書に書いて認可を受けることも出來ることゝなつてゐます。その場合がありましたら、この附則にあります手帳法施行令の改正によりまして、手帳は取戻せるといふことになるわけであります。それから今年の1月から3月までの間に一般青壯年を緣故によつて雇入たいといふ申請は1月10日までに致しますれば、その認可の決定するまでは雇ふことが出來ることになつてゐますが、その人數の中には昭和16年12月以後に卒業致します。商業學校、中等學校、女學校、乙種工業學校等の新規の卒業生は包含しないことになつてゐます。從つて1月10日までに申請せられた方と雖も新規の中等學校卒業者は緣故で雇入れることは出來ません。必らず指導所の紹介個々認可を要します。

以上で調整令の說明を終りますが、なほ勞務者募集規則が1月10　附をもつて改正になつてゐます。從來は18未滿使用するものましては店頭廣告のみによる募集は許されてゐましたが、今回はすべての募集は禁止になりました。新聞廣告然り、店頭廣告もまた然りであります。ビラも立看板もいけない、すべての募集廣告は禁止であります。但し指導所長が適當と認めました業者に對しましては、その事業主に對しては新聞廣告を許す、或はビラを撒くことを許すといふやうに、指導所の指定によつて、その指定せられた方法で、文書によつて募集する場合は構はないことになつてゐます。これは皆樣からの申請を俟たずして指導所の方で大事な工場から順次適當な方法を指定して許すことになつてゐます。

それから勞務供給事業規則といふのも1月10日から改正になつてゐますが、これは皆樣の非常に關係の深いことでありますから、ちよつと申上ます。從來は38以上供給する場合とか、或は18以上供給する場合に許可を要するといふことになつてゐましたが、1月10日以後は1人を供給する場合でも許可を要すといふことに改正になりました。從ひまして人を供給するといふ場合は、すべて許可を要することになります。それから從來供給業者が臨時にいはゆるアンコとか、立ン棒を買ふといふやうな臨時に雇ふのは自由でありましたが、今後は臨時所屬勞務者とする場合には3ケ月毎に人數の認可を要するといふことになつてゐます。

何ういふことかといへば、ある供給業者が4月から6月までの間に一萬人の日雇の所屬勞務者を雇入れたい、或は自分のところの常仲間の不足分として300人を3ケ月間に雇入れたいといふ場合にはいづれも豫め各期の1月前までに申請して認可をとつて置かなければならぬことになつてゐます。だから皆樣が實際にお使ひになる場合には、出入りの供給業者に對して自分のところの今の豫定では何月から何月までの間に君のところの常仲間の他に臨時の所屬勞務者を何人供給して貰はなければならない豫定になつてゐるから、供給業者の方においても、その手續を忘れないやうにといふやうに、豫め計畫をお示しになつて手配の準備をして置くやうに御注意願ひたいと思ひます。勞務供給事業規則はこの二つが主な點であります。これで私の說明を終ります。

（講師は大阪國民職業指導所調査係長
昭和17年2月18日講演會速記より）

勞務調整令についての質疑應答

係官　松田正太
玉置直忠
赤松直俊
橋本卯三郎

問——企業合同について勤め先が變る場合、假りに西區のものが東區に廻つた場合でも屆出をしなくてもよいのですか。

答——その場合新たに事業を引繼いでやる人は人をも引繼いでよいのです。ですからその場合、西區と東區にある事務所を合併して新たに事務所を設けるといふやうな場合には認可を要しません

問——解雇とかいふやうなものに對しは屆出の必要はないのですか。

答——解雇は大臣が指定しました工場のみが解雇制限を受けますから認可を要しますが、普通の工場は何等制限を受けません。しかし勞務手帳の手續は必要と致します。

問——業者が寄りまして一統合體を作つたといふ場合、個々の場合　50人要つたが、30人で濟む場合が起るが、これはどうなるか、勞務手帳をもつてゐる人でも屆出しなくてまよいのですか。

答——その場合は20人に付いて手帳で解用の屆出をするので、調整令の解雇の屆出は要らないことになつてゐます。

問——私共は東京の方に本社がありまして、こちらが指定工場になつてゐて、大阪は出張所で事務だけですが、さういふ場合給仕とかタイピストといつた勞務者の雇入制限はどういふことになるのですか、大阪で雇ふ場合に。

答——技能者であれば個々に申請しなければなりません。國民學校修了者は毎年九月30日迄に求人申込をなし、今年の卒業生であれば、去年の 9 月30日までに申込をなして、割當あつた範圍内で紹介を受け、採用すればよろしい。この斡旋期間は翌年の 6 月いつぱいですが、7 月以後に國民學校修了者の認可を受ける際には樣式五號申請すればよろしい。一般青壯年でありましたら樣式 7 號によつて特定の一般青壯年認可申請すればよろしい。

問——さうすると、大阪は大阪でさうした手續を採らなければならないのですか。

答——東京が指定工場になつて指定事業で一般青壯年も認可が出來ても、大阪は出來ると言ふわけには行かない場合があります。大阪が指定でなかつたら、個々認可によるよりほか仕方がないですね。

問——一般社員など同じですか。

答——やはりさういふことになります。自動車の運轉手の免狀を持つ人とか、建築技術者或は旋盤工の經驗ある者、工業學校を出た人といつた人は技能者ですから 2 號の認可を要する。一般の事務員などは男も女も一人々々 7 號樣式の認可申請をしなければならない、言ひ變へれば 1 人を雇ふ場合にも、すべて認可を要することになり、女子と雖も同樣で、40歳を越した男子、25歳を越した女子は事務員であればよいわけです。

問——それは10人以下使つてゐても同じですか

答——從來人を使つてゐても、又これまで使つてゐなかつた場合でもさうです、以前は 7 割とかいふ除外例がありましたが、今度はさういふことがありませんから。勞務調整令に當嵌めて技能者でも國民學校修了者にも一般青壯年でも當嵌らぬといふ人は自由に雇つてよろしいことになつてゐます。

問——囑託はどういふことになりますか。

答——囑託でも給料を出せば雇入と看做します平和產業方面では認可になる場合が非常に少いので一般青壯年の雇入と雖も40歳以上の男26歳以上の女の人を使つて頂きたいのであります。さらにそれらの人手と雖も時局產業が非常に要求してゐますので、人を使ふことは御遠慮になつて自分自ら働き、妻子をも使つて事業をやつて頂きたい、

かういふことになるわけです。

問――今の囑託は給料を拂ふ事になりますが給料以外の場合はどうなりますか、たとへば歩合といつた場合には

答――それらは一切雇入と看做します。脫法行爲を防ぐためと思ひますが、やはり認可を必要とします。それから申上げる年齡はすべて滿であります。

國民學校の卒業者の雇入は說明しましたが、新規に中等學校を出た人はどうすれば雇ふことが出來るかといふことを申上ますと、まづ前の年6月30日までに求人申込をして指導所から紹介を受けた人は雇へる、それが出來ない方は1人々々について認可を要します。特定人について認可を要するのであります。緣故雇入人數の中に入れて、即ち一般青壯年10人の認可を受けたら、その人數の1人として中等學校を出た人を雇ふことは出來ない事になつてゐます。これは規則のどこにも書いてないのであります。所が一般青壯年認可申請書の注意書の欄にそれを一般青壯年の數の中に入れずに申込せよといふことを書いてあります。特に認可指令書に但書を附けて昭和16年12月以降の中等學校を出たものは、この認可書では雇ふことはならぬといふことを記してありまして、すべて1人々々認可を受けるか、指導所から紹介して貰はなければ勝手に雇へないことになる、專門學校、大學を卒業した人には、特に時局產業はよろしいといふ便宜の方法があります。中等學校以下は全部駄目です。大學、專門學校は私立、官立を問はないが、完全に卒業しなければいけない、中途退學では駄目なのであります。女中さんを雇ふ場合、1人はよいが、國民學校修了者、女學校を出た女子は雇へないことになります。1世帶1人はよいが、今年の卒業生は國民學校修了者に入り1般青壯年でないから雇へないことになるのです國民學校を出た方は女中にも行けないし、女學校を出た方は行儀見習にも行けない、行く場合には認可を要する、滅多に認可しないと思ひますが、さういふことになるのであります。

問――タイピストですが、今まで居たところはいろいろの關係で厭だといふので、雇つた方も認めて解雇の通知書を出したのですが、そして本人も私の方へ來たいといふので、申請したのですが之れに對して許可がなかなか降りない、かういふ場合、本人も雇つてゐた方も、新たに雇ふ方も、その解雇の事實を認めて承諾した場合でも許可せられない場合がありますか。

答――事業の重要度に照し、又その人の雇入の必要性をみてタイピストがもしそこに必要なければ認可しません。

問――五人ゐたタイピストが1人はやめ、また1人やめんとしつゝあるもので、土木建築請負ですから指定事業になつてゐるのですが、軍部とか時局產業の元を作るのだから、尙更人を必要とするのですが。

答――そのやめつゝある人の缺員は私の方で補充するわけには行かないのです。

問――この人はお嫁に行くので、その旨はつきり書いて出してあるのです。五人ゐたのが2人までやめて缺員を生じたのですから、お話したのがみつかつたので、申請したのです。

答――其れだけの理由を書いてあれば、10分考慮出來ると思ひますが、大體土木建築請負といふものと、時局產業と混同されてゐるのぢやないかと思ひますが、土木事業は時局產業としては非常に輕いのです。時局產業の中でも第1、第2、第3第4と4段階に分けてゐますが、土木事業のある地位は非常に下の方になつてゐます。だから大事な軍需工場の方のタイピストが足りなければ、その方へ廻すのが先になつてあなた方へ行く機會が少くなるわけです。軍需工場を作るのがあなた方の仕事であるとしても、それは私共の方の認定に委せて貰はないと困るのです。厚生大臣はあなた方の事業に對してさういふ認定をしてゐないのですから、一番大事なのは第1種で、その次の、次といふ標準が決つてゐますが、土木請負はこの第1種の部門に入つてゐないのです。

問――指定すれば雇へるといふのですか。

答――特定の方だから雇はして貰へるといふのは間違です、その人をそこに働かせる必要があるかどうか國の重要度、勞務動員計畫を睨合してやらなければいけないのです。

問――電話交換手は遞信省の規則で、必ず置かねばならぬのですが。

答——平和産業の電話が止つてしまふことがあつても認可は致しません。すべて事業の重要度によつてやります。カフエの女給さんが必要だといつて申請しても廿五歳以下の人は認可しないのです。電話交換手は免狀をもつてゐる人でないといかぬのだから、それも大事な方面から充足しなければならぬから、あなたの方が大事でなければ認可せぬといふことになります。尤もそんな場合にはあなたよりもつと平和産業方面にも交換手がゐますから、それを廻すことが出來るとは思ひます

問——平和産業方面からもつて來る場合は。

答——然しそれも、私共が住友金屬から交換手五人要るといふ求人申込をうけてゐるかも知れぬきうしたらたまたまあなたの方へ行きたいといふ人があつても、その人を住友に廻すために認可しない事になる。特定は認可にならないのが多いのです。これは特定といふ言葉があるから思ふやうに貰へると思ふと大變間違です。タイピストは技能者となつてゐませんから、普通の事務員ですから人數の認可を受けられて許されたら、すぐ雇へるやうな手續をして貰はなければなりません。豫定以上やめてしまつたのですから、最初のあなたの方の計畫が悪かつたといふことになるのです。

問——一般緣故者を六號樣式で出したのですが受附けてれなかつたのですが。

答——其んなことはない筈ですよ、土木建築業といふのは指定事業になつてゐますから、1月の27日のは4月から6月までに雇ふことになる分のものですから、三月までのは1月10日までにやらなければならないのですが、これから指定期日までに必らず申請をして認可をとつて置いて頂かなければなりません。第2期は5月1日までに忘れないやうに願ひたいものです。それと勞務調整令が出てゐるのですから100パーセント雇へるとは決つてゐないので、私共の方では少々無理をしても3人で行けると認定致しましたら不認可にします。どの程度困つてゐるかが問題で、50パーセントでも行けると認定したら認可しないのですから、あなた方の希望通りに認可するといふことでなく、その爲にこそ勞務調整令が出てゐるわけで、むしろかうなつて來るのが當り前で、5人ゐたから今も5人貰へると思つたら當が違つてま來す。

問——人數ばかりでなく、新規になつて能力の低下といふこともあると思ひますが。

答——それは人的資源が涸渇して來てゐるのですから10分に差上げられないと思ふのです。申請書を出される際うまく理由をわかりよく詳しく書いて出すのが大切です。なるほどこれでは認可してやらなければいかぬといふやうに詳しく丁寧に書かれないといかぬと思ふのです。時局産業は期限内にやつて置けば自由に雇へますか。私共としては土木事業がどの程度に要るかといふ事はわかつてゐるのです。それから移動率が多いといふことになれば、やはり減すこともあるわけで、參考にするために移動狀況の報告をする事になつてゐます。申請書と同じ日に出して頂くことになつてゐます。國民學校の方は9月30日迄、中等學校は6月30日迄に申請をして頂きたいのです。實際の上からいへば、1月から3月迄の分はその見透をつけて2ケ月前の11月1日までに申込んで頂きたいのですが、先の分まで見透すとしたら5ケ月位先の見透をして申請書の作成期間といふやうな事を考慮に入れると6ケ月先まで見込んでないといけないと思ひます。物資なんかの計畫はさうやつてゐるのですから、人の方もさうやつて行くべきだと思ひます。この調整令の出たとき、法令が變つたときの皆樣の申請は昭和17年度4. 5. 6ケ月分は2期と書いて出してゐたのが多かつたのですがすべて官廳年度で行きますから、これは1期分です。そして7. 8. 9月が2期、10. 11. 12月が3期、翌年の1. 2. 3月が第4期となつてゐますから間違のないやうに、それから勞務供給事業について申上ますが、たとへば清水組なら清水組のいふ請負業者があつて、その請負つたものを大工は大工の下請に出し、左官は左官に出すといふ場合、清水組は勞務の供給を受けた形になるかと申しますとこれはならないと解釋してゐます。大工が大工として自分の仕事として人を使ふ場合には供給にはならない、清水組が直營で工事をする場合、大工の棟領が清水組へ大工を10人もつて行けば供給になる。ところが大工の棟領が清水組から下請て自分の仕事として大工業の仕事として請負ふのですから請負つた場合には供給になりません。つまり

普通清水組との間に各請負業者のやられてゐることは供給にならないのが原則のやうに聞いてゐます。直營工事をやるとすれば、清水組はこの供給事業の許可のある方から借りてやらなければいけないことになるわけで、供給業者に知合がなければ清水組は直營工事は出來ないといふ結論になります。

問——大工は勞務手帳では自營となつてゐますが、これを使ふ場合は

答——それは日雇なり臨時雇となるわけです。

問——それが1ケ月を越す場合はどうですか

答——それはいけません。大工が自分の仕事として請負つてやる場合はよろしいのです。

問——許可のない大工でもよいのですか

答——大工の業は今のところは許可はいらないことになつてゐます。然し請負といふ形式でなら雇入れて使ふといふ場合はやはり調整令の手續を要しますし、30日以上はいけないのです。

問——荷造業者が1ケ月幾らといふ契約をして人夫をもつて會社に來てゐる場合は、やはり勞務供給に依る使用認可の申請は必要ですか。

答——工場内で荷造業者がどういふ形でやられてゐるか、請負といつても荷造業といふものが獨立の事業として成立つものかどうか工場に年中行つてゐるのは獨立の業者ではなく使はれてゐるものと思ひますから、供給と看做します。此れに就いては市内に荷造の供給をやるのが相當にありますが、すべての人に許可するわけには行かぬからある程度まで合同體を作つて頂きたいのです。その上で許可しやうと思つてゐます。

問——場合によつては請負に出せない場合、坪いくらといふわけに行かない時、一日いくらといふことでかゝつただけこちらが拂ふことにして常傭で請合ふ場合はどうなりますか。

答——それは供給ではない、他の同業者に自分の勞務者を貸す場合は供給になるが、自分が自分の仕事をやる限り供給はありません。

問——左官が常雇で請合つた場合は。

答——左官は自分が働きに來るのですから、自分の働くことには供給にはならない、また自分の助手として使つてゐるものも自分の仕事としてやつてゐるのだから供給にはなりません。業者間の融通といふことは供給になりますから、やめて頂きたいのです。專門の供給のみでやつて10分食へる位の規模でやつて頂きたいと思ひます。

問——特殊學生の雇入はお認めになりますか、學費を出してやつて卒業したら自分の方に雇入れるといふやうな契約でやつてゐるのはどうですか

答——それは認可になるとは決りません。その仕事の重要度によつて決めます。折角立派な人を育てもらつたのですから、もつと大事な方へ行つてもらふことになります。然しそれほどまでに人は逼迫してゐませんので、優先的に差上得ると思ひますが、原則としてはさうなつてゐるのです。皆樣の子供さんが中學を出たら、大學を出たら自分の家の仕事をさせると思つてゐられるかも知れませんが、これは平和產業の方へは行けないわけです。社長の息子だからといつて勝手に使ふわけには行かないといふ、まあ原則になつてゐるわけです。學校卒業者使用制限令に該當するのは一番困るのです。特に工科方面は割當を考慮してゐますから、學資を出して工學部を卒業したといつても、その人を思ひ通りにはくれないですよ、さうしないとみんな學資を出してやりますからね、どうしても特別の事情があるとすれば、それを詳しく書いて、なるべく認可を取計らつて貰ひたいといふ具體的なことを書いて出して頂きたいのです

問——家庭を調べてもらへば事情がよくわかるのですが。

答——忙がしくてそれだけの暇はありません。むしろ學校長の證明書を添えて頂くのが一番よいのです。

問——私の懇意な人から田舍に女中がなからうかといふので、田舍の方へ行つて聞たところが、例の14歲以上25歲のものは何もせんで遊んでゐてはといろいろな方面に就職して殆どゐないといふ話ですが、あゝいふことは無理に働かすやうなことになつて、かへつて勞務調整令の趣旨に反するのではないですか。

答——ところが恐らくどんなところで働いてゐるか知りませんが、女中さんより大事な方面でないかと思ひます。

問——私の知つてゐるのは未亡人で、中學校の先生をしてゐますが、子供が男の子3人ゐて、み

な通學してゐるので、女中がゐないと困るのです

答——その場合には26歳以上のお婆さんを雇つて下さい。25歳以下はいけないですよ、指導所が斡旋してくれるかといふのでしたら斡旋はしません。指導所はこれまでのやうに誰から申込まれても受附は致しません。時局産業以外やつてゐないのです。

問——6號様式で申請して指令があるまではどうなります。

答——1月から3月までの間は自由に雇つてよいのです。4月以降はいけません。

問——下請をさして元請人が現場の仕事を指導監督する場合は——

答——指導監督なら供給にはなりません。供給の場合には使用關係が生じますが、みてゐるだけなら使用關係は生じません。請負業者の場合は自分のところで使ふのではなく、完全に請負契約を結んで委せ切り、勿論監督はしますが、ですから供給にはなりません。

問——タイピストは勞務者ですか

答——一般青壯年です、賃金統制令では勞務者になつてゐますが、申請すれば職員待遇になります。大體事務員を雇ふ場合には女子でも男子でも指定の職種の經驗があるかどうか登錄したことがあるかどうか調べなければなりません。關係のない人なら緣故雇入の範圍で雇へるが、小型自動車の運轉手の免狀をもつてゐれば、技能者ですから雇ふことはできない、電話交換手の免狀をもつてゐる人が、タイピストに來る場合でも認可が要る砲兵工廠で3ケ月旋盤をやつたといふ場合にも技能者ですから、女中にするにも認可が要るといふことになります。

問——最少限度の人數でやつて事務に堪へないといふ場合、志望するものがあつたら申請したら認可して貰へますか。

答——私共の方では計畫を立てゝやつてゐますから割當をして人が行かなかつたら例へあなたが捜して來ても横取りせねばならないといふやうなことになるかも知れない、だから必ずしも認可出來ないといふことになります。

問——然し最少限度に切つめてやつてゐるので足りなくなつたといふ場合、調査して補給して貰へないとすれば、常に餘裕をもつてゐなければ不安ですね。

答——事實を調べてなるほどと思へば認可になるだらうと思ひます。ところが書面なり、口先でわからないことがありますから、慌てゝやると皆不認可になるので、申請書に詳しく書き、特別な理由があつて是非ほしいといふことを係のものについて貰はないといけないと思ひます。

問——其でもやはり3ケ月經たぬといかぬのですか。

答——それは期限がないから直ぐやれることになるのです。

問——1人宛餘裕をみて置くといふことになるも國家的にみても非常に不經濟になりますね。

答——そこまで逼迫してゐたら認可します、しかし實際はそこまで困つてゐないのが多いのですから、事實まだ間がないのですから、あと半年もすれば、どんな場合には認可になるか、ならぬかわるやうになると思ひます、5人のタイピストが4人になつてゐる、認可してよいかどうかは見透しがつかないのが現狀です、半年もすればこんな場合は認可しても大丈夫人がある、こんな場合は滅多にはないといふ見透がつけばやりよくやり易くなると思ひます。またさうなると、勞務の需給狀況といふものも後には變つてくるかも知れませんし、今のところはたしかに馴れない無理があります、それでは今日はこれで。〔以上〕

（解答者は 大阪職業指導所各係諸氏
昭和17年2月18日講演會速記錄より）

新興木構造の理論と實際 Ⅲ

宇賀神行一

V 新興木構造に依る架構の選定

新興木構造に依る手法の最も特徴とする處は前稿に縷々述べ來つた接合法を利用して、細少なる部材にて可及的大張間の架構を得んとすることにある。最近まで吾國では張間30米以上は鐵骨でなければ不安とされて居たのが、新興木構造の眞摯なる研究に依り、追々此の手法の普及しつゝあることは技術國策上喜ばしい限りである。

既に獨逸に於ては張間 64米に及ぶ Stuttgart の Schwaben 舘や Dresden の Saenger 宴會場の如き張間78米に及ぶ驚異的大架構もあり、橋梁工學の理論から云へば、更に 100 米架構も不可能ではないことになる。

然らば斯の如き大張間木構造を、如何なる架構に依つて構成せしむるかと云ふのが、新興木構造の中心論となつて來る。鐵骨に依る架構形態その儘を木構造に採用することの無謀は云ふ迄もない。從來迄木材を應張材に使用することは、其の仕口の困難から排せられて居たが、新興木構造ではヂベル接合に依り、全くこの弊を脫却し、架構の選定には苦しめられなくなつたとも云はれる。

新興木構造が資材節減の使命に根據を置くとするならば、主體構成材たる木材の使用が普通木構造に比し幾何節約し得られ、而も如何なる特徴が付與せられるかと云ふ問題に歸結する譯である。

新興木構造に於ける架構形態は極めて多種類に亘るものであるが、大體次の様に分類して、その特徴及實施例を列記して見よう。

(A)……ポ ス ト 型
(B)……マンサード型
(C)……フヰンクトラス型
(D)……二 滑 節 型
(E)……三 滑 節 型
(F)……圓型アーチ型
(G)……カメルバツクトラス型
(H)……ラ ー メ ン 型

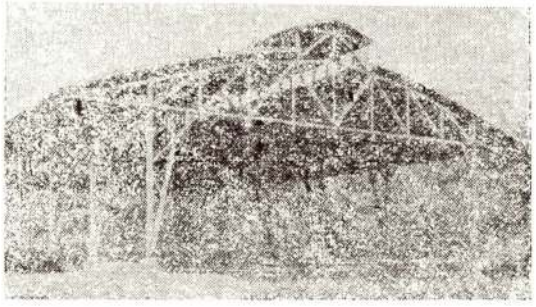
此の分類方法は、筆者の便宜上斯く試みた丈けのことで、絶對的に此の範疇を追ふものとはならない。又トラス型と稱する一部門で、各種各様のトラスの説明を試みるのも一方法ではないかと思はれるが、分類の適否は別として逐次列記し、特殊型は其の他の架構として補足することにする。

(A) ポ ス ト 型

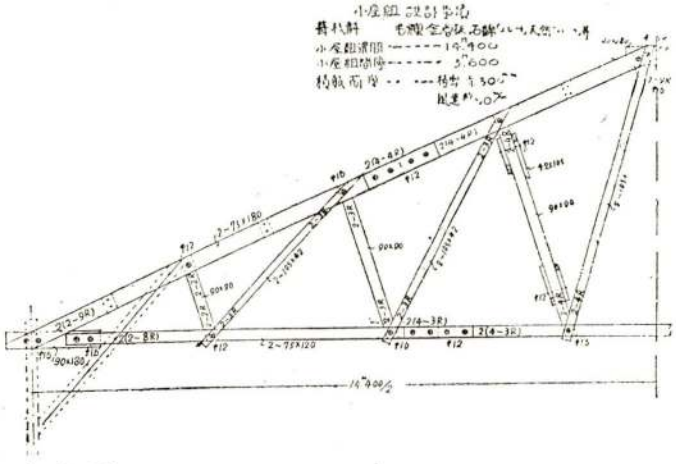
從來から洋式木構造の大部分は、このポスト型に屬し、キングポスト、クヰーンポスト、又は其の變型として、實に多くの架構形態が普及されて居る。新興木構造に於て、特にこのポスト型を採り入れたのは、ポスト型の變形で、第42圖の如きものもある。構成は單純明解なれば、主として張間の比較的少なるものに利用して効果がある。張間の大なるに伴ひ、陸梁の所要斷面が著しく增加するので、20米以上では他の形式に據らなければ不經濟な結果となるであらう。

(B) マンサード型

マンサード型のものは、新興木構造に多々見られる架構形態で、其の一例としては、本誌第24輯第11號P53に記載せられた Reichswerk Spomdau の機關庫の一例の如きも良き參考とならう。又堀口



42 圖



4 3 圖

茜吉氏著新興木構造學P 177 以下にも張間35米のマンサード型トラスの一例が譯出せられて居る。

此の型の特徴は應張應壓共に斜繫材には單一材を配し、比較的材の刻込みが一般洋式構造に近似して居る爲め、工作に苦勞がなく、且柱との接合もボスト型と同一であること等である。

張間は長いものでも30米止りと見てよからうが應張材としての陸梁に相當な材を配さなければならないことは、ボスト型と同様な缺點となつて居る。屋根面に硝子を嵌め天窓となされ、多くは工場車庫等に利用せられて居る。

(C) フヰンクトラス型

小張間の鐵骨構造の多くは、此のフヰンクトラス型が應用せられて居るが、木構造に於て此の方法の利用せられるに到つたのは、ヂベルに依り接點の結合がより合理的になり、木材を應張材として充分對處し得る樣になつた結果と思はれる。又近時合板に依るガセツトプレートの接點への利用が行はれる樣になつたのも、木構造の一革新と見られよう。第43圖及第44圖は、此の型の一例である。二階建の小組として採用すれば、柱との結合が普通洋式小屋組の如く極めて納りも良く、經濟的な架構となる。張間10米～15米に適當と思はれ施工は單に接點にベルヂを配するのみであるから、非常に簡單である。

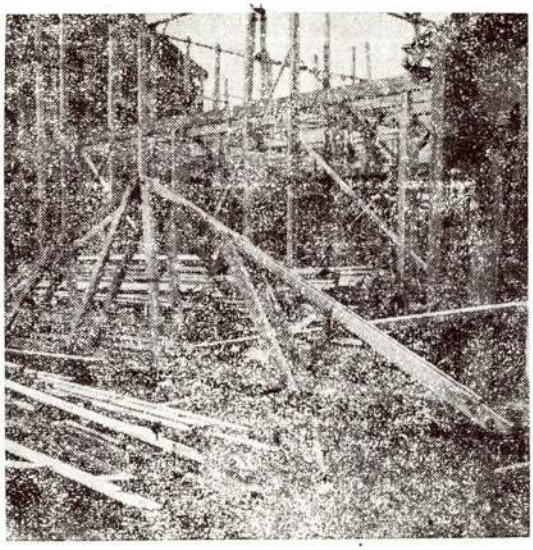
其の他フヰンクトラスの變形として第45圖の如き架構も考へられ、既に〃建築雜誌〃第54輯第667號には、此種の架構で張間30米の實施例が報告されて居る。

(D) 二 滑 節 型

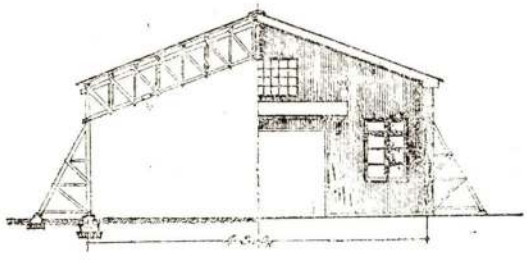
滑節式構造は鐵筋又は鐵骨構造の爲に發達した構造力學上より明瞭な應力を知り得るので、部材の計算が割合に適確なものが配せられる。三種類の滑節式の中で、二滑節が木構造に最も多く利用せられ易い架構形態である。

二滑節トラスとして代表的なものは、第46圖又は第47圖、第48圖の如きもので、多くは工場倉庫格納庫等に利用せられる。張間は15米～30米程度が適當とされて居る。

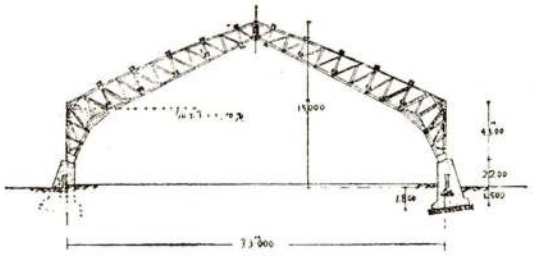
斯る木構造に於て問題となるのは滑節部分を何う取扱ふかの議論であるが、勿論鐵材を以てピン構造と出來れば問題はないが、可及的に金物の節減を計らうとする以上、思ふ樣なピン構造を柱脚



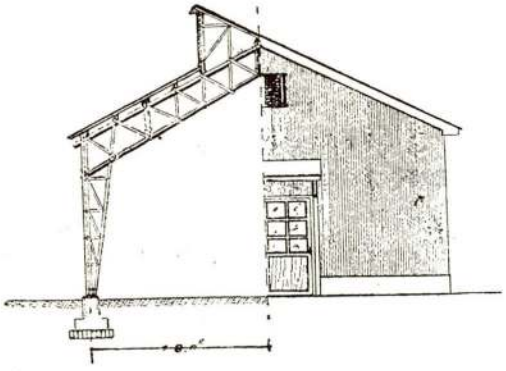
4 4 圖



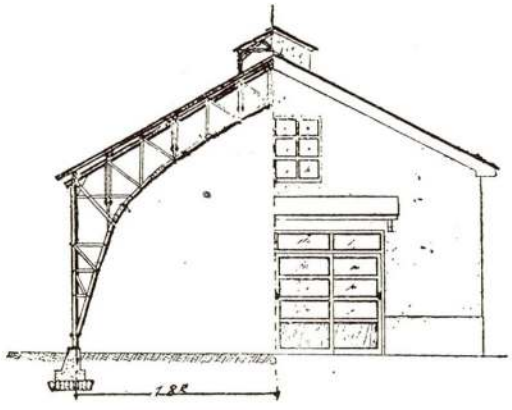
4 5 圖



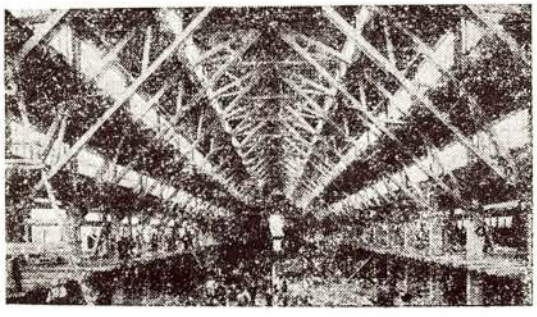
46 圖



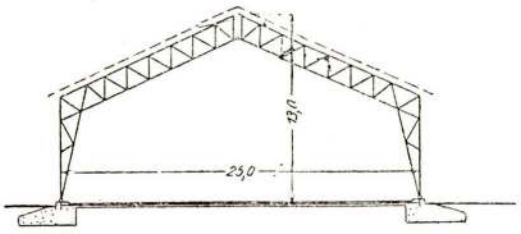
47 圖



48 圖



49 圖



51 圖

部に設けることが出來ないので、勢ひ基礎の設計に考慮を拂ひ、基礎に依つて滑節部分の役割を補はうとする傾向にある。

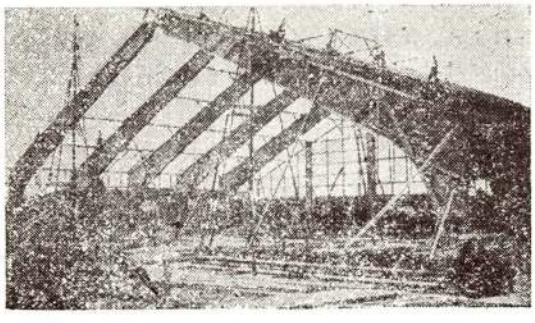
(E) 三 滑 節 型

獨逸に於ける新興木構造の過半數以上は、此の三滑節型に依るものと思はれる。

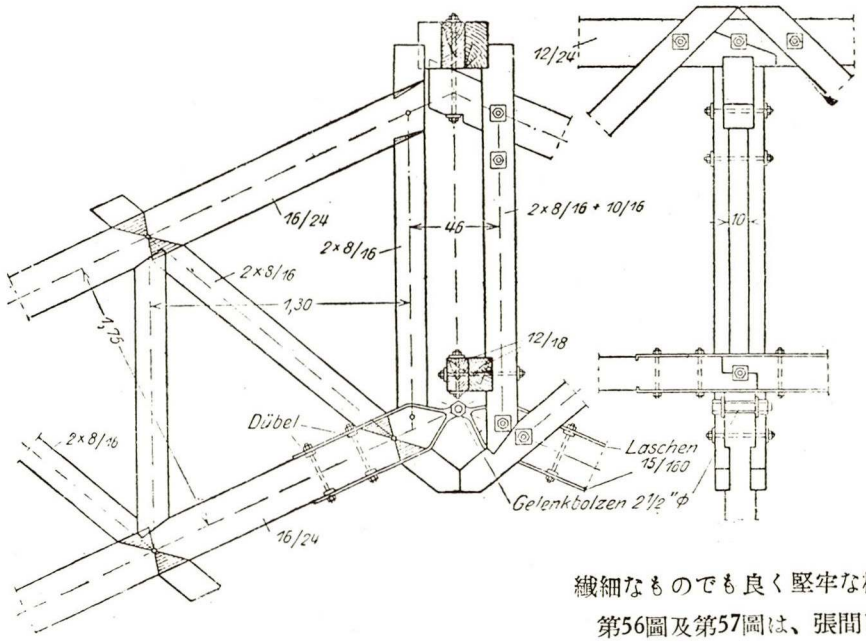
その代表的二、三の例を見ると、第49圖の Berlin 中央放送局の建物、張間40米の Kern の見本市場の如きは第50圖に見る様な充腹式三滑節トラスである。

第51圖の如き三滑節トラスの頂部ピン構造の詳細は第52圖に依つて理解せられたと思ふ。即ち下弦材の互に合する末端に添板式のピン金物を取付け、其れにボールトを差し込んで固定して居る。

其の他種々なるピン構造があるが、何れも金物を使用しての話しであるから、現今の吾國では歡迎すべき方法ではなからう。然し三滑節型の長所とする處は、力學的に明瞭な應力を知り得ることゝ、滑節構造となすことに依つて、部材斷面を經濟的に處理し得らるゝので、大張間には適當なる架構型態だと云ふ結論になる。日本に於ける實施例は〃新建築〃17卷第6號に報ぜられた第53圖の様な張間60尺の三滑節アーチの構造がある。之はピン構造に金物を使用しては居ない。或は吾國で



50 圖



5 2 圖

今後發達するのは此の様な三滑節式の變形で、ピンの部分を特殊な構造となす架構形態ではないかと思はれる。

海外に於ける最近の傾向は、工場生産せられたプライウツド質小屋骨をピン金物で巧に結合して第54圖の様な三滑節アーチを構成する方法である獨逸で新興木構造の專門會社として有名な Stuttgart の Kübel 會社では、プライウツド製の木材合成梁と共に、盛に木材合成小屋骨を製造し、張間20米或は30米と云ふ様に既製品の小屋骨が販賣されて居るので、請負業者は單にこの小屋骨を建材として購入し、ピン金物で組立てゝ居る。今後日本に於ても、此の程度迄進まなくとも、建築作業の工場化と規格化が望ましいものである。

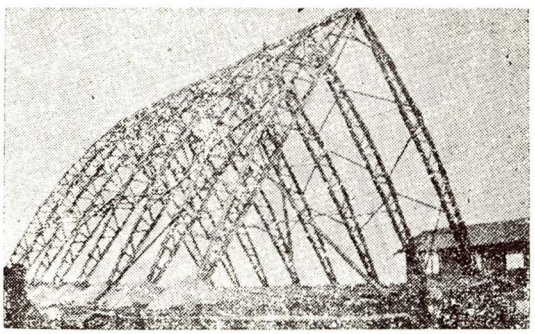
(F) 圓形アーチ型

圓形アーチの發達は鐵骨構造に於て顯著なるものがあり、之が特徴とする處は彈性力に於て、小屋組に垂直荷重が作用する際に於ける力線圖は、パラボラ形を採るが故に、小屋組の斷面の型態をパラボラ形となす時は、部材に曲げモーメントを生ぜず、單に軸力のみを生ずるが故に、構材の節約上、圓形又は尖頭アーチ形が最も理想形態である。

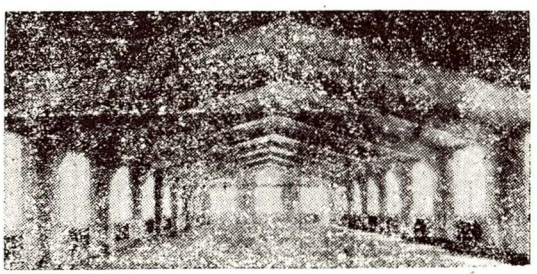
筆者の着目も實に此の點にあり、既に數年前より圓形アーチの實驗を重ねて來た。

最初は獨逸に於て小張間に利用されて居る菱形網目式のZollbauと稱する尖頭アーチに類似せしめ、單位組成枠を積置連結する方式で試みた。第55圖に示す一例の構材は、極めて纖細なものでも良く堅牢な構成體をなして居る。

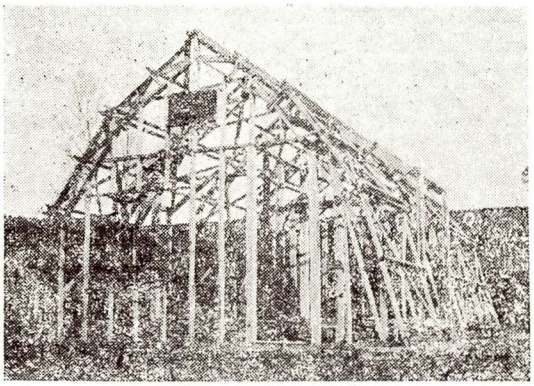
第56圖及第57圖は、張間12米の倉庫建築の一例で、梯形狀單位組成枠を作り、之を連結アーチ形に積置し、3米間隔に打立て、母屋振れ止め筋違等で固定して組立てを終つた。使用木材量は洋式一般構造に比し、約30%減、而も强度には何等の遜色もなく、積雪の深い建設地に於ける冬期試驗は上々の成績であつた。然し組成枠そのものゝ組



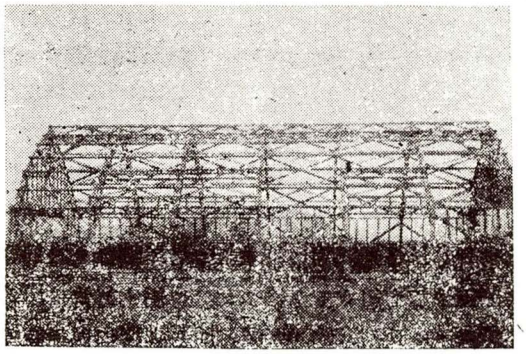
5 3 圖



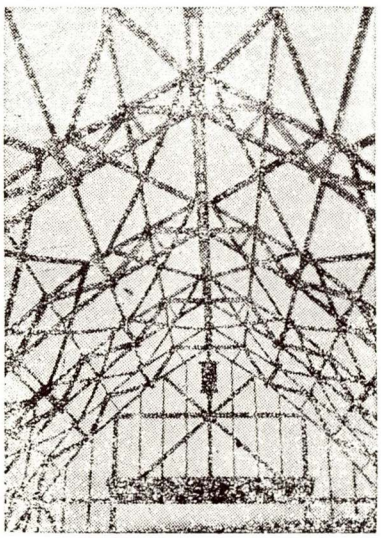
5 4 圖



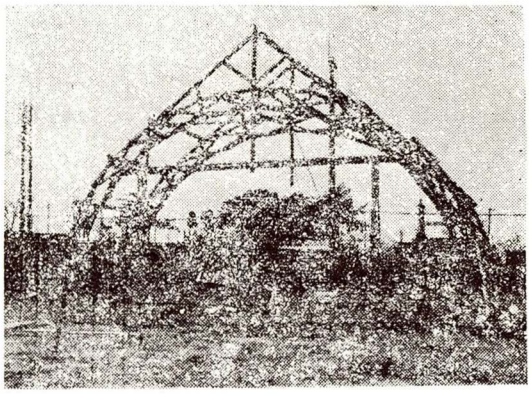
5 5 圖



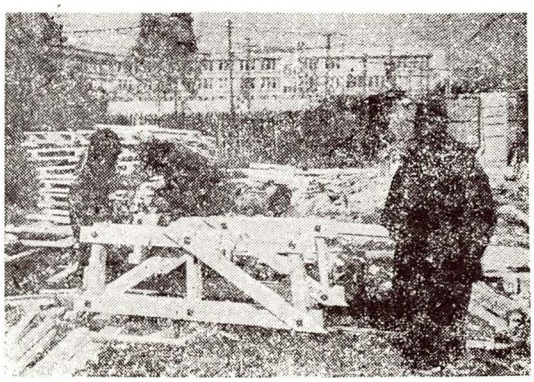
5 6 圖



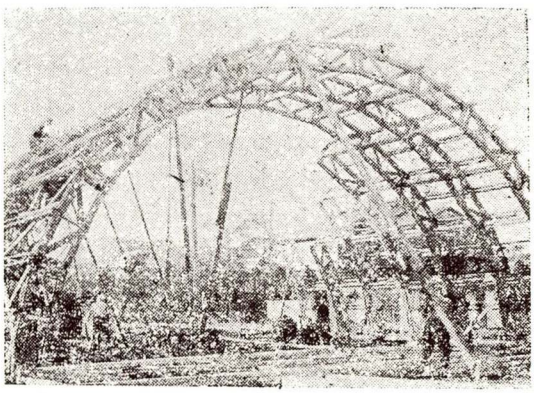
5 7 圖



5 8 圖



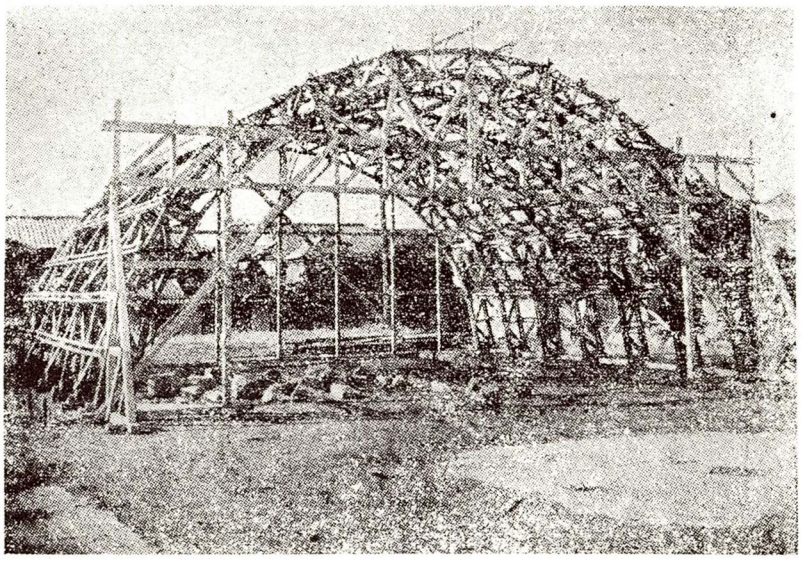
5 9 圖



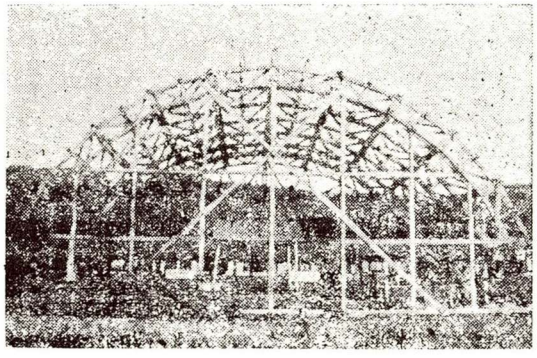
6 0 圖

み方が單純な爲め、大張間には到底耐え得られないが、10米～12米程度の張間には最適の様に思はれる。

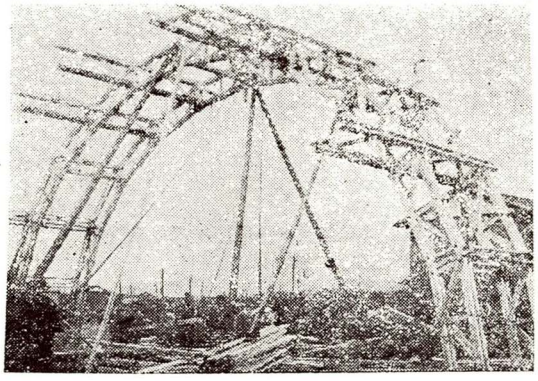
次に角材を以て圓形アーチを試作して見た。それは第58圖の様な架構を得たが、接點の結合が複雜な爲め、地上組込みに困難を感じ、止むを得ず再度二枚併せの弦材を使用し、張間16米のものを



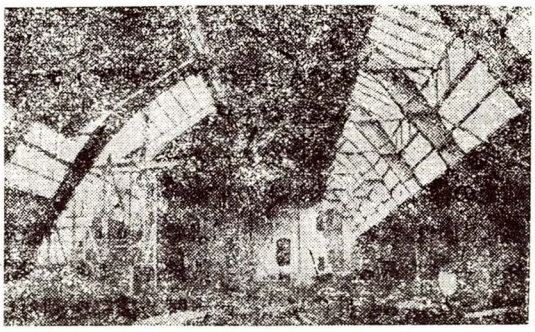
6 1 圖



6 2 圖



6 3 圖



6 4 圖

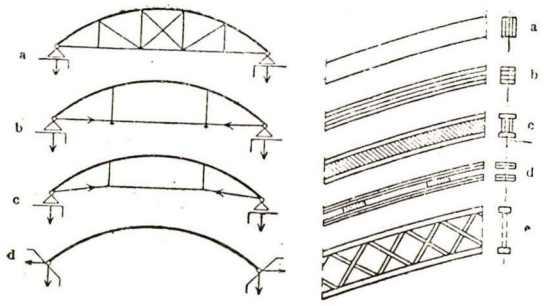
完成した。然し張間が增加するに伴れ自動が嵩みトラスの打立て作業に手數を要するのは一つの缺點と云はれる。

茲で再び單位組成枠を連結してアーチ形架構とする方法に立戻ることになつた。

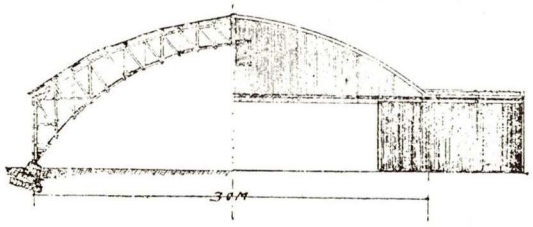
組成枠は第59圖の様に各構節を以て單位組成枠を作り、次に振れ止め付きの組母屋も同様單位組成枠として第60圖の様に組込むのである。

作業は先づ基礎上に左右共第一段を組み、次にT形のサポートを內面より當て乍ら逐次組母屋とトラス側の組成枠をブロツクで釣上げ、交互に組みつゝ斜に頂部迄組み上げる。斯くして無足場で極めて合理的に圓形アーチの架構が第61圖及第62圖の如く完成せられる。

此の架構方法に依れば、第63圖の如く30米～50米程度の張間には異論なく利用出來、構材も經濟



6 5 圖



6 6 圖

的で、架構そのものも二滑節又は三滑節トラスに比し、安定性があるものと思はれる。

次に獨逸に於ける圓形アーチの新興木構造には前記の様な張間84米以上の實施例もあるが、特に茲に引用した第64圖は張間30米の Omles の貯鹽倉庫の一例であるが、薄板を多數併合して圓を形造らしめて居る。此の構法等は市販の棰等を利用して、案外平易に施工出來る架構形態ではなからうか。

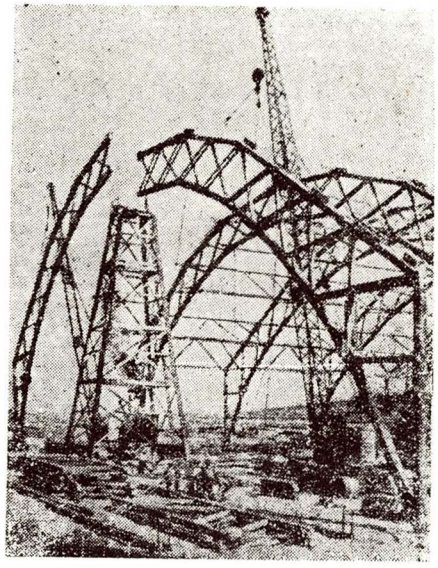
圓形アーチには時としてタイロードを必要とする場合がある。即ち第65圖の如きパラボラ形を有する簡單な不靜定二滑節構造としての取扱に際し

a……パラボラのトラストの場合
b……水平のタイを付する場合
c……傾斜せるタイを付する場合
d……タイを付さない二滑節構造の場合

以上四種の中で、右方の様な斷面を採用するとすれば、タイを付すものが最も斷面を少ならしむることが出來る上に、基礎へ傳達する應力が安定する譯とならう。

(G) カメルバツクトラス型

カメルバツクトラスを特に抽出したことは、同じ滑節型の中でも新興木構造として比較的注目す可き架構形態であり、大張間には寧ろ山形三滑節



6 7 圖

トラスよりも適當と思はれるからである。

代表的なものは格納庫として利用せられる第66圖の形式が、〃建築雜誌〃第54輯第669號に報告せられた三滑節トラスに依る張間45米木構造のレポートも良き參考と思はれる。

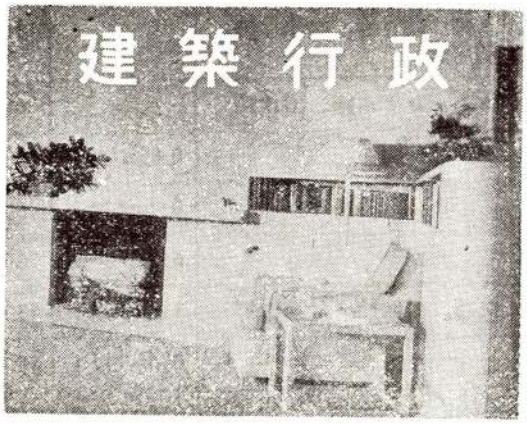
第67圖は1930年北米 S. Francisco に開催せられた萬國博覽會の建築物として、張間 200 呎の三滑節型カメルバツクトラスの實施例で、工事は中央頂點のピンで切離した半分のアーチを先づ地上で組み立て、別個に垂直に起し、別に施工用に建設せられた木造塔の上で、中央部ピンの取付け作業を完成したものである。

此の種の架構は主として、30米～70米程度の大張間に採用せられる形態であるが、往々基礎の脆弱な場合には惡影響が大きく、充分なる强度計算と嚴密なる施工に待たなければならない。

次にラーメン構造に就いては新興木構造のみに許された新式構造であるから稿を改め、次號に詳記し度いと思つて居る。

—— 未　完 ——

（筆者は日本ライト建築株式會社技師）



大規模木造建物防火改修

大規模木造建物の防火改修は、昭和16年度から一般の木造建物防火改修と並行して實施されてゐます。大規模木造建物と謂ふのは、一棟の床面積が600平方米を超えて、且つ軒高が6米を超ゆる木造建物（鐵骨木造建物を含む）を指すのであつて、普通の場合、總床面積が約180坪以上で、二階建の木造建物であれば、該當するわけであります。防火壁に依つて區劃せられた建物の部分も、一棟と見做してゐますから、既に建築面積200坪以内毎に防火壁を設けてゐる木造建物の部分も、勿論該當するのであります。

施行建物は、防空重要都市に於て、先づ中樞地域及び重要施設の附近に在る建物、現在一般の木造建物防火改修を實施してゐる區域の附近に在る建物から始めて、順次全市の地域に及ぶ豫定になつてゐます。建物の種類は、公有の建物として學校・廳舍等は勿論のこと、私有建物では學校・病院・倉庫等について、順次實施いたします。

改修工事内容の要綱は

1. 外壁・軒・庇・軒蛇腹ノ類又ハ出格子・肘掛・戸袋・其ノ他ノ突出物ハ、準耐火構造トナスコト。
   但シ、庇・出格子・肘掛ノ類ニシテ輕微ナルモノニ在リテハ、準耐火構造ヲ有スルモノニ依リ絶緣セラルル場合ハ此ノ限リニ非ラザルコト。
2. 窓又ハ出入口ハ防火建築規則第四條ニ依ルコト。
3. 桁行12米ヲ超ユルトキハ、間隔12米以内毎ニ、屋根裏又ハ天井裏ニ鐵網「モルタル」塗土・漆喰・金屬板ノ類ヲ以テ區劃スルコト
4. 天井ヲ不燃材料又ハ耐火木材ニテ構成スルカ、又ハ防火塗料ヲ塗布スルコト。

といふのでありますが、要するに、外廻り——外壁・軒裏等は、道路・空地・近接建物等の近況に關係なく、一律に準耐火構造——普通は厚1寸2分以上の「モメント・モルタル」塗となし、窓出入口は一般の改修と同樣であり、尚ほ屋根裏及天井裏の防火區劃、天井の防火處置も、合せて實施するといふことになります。

この防火改修事業の施行は、一般の木造建物防火改修事業と同樣に市がこれに當り、助成方法は市の交附する補助金に對して國庫が補助をする事になつてゐます。補助金については、市が工事費用を審査して、次の區分に依つて決定いたします。

即ち

1. 學校・病院等公共ノ用ニ供スル建物ニ付テハ改修工事費ノ3分ノ2以内、但シ床面積一坪ニ付、20圓ヲ超ユルコトヲ得ザルコト
2. 其ノ他ノ建物ニ付テハ改修工事費ノ2分ノ1以内、但シ床面積一坪ニ付、15圓ヲ超ユルコトヲ得ザルコト

といふことになつてゐます。

今度の防空法改正に依つて、防火改修が法文化されまして、近く防火改修規則が公布されます。勿論その中に大規模木造建物の防火改修に關することが含まれるわけでありますし、以上の要綱の外に防空・防火上有効な條項が加へられ、又區域も防空建築規則の施行區域になります。

尚近く、防空建築規則が改正される時期には、建築する場合にも、所謂大規模木造建物については、同樣の主旨要綱に依つて、始めから工事をする樣に法文化されることになりませう。

（小原敏一）

煙突設計に就て

煙突設計に際し、その高さ及口徑を必要な限度に於て適當に定めることは、資材節約上特に留意されるべき筈であるが、往々にして、その使用される罐又は爐に對し、煙突の高さ及口徑が必要以上に過大なるもの、或は過小なるものが見受けられる。煤煙防止の方では、高さ口徑が大き過ぎても差支へないが、資材の方でその査定に際し低減を要求されるので、設計に於てこの點を殊に御注意願ひ度いと思ふのである。

資材節約に留意して煙突の高さ、口徑を適當に定めることは構造强度上に於ても、次に述べる事項と併せ考慮さるべきであるが、こゝでは使用される罐或は爐に對する適當の大さを定める規準に就て述べる。

この規準は從來も內規的に概略は定められて居つたのであるが、猶抽象的な點も又不備な點もある樣に思はれるので、これを若干補正した結果算定規準として大抵の場合は一般に下記條件に適合する樣高さ及口徑を定めるを適當とする。但し特別のものはその條件に應じて別に算定しなければならない。

$$\left\{\begin{array}{l} G\times(\text{火格子面積合計}m^2\text{又ハ}) \\ (\text{ストーカ毎時送炭量kg})\times 0.8 \end{array}\right\} \leqq (147A-27A)\sqrt{H}$$

但しH＝煙突高　m

A＝煙突頂口斷面積　m^2

G＝石炭、コークス、煉炭を手焚する場合の毎時見積燃燒率　kg/m^2（下表）重油を用ひる場合はこの75%をとる薪木、鋸屑等を用ひたる場合は、この50%をとる。

Gの標準（火格子面積1m^2當kg

罐又は爐の種類	火格子面積	G
水管罐	4m^2以上	175
〃	4m^2未滿	140
ランカシヤ罐、コルニツシユ罐、煙管罐、汽車型罐、舶用罐		130
セクシヨナル罐、溫水罐		60
竪罐	0.45m^2以上	100
〃	0.2m^2以上	60
〃	0.2m^2未滿	30
窯爐、熔解爐、加熱爐等	1m^2以上	130
〃	0.5m^2以上	100
〃	0.5m^2未滿	60
風呂竈、和釜		50

尙上式の中右式は從來用ひられてゐるもので、各種の高さ及口徑に對する數値の表が多く發表されてゐるから、これによれば計算の手數は省略される。

次に附屬設備としての避雷針であるが、これも從來の規準に變更を加へた部分が多少あるので、これも煙突に限つたものではなく、一般的のものであるが、こゝにその變更部分のみを附記しておく。

1．地中板は銅の節約上なるべく代用品を使用すること。代用品の規準は「合計表面積1m^2以上の（六共式、松下式、又は精陶式）炭素板（棒）とし、之に地線と同等以上の効力ある導線を適當に封入し、且板（棒）より30糎以上の部分を絕緣材料にて防水被覆するものとす」

2．從來施行してゐた金鍍は之を施きぬこと。鍍を施す場合はクローム鍍とすること。（**横見幹**）

資材難と建築物法

シンガポール陷落し、大東亞の制空海權を完全に把握したと云つても、戰はいよいよこれからであつてみれば、鐵、セメントの建築資材の入手難の緩和される日はまだ遠いと思はなければなるまい。從つて我々は、まだ當分「鐵材さへ入手出來ますなら、勿論法規通り致したいのですが……

……」と云ふ陳情をきかなければならない。資材難と市街地建築物法——聽く我々も、辛いのである。從つてこの大戰非常時局下に於て平常通りの法令を施行するところに無理があるとの說も一應頷けるわけである。然し材料不足なるが故に構造規定を考慮せずに多くの建築が出來た時は、都市の構成の上からも、後日適法に改修の難事業である事からも、震災後のバラツクで試驗濟である。と云つても戰時體制下であつてみれば、法令の運用について相當考慮も必要であらう。大阪府建築課に於ける兩三年の事例からその大略の方針を記し、御參考に供し度いと思ふ。

1 甲種防火地區に就て

鐵、セメントの不足が最も大きく響くのは甲種防火地區であらう。建築面積200坪未滿で、階數2以下、建築面積100坪未滿で、階數3以下のものは無筋コンクリート建、煉瓦造にでもすれば、開口部の取付け如何によつて、現今でも建築可能であるが（規則第119條乃至123條）先づ一般にはむづかしいであらう。この際の事であるから除却期限付で許可して欲しいとの聲もよくきくが、防空上から考へても面白くない然し下記の二つの種類の建物は木造でも存續期限附で、規則第135條ノ二の假設建物として認可して居る。期限が來れば除却するのが原則であるが、その時の情勢、建築の狀態に依つて、その延期も認めないわけではない。

A　統制會社の建物

此の度の戰爭で一番轉換をしたのは經濟部門であらう。この經濟改革遂行のため、各業統制會社の設立を行政官廳から慫慂された場合、その建物に對しては下記の條件を附して認めて居る。

イ　階數2以下にして層階を有せざること。

ロ　外壁の構進は厚2センチメートル以上の「鐵網モルトル」塗の類となすこと。

ハ　本屋は隣地境界線より2メートル以上の距離を保存すること、但し境界線に面する開口の狀況に依り支障なしと認むるものはこの限に在らず。

ニ　存續期限は一ケ年とす

B　防空資材庫

戰爭の規模が擴大されるにつれ警防團や町會で防空資材庫の建築が多くなつた。何れも5.6坪のものであるが、防空用資材の確保の上からも外壁の耐火構造を奬めては居る。然し費用の問題もあり、急には困難であるので次の條件附で認めて居る。但し個人用のものは含まない。

イ　建物は防空建築規則に適合せしむること

ロ　存續期限は一ケ年とす

2 軒高の制限に就て

一般の建物では起らない問題であるが、工場等に就ては、その內部の機械設備の關係上、木造軒高の限度9メートル（令第5條）以上を絶對に必要とする場合がある。鐵骨の入手難ばかりでなく、鐵鋼工作物築造許可にさへならない場合もある。その樣な時は令第29條に依る假設建物として一ケ年の存續期限附として認可して居る。これは工業用建築物として令第13條の高制限免除の取扱は出來得ない。鐵材さへあれば片付く問題であるからである。

3 自動車々庫に就て

自動車々庫は特殊建築物規則第53條で、床面積50平方メートル以上のものは壁體、柱、小屋屋根、天井等を不燃材料で構成又は耐火構造とする樣に規定されて居る。壁體や柱は無筋コンクリート造、煉瓦造で宜しいが、小屋に困るのである。ガソリン規正や統合の關係で大きな車庫を建てる時起る問題である。出來るだけ50平方メートル以下で、棟を別にする樣奬めて居るが、已むを得ない時は小屋は木造とし、天井は「鐵網モルタル」塗とし、特殊建築物規則第6條による假設事業として一ケ年の存續期限を附し許可して居る。

4 道路を横斷するパイプ受に就て

道路に依り距てられた2m以上の敷地に亘る工場に起るのである。從來一貫作業の必要上已むを得ぬ場合に限り鐵骨造で認可して居たのであるが、之も鐵材使用緩和の時機到來の際は、直ちに鐵骨造に改修させる條件付で、木造を認めることにした。

以上四つの場合は假設として取扱つて居るのであるが、その用途、存續期間から考へて、平常な

らば到底認容し得ない事である。市街地建築物法戰時體制版である。次に期限付ではない所謂代用品に就て擧げて見度いと思ひ。

5 防　火　壁

規則第30條の防火壁に就ては昭和14年2月の改正に依り所謂簡易防火壁の制定を見たが、鐵板の使用に就て鐵鋼工作物築造許可規則の許可が至難となり、學校、工場等で支障を來すことが多く、依て次の様な防火隔壁を200坪以内毎に設ける時は、規則第29條の防火壁の設置を免除することとした。即ちその構造は

A　煉瓦半枚積みの上に兩面モルタル塗（厚1センチメートル以上）となすこと

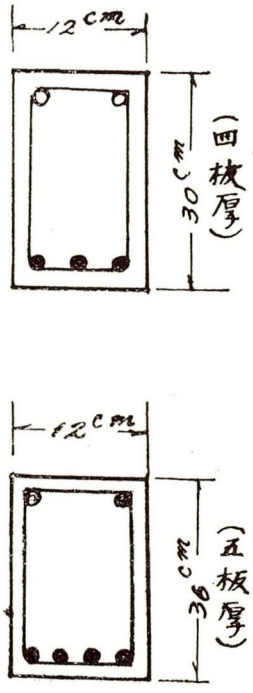
B　防火隔壁の兩端は建物外壁より1尺以上突出せしめ出軒の部分は軒先面迄突出せしむることとし、上端は屋根面より5寸以上突出せしむること

C　防火隔壁兩側の木造軸部は1メートル間隔以内毎に通柱又は管柱を立て筋違等にて堅固なる構造となすこと

D　煉瓦壁は下記何れかの如き方法により上記兩側軸組に緊結すること

イ　6ミリボールトを3尺以内毎に兩側柱に通し締めつけること

ロ　8番線を以て作れる手違金物を以て煉瓦積み7段目以内毎に各柱に緊結すること



E　開口部には下記の標準による鐵線入コンクリート造の楯を用ひ、壁體に20センチメートル以上に挿入すること

イ　幅員9尺以下の場合

○8番線2本束

●8番線3本束

スタラツプ8番線20センチ間

ロ　幅員12尺以下の場合

○8番線2本束

●8番線3本束

スタラツプ8番線24センチ間

F　煉瓦壁及兩側木造軸部の腰積み及び基礎はコンクリート造（1:3:6）を以て一體として施工すること

6 甲種防火戸

鐵扉が禁製品となり、厚15センチメートル以上の土藏扉では、その重量を支持する蝶番が容易に得られぬ現代では、次のものを規則第1條第17號「ニ」に依り防火戸を認める事とした。但し實際上防火的効力を有せぬと認めた時は認定を取消すこととし、試驗的承認である。

イ　各框及桟は何れも耐火木材を使用し、鏡板は岩綿板を嵌入取付け、更に各框及桟の見え掛りは薄い岩綿板にて張包みて扉とし、その扉の兩面總高を鐵板張りとするもの

ロ　各框及桟並に鏡板は前號に準じ製作し、その內外面を更に適當厚の不燃板にて張包み、その上面總體をセメントモルタル吹付仕上げとするもの

ハ　前號の不燃板に代ふるに竹筋入マグネシヤセメントモルタルも塗仕上げとするもの、故に下地は全部前號に準じ製作するものとす

ニ　各框及桟を耐火木材とし、鏡板も相當厚の耐火木材を使用し、その扉の內外面總體を岩綿板にて張包み、その上を更に薄鐵板にて被覆せるもの

7 防空建築規則に依る建物の外壁

防空建築規則に依る外壁の構造に就ては同規則第4條第1號に規定されて居るが、同號「ホ」に依つて認定したものに次の如きものがある。但し之も防火戸と同様試驗的承認である。

イ　厚1.2センチメートル以上の不燃板に厚1センチメートル以上セメントモルタル塗とするもの

ロ　セメントモルタルの上にタイル貼とし、相當厚を有するもの

ハ　マグネシヤセメントに鋸屑を混じ木摺下地に塗立て硬化せしめたる厚2センチメートル以上を有するもの

ニ　輕ブロツクを張付け、目地をセメントモルタル塗とせるもの

8 井同住宅の天井

共同住宅の天井に就ては特殊建築物規則第26條で鐵網モルタル塗、耐火木材張其の他之に類する構造と規定されて居るが、鐵網、セメント入手難の折柄、次のものを「之に類する構造」として認めて居る。

イ　不燃板張りのもの

ロ　マグネシヤセシントに鋸屑を混じ、木摺下地に塗立てたるもの

9 カタラスターと水滓セメント

現在建築課で配給して居るカタラスターは代用セメントと云つても强度がないから、壁體塗裝用にのみ使用されるものである。

セメントも代用セメントであるが、之も强度が少いから、住宅の基礎程度にしか使用出來ないものである。

10 鐵線入コンクリート造

之は鐵筋不足に使つて考へられた構造法である。主として8番線を使用するのである。建築課で鐵線の强度試驗をした上で、使用を認めて居るが、臥梁や楣等の様な補强用部分にのみ承認し、主要構造部には認めて居ない。

次に之は直接建築物法に關係はないのであるが、木造建物建築統制規則に依つて木造の大邸宅の新、增築は許可にならないので、木造部分は30坪以下とし、他は無筋コンクリート又は煉瓦造としての申請が時々出るのである。之に對しては資材難の折柄材料の配給をせぬのであるから建築申請の際却下の方針である。取下げを慫慂されるまでもなく、さうした建築はこの際遠慮すべきではなからうかと思ふのである。

（岡田達彌）

紫煙室御投稿に就て

☆　先般來各方面に亘り御投稿をお願ひ致しました處、續々と御投稿を賜り、此の欄より面目を一新して活氣ある隨想、研究、等々　掲載出來る事となりました。乞御期待。

☆　活字、組方は本文と同様22字詰二段組となり非常に見やすくなりました。

☆　御投稿は今後も會員の爲の新聞として各方面からの御投稿を希望して居ります。

☆　原稿用紙は、御執筆の御意向を編輯係迄御通知下されば御送付致します。

☆　掲載は順に致します爲、或は都合で遲れる事があるかも知れませぬが其の場合別に御通知致しませんが御諒承願ひます。



さかさま

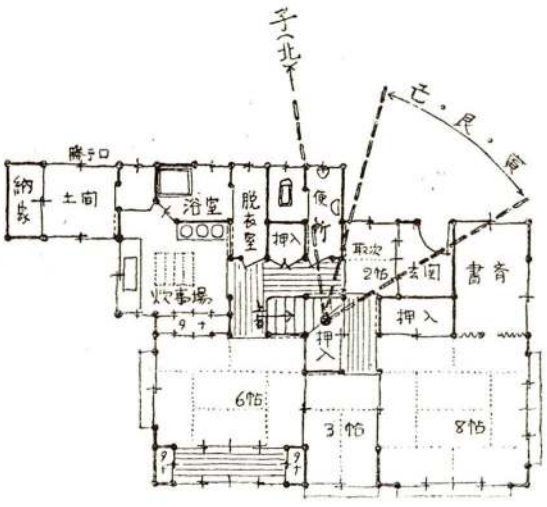
山口　正

滿員の車内に突然空席の出來た時、誰か年寄が坐るだらうと、左右をみまはして、誰も席を占めようとはしないのに、はじめて自分がその場での年長である事に氣づく——この年頃になつて、これは聊か年がひもない話だが、ずつと以前からの習慣で、元日はレビユーの研究といふ事になつてゐるので、この春も若い人を誘つて、お宮詣での歸へりの足を新京極レビユー小屋にむけた。どこもここもいつぱいで、やつと這入れた小さい小屋では、レビユーはなくて、小さい舞臺いつぱいに大きな男が2人さかだちをしてゐた。製圖室にあるような坐板の小さい廻轉いすに頭をおしつけてさかだちをしてゐる2人の男は三味線にあはして、いすを廻轉させたり、脚をひろげたり、すぼめたりした。しまひには、さかだちのまゝ、土瓶からコツプに水を注ぎ、それをぐつと飲みほしたりした。長い時間さかだちしてゐるさへたゞ事でないのに、一體あの水はどんな風にして胃の腑へおさまるのだらうかと、觀客の感嘆をさらつた。又、われわれの間では、知覺空間とか、網膜像とか、視的對象の性格の變化とかゝ話題になつた。舞臺でさかだちをしてゐる藝人から觀客をみると、まるでわれわれ觀客がさかだちしてゐるようにみえるだらう。即ち網膜像からいふと、この兩者の間の關係では、藝人と觀客とどちらからも視的對象がさかさまに見え、一體どちらが本當にさかだちしてゐるのかわからない。ところが知覺空間的には藝人がさかだちをしてゐるものであることが明かである。すしづめになつて窮窟な思ひをしておまけに席料まで拂はされて、大きな男の變な格好に感心するより、藝人になつて、舞臺の上でのうのうとさかだちをして、さかさまになつた客席を眺めるほうが愉快だらう、と連れの1人が云ひ出したところから、こんな詮義になつたのであるが、いつその事、觀客も全部さかだちして、客席も舞臺も皆さかさまになつたら、知覺空間的にどうなつて、網膜像的にどうなるだらう？などと考へてくると、この世の中で知覺空間的に正しい側にある者の責務といふようなものが感ぜられる。世の中にするひとつのものとその反對のものとは、お互に、網膜像的には、相手がさかさまになつてゐると考へてゐる。議論といふものは、そういふところから出發して、お互に相手の倒錯を指摘する。

迷信を大切に思ふ側の人に云はせると、迷信だといつて一概にけなす事は以つての外といふことになり、科學者の眼からは迷信はあはれむべき1個の倒錯現象（さかさま）に外ならない。家相方位は、われわれの間では迷信だとされてゐるが、意外に信者が多い。迷信だといひながら、これを遵奉する人が多いのは、この迷信をけとばすだけの勇氣がなくこのえたいの知れないものが何となく底氣味惡く感ぜられるためであらう。『狐や狸の化けると云ふのは、本當であるかどうかは、動物學の問題ではない。これと同じ理由で、家相方位が當てになるや否やも、建築學の問題でない。』と伊東忠太博士はその著『家相はあてになるか』で述べてゐる。けれども、建築の社會において、問題にされない筈の家相が甚だ大いに關心を持たれてゐる現象をば、我々は見すてゝはおけない。我々からは

家相がひとつの倒錯現象に見へ、家相家からは、我々がさかさまに思へるのであらうが、それは網膜像の問題であつて、知覺空間的には、明かに家相家がさかさまであつて、我々が正常位にあることは、今日すべての災、地震、雷、風水害、病氣などが科學的に明かになつてゐるとき、まことに當然といはねばなるまい。筆者は、この知覺空間的に正しい側にあるものゝ責務として、昨年1月の本誌上に『家相家に挑む』なる稿を發表して、大いに家相家の反省を促した。もとより筆者如き輩の筆力を以つて家相家の1人たりとも動かし得るとは思はぬが、多少の反響を期待したに拘はらず、一の反撃にも出會はなかつた。家相といふものが如何にとるに足らぬ迷信であり、世間ではどう考へられ、建築家達にどう扱はれてゐるかを說き、家相の如き迷信は斷乎排撃すべきであると主張した拙稿を默殺した家相家達は相も變らず悠々と鬼門裏鬼門の詮議建てにうき身をやつしてゐる如くである。家相家の陣營から1機の舞ひあがつて應戰するものが無かつた代りに、味方の陣營からは、實に14通の贊成意見や激勵文を賜はつた。せめて我々の時代に家相といふものを無くしておかなければ、子々孫々に對して申しわけ無いなどといふのもあつた。

さて、こゝでは多くの議論を見合せて、ひとつの例證を提示して我が家相撲滅陣營を强化しておこう。迷信を排撃する多くの立派な人達が、いざ我が家を建てる段になると『別に人の嫌がる事をわざわざしなくてもよい』などと、ていさいのよい事をいつて、家相家のいふ通りの家を造つてしまふ。それ程弱い人間の1面を見せつけられるにつけ、何とかしなければ、幸福の假面をつけた多くの不幸を我々の住宅の周圍から追つ拂ふことが出來ない、と筆者は常々考へてゐた。その筆者が自らの住宅を新築する機會を得て、先づ考へた事は、自分の家の設計に家相方位を考慮に入れないのみでなく、いつそ、うんと家相の悪い家をつくつてみようといふ事であつた。そして悪い家相の家に住むといふ事が、如何なる影響を我々の上にもたらすものであるかを實驗してみようといふ事であつた。多くの議論よりも、ひとつの實證が人を動かすといふ事實を知つてゐたからである。家相に適合する家を設計することもむつかしいが、家相の悪い家を設計することも仲々むつかしい事であつた。たゞ家相が悪いだけなら、なんでもないが、自分の生活に適はしく便利な間取にして、しかも家相を悪くつくるといふ事は、同じ條件のもとに家相をよくすることゝ同じ程度に骨が折れた。先づ、北側から南むいて入る敷地、住宅地など　いつも賣れ殘りになるような敷地を手に入れた。そして鬼門に便所をもつてゆこうとしたが、うまく納まらない。やつとのことで玄關を鬼門に入れ、便所は家相家のもつとも嫌がる眞北へもつていつた。もはやこれ以上家相を悪くする事は自分の力の及ぶところでなかつたので、圖の如き間取にまとめて實施した。この間取で家相に悪いのは、玄關、便所だけだと思ふけれども、意地の悪い家相家が見てくれたら、もつと悪い點が多々あるだらう。そうなればこの家を建てた目的にますます適ふわけである。この家に住んで2年目に、筆者は前の勤めさきを首になつた。首になる氣持ちなどといふものは、この頃學校を出て來る若僧諸君にはわからない。その頃勤め口を失ふといふ事は、結局明瞭に食道を失ひ、家族を連れて路頭に迷ふといふ事であつた。だからその頃人を首にするといふ事は、多少共人を殺すといふ行爲に似てゐた。この大きな不幸に直面して、筆者は、なる程これが悪い家相のたゝりかと思つた。そして新しい職を求めて、每日鬼門の玄關から、出たり入つたりしてゐる中に、1ケ月ばかりで、現在の勤め口から採用してやるとの吉報が、鬼門の玄關柱にとりつけた郵便受に投げこまれた。鬼門はなかなか味なものと思つて、働く事に夢中になつてゐると、女房が病氣になつた。いよいよ、おいでたなと、病妻を拘へて鬼門の方を睨みつけてみたのは、何だかその方角に悪い家相の陣營がありそうに思へたからである。しかしこの災も、大した災でもなかつた。前に失職の折は、恩師先輩の御好意を忝ふしたが、こんどは親しい友人の醫者が、貧乏な筆者に金を費やさせないようにして、女房をもとの健康な身體にとりもどしてくれた。筆者は、こうして一寸不幸の前ぶれみたような事件に出會はす每に、嬉しい人情にぶつゝかつて、この世の中を、何となく和かな住みよい處と思ふよう



になつた。建築家としてはまことに取るに足らぬ力倆ではあるが、よき上司の下、よき同僚に取りまかれて、力に過ぎた待遇を受けてゐる現在の身分では、どうも悪い家相が自分にたゝる事を忘れてゐるようにしか思へてならない。そんなら、お前の貧乏はどうだ。それは不幸の中に入らないのか？と人は反問するでもあらう。なる程、貧乏は貧乏だ、然し、我が家の鬼門の玄關に『貧乏自慢』と書いた大きな額がかゝつてゐる事を諸君がみつけたら、貧乏も筆者にとつては生活の上の一生彩である事を感得してくれるだらう。かくして12年間をこの家にすみ、筆者はすでに悪い家相の魔力をみくびつてしまつてゐる。人生だから、明日にも、如何なる事象が筆者の身の上を襲ふか、それを否定する如き横着な心は少しもないけれどおよそ不幸らしいものが、筆者の玄關を鬼門から襲ふと、必ずその後から、人情が朗かな空氣を送りこんで來て、筆者の心をひきたてゝしまふ。不幸といふ奴は、根切に現はれた大石の如く、わづらはしいものであるが、これを割つて栗石にすれば、新しい建物の地固めになる。悪い家相の家に住むと、或ひはこの大石が澤山出て來るといふ事かも知れない。然し問題は、この石を割つて栗石にする事にあるのではないかと考へる。

（昭和17年1月26日稿）

革新期の若き建築家へ

——K への手紙——

小泉嘉四郎

伊東からのお便りありがたう。凍えついた暗い夜の道をアパートへ辿り歸つて、久し振りの君からの病氣の恢復を報せる手紙を承取つた。溫いものを感じた。

早春の溫泉宿も、超非常時のこの頃「伊豆の踊子」のロマンチシズムは到底見當らなかつたことだらう。が兎もあれ、早く快くなつてくれて、ほんとに嬉しい。現在、東京大阪と互に離れて暮してゐやうとも、若し、不幸にして病魔に君を奪ひ去られたとしたならば、僕は數十のカマラードを一時に失つたよりも、もつと空虚を感じさせられたかも知れない。癒つてくれて、ほんとによかつた。

※

君と僕との人生記錄として、今後相互の文通を保存して置いて、他日返還し合ひ度いと云ふ君の提案には全く賛成です。（現在までの君からの手紙は全部、既に僕の手元に保存してある。だから何時でも返還に應じられるよ）僕には以前から、單なるビシネス以外の何ものかの記錄に價するやうな書信は保存して置く癖があるのだ。

君と僕との私信の中にも、たゞに君と僕との個のためのみでなく、更に廣く多くの人達、後世の人達にまでも、何ものかを與へ得るやうな文章が含まれて居れば、機會をみて何かの形式で發表するなり、後世へ遺すなり、といふことも考へられる。僕もこれから僕自身の人生手帳へ書き留めるつもりで、君へ便りすることにしやう。

※

人生について、建築についての十數枚に渉る長い君の手紙の凡ての點に、僕はそのまゝ同意出來る。これは恐らく、君と僕との根本の世界觀、人生觀が一致してゐるからなんだらう。（こんな友達同志なんて稀にしか在るものぢやない）

學生時代から優れたデザイナーとして尊敬してゐた君が、學窓を出て七年を經た今日「生涯の目標が、財を蓄積することでもなく、地位を築くことでもなく、唯人類が誇り得る不滅の作品を創造することにあるといふことに歸結した」と云ふ若々しい純眞さと、覇氣に滿ちた言葉を送つてくれたことを限りなく歡ぶ。

さうだ、人類をより自由へと解放し、人類の共同の幸福のための業績を遺し、人類の誇り得る作品を創造することこそ、われわれの使命である筈だ。「お前は人類のためによく闘つた」と人類から賞讃され感謝されることくらゐ、個人にとつて名譽なことはないと思ふ。

※

君はこの歸結に達するまでに、隨分永い間の疑ひと逡ひを經ねばならなかつたと云ふ。或ひは政治家に轉向したらと逡ひ、或ひは醫者に成つた方が良かつたのではないかと疑つたりしたと告白してゐる。だが君の幼少の頃から現在に至るまでの小さな生活記錄を讀ませて、もらつた結論として「君は矢張り建築家に成るのが一番正しかつたのだ。建築界は現在君のやうな人物を要求してゐるのだ。いや人類は君に對し建築文化の部門を擔當すべき使命を課してゐるのだ」と云ふ言葉を獻げたい。固より現在、建築文化の進展といふことは最早唯に建築技術の範圍内だけでは、決して解決し得ないだらう。われわれには、單に建築家たる以前の人類の一單位としての使命を課されてゐる。さきの言葉は勿論この意味をも含めての言葉だ。

※

先日こちらの役所で「國内新體制と建築」を語る座談會が催されたので出席してみた。が、現代の若い建築家達が、案外こんな問題に關心を持たうとせず、出席者數の尠いのに意外の感だつた。アジアが、否全世界が新しいシステムの胎動陣痛に呻吟してゐる現在、苦惱する歷史と共に、斯の様な問題の内容を眞身になつて考究する建築家こそが、眞に人類を愛する人であり、眞に國家を愛する人と謂はるべきではなからうか。（このやうは問題に對して冷淡な態度は種のエゴイズムだと僕は思ふ）

この「新體制と建築」と云ふ主題の中には、非常に多くの問題が含まれてゐると豫想される。ちよつと考へたゞけでも「新體制様式（スタイル）の問題」「建築生産方式の變貌」「規格化標準化の問題」「建築課題の變革」「物資貯藏、配給施設の問題」「公共施設分布の問題（都市計畫學的に觀たる）」等々が浮んで來る。勿論これらの何れの一つも大きな問題であり、今後充分に檢討考究さるべき問題だと思ふ。

東京の連中達の意見も聽かせてもらひたいとも思つてゐる次第だ。

※

この「新體制様式の問題」の考察の一助として先日來、分離派以後のわが國の建築文化運動史を少しく調べてみた。皆ての若い建築家達の採つた行動、遺した言葉、造つた作品の裡に、現在われわれの學ぶべきものが非常に多い。

「建築家は青寫眞とスケールを持つた泥人形でもなし、單に製圖するロボツトでもない。それは生命を持つた人間である。社會的一單位であり、新らしき理想の社會を建設する技術家である」

これは十數年も前、創宇社の一同人が遺してゐる言葉だが、敢えて此處に書き留めて置かう。それはこの言葉が、現在に於ても尚正しい言葉であり、今日依然として繰返す價値があると信じるからだ。

※

いろいろと書いてゐると、限りがないから、今日はこの位で筆を擱かう。

充分自愛されるやう。御健康を心から祈る。

二伸

病後の靜養に繪を描いてゐる由、いゝ事だ。東京横濱の山手を、カンヴアスを抱えて歩いてゐる君の姿を想像し得る。作品の個展をやると云ふがやるなら繪の個展ではなく、いつそ建築家として建築の個展をやつたらどうだ。建築個展の開催と云ふのは今迄聽いたことがないが、こんな形式も建築界に有たせてみたいものだ。そしてそれを最初にやる人として、君なんか最も適任者だと思ふんだが。（1942，2，15）

會報

常務會（第二回）

時　1月27日午後5時—6時
所　大新樓別室
出席者　理事　井上、竹腰
主記　中西、藪中、桐本、佐藤
主計　小林、松久保
編輯　伊藤、錦田

議事　1. 委員、幹事委囑に關する件
2. 防火改修展覽會開催の件
3. 團體生命保險加入の件
4. 雇採用に關する件
5. 會員詮衡

報告　1. 昭和十六年度決算報告
2. 入營者報告

常務會（第三回）

時　2月10日午後5時40分—7時20分
所　陳列場
出席者　理事　井上副會長
監事　池田
主記　中西、
主計　和田、松久保
編輯　小林、伊藤大下、錦田

議事　1. 記念事業振替金處分の件
2. 記念事業項目豫算並委員決定の件
3. 法制委員會委員委囑の件
4. 都市計畫、敎化、災害、法制及設備各委員長會合の件
5. 東部軍經理部より會誌購讀方申出の件
6. 東京帝大第二工學部より會誌寄贈方依頼の件
7. 給仕辭職願出の件
8. 會員詮衡

報告　1. 一月例會終了報告

常務會（第四回）

時　2月19日午後5時40分——6時50分
所　陳列場
出席者　理事　井上
主記　佐藤、中西、西澤、藪中
主計　小林三、和田
編輯　伊藤、錦田

議事　1. 三月例會に關する件
2. 引繼事務檢討の件
3. 評議員會並に臨時總會開催日の件
4. 會員詮衡

一月例會（懇親會）

時　1月27日午後6時—8時30分
所　大新樓
出席者　竹腰副會長外63名

議事　1. 午後6時10分—同起立、中西主記司會の下に國民儀禮を行ひ、直ちに着席の上會食
2. 午後7時20分竹腰副會長一場の挨拶を述べ、次で本會創立記念事業の大異を說明の上記念事業並戰時下對處問題等に關し各位の隔意なき意見の提案を希望し、下記各位を指名す
伊藤爲吉氏、鈴木末尾氏、池田賓氏、島岡義太郎氏、石川純一郎氏、古澤與三八氏
3. 上記各氏より熱心なる意見の開陳あり、竹腰副會長より夫々謝辭を述べ、盛會裡に歡を盡し、午後8時30分散會す。

第四部會（第九回）

時　1月30日午後6時10分——8時30分
所　クラブ室
出席者　主査　渡部
幹事　伊東
委員　松久保、岩尾、岡本、木村、小西

議事　1. 臨戰體制の議案審議の件
2. 東京部會委員より情勢聽取の件

陳列場幹事會（第二回）

時　2月4日午後6時——8時30分
所　陳列場
出席者　幹事長　松久保
常任幹事　野中、道田
幹事　楠瀨、榊、笹岡、矢田、中西

議事　1. 資料集成の件
2. 座談會開催の件
3. 出品代表者會召集の件

材料委員會

時　2月12日午後6時——7時30分
所　陳列場
出席者　委員　楠瀨、高田、前野、松久保、道田

議事　1. 松久保委員より常務會の意嚮を傳達、委員長、幹事の互選に入る。下記の通り決定
委員長　楠瀨
幹事　榊、道田
2. 研究項目の件
3. ストニー製文鎭研究の件
4. 建具材規格農林省案に關し建築學會より申越しあり、之に對し以前農林桑

田案に對する回答を建築學會宛回答する事

5. 定例日　第一、第三木曜日

編輯幹事會（第一回）

時　2月10日午後6時——8時50分

所　クラブ室

出席者　常務　伊藤、小林、大下、錦田

幹事　尾龜、岡田、川勝、志賀、塚本、西村、廣瀨、宮崎、西村

議事　1. 3月號編輯項目に就いての説明及内容に就いて協議

2. 雜誌の組方編輯方法に就いて協議

時事問題及建築界のみならず土木、建材關係記事も掲載の件

4. 業界學界等ニュース掲載の件

5. 古建築及茶室記事を毎號掲載の件　其の他

住宅委員會

時　2月19日午後6時20分——7時

所　クラブ室

出席者　委員　伊藤、岡本、矢田、吉田、中野、石井

議事　1. 委員長、幹事互選の結果下記の通常選

委員長　伊藤

幹　事　岡本

2. 研究項目に關し協議の結果次回までに各自研究の上議題持ち寄る事

3. 次回開催日3月4日(水)に決定

會員動靜

入會

會員

小川　千里　住吉區昭和町西5の12（大阪市役所第二建築課）

大佐和彦太郎　兵庫縣武庫郡住吉村八甲田743（住宅營團大阪支所）

出口　幸三　府下北河内郡三鄕町高瀨舊此木181（住宅營團大阪支所）

富田　宏　住吉區桑津町150谷口正内方（住宅營團大阪支所）

箕浦　清七　北區中野町3117（住宅營團大阪支所）

沖田　誠一　住吉區田邊本町7の27（安全索道株式會社建築課）

經ケ阪　勇　兵庫縣武庫郡寶塚59（竹中工務店）

佐々木隆一　住吉區昭和町西3の22（中西建築事務所）

雜賀良之助　北區南錦町5（中西建築事務所）

谷川祿太郎　神戸市須磨區天神町2の7松本方（住宅營團大阪支所）

土井　秀男　浪速區東神田町875(中西建築事務所)

林　醇　西宮市川東町59（多聞土地合資會社）

地方會員

川井　要　天津市日本租界春日街25の22（天津鐵路局工務處建築科）

熊　幸夫　福岡縣企救郡曾根町（大林組横澤出張所）

明山　正二　旭區新森小路中2の85（布施市役所營繕課）

綱本　繁一　大正區福町2の35松尾橋梁株式會社内

田中　正治　京都市左京區岡崎北御所町24(ミラノ工務店)

田中　義光　京都府愛宕郡岩倉村長谷（ミラノ工務店）

武内　幸二　京都市東山區祇園石段下南（武内工務店）

德永　勝雄　住吉區山坂町4の27（長谷部竹腰建築事務所）

坂東　龍彌　府下北河内郡三島町小高瀨130（大阪師團兵器部）

古川　東一　普通賛助員より轉格（古川工務店）

水原　旭　尼崎市昭和南通4の47（大谷重工業株式會社大阪工場）

森本厚三郎　府下南河内郡大草村大美野（大林組）

渡邊　一志　京都市右京區嵯峨野神の木町2の2（ミラノ工務店）

地方會員

菅　寶就　東京市大森區新井宿2の1515大森ホテル瑞雲閣（高橋貞太郎建築事務所）

午坊　芳一　横濱市中區日村町1の1

繁田　實　名古屋市南區豊田町氷室道西1978（長谷部竹腰建築事務所）

中村　友英　鳥取縣西伯郡大篠津村（清水組）

松本喜三郎　岩國市室の木（大林組山陽出張所）

特別賛助員

上瀧　傳八　西成區南海道乙の17（大阪暖房商會工事部）

江口　圓　尼崎市杭瀬梶ケ島斗田19　三木田方（三宅建築工務所）

大石　增治　京都市下京區西七條西野町24（大石工業所）

小山　一郎　普通賛助員より轉格（大阪電氣大阪暖房商會）

竹内　一郎　東區谷町1の12（松村組）

普通賛助員

奥野　良一　北區都島南通1の53

中川　清　福岡縣八幡市大字穴生字喜池（竹中工務店出張所）
西村　利弘　京都市下京區醒井通六條下ル元日町六
宮本猪之松　兵庫縣明石郡魚住村長坂寺（竹中工務店）
望月勇治郎　（竹中工務店）
堂窪　晏次　天王寺區鳥ケ辻64（大東亞硬石株式會社）
上中　智　府下北河內郡守口町金下町1の118（東山炭鑛大阪事務所）
深谷　茂樹　旭區今市町1051（南方產業株式會社）
佐藤　德一　旭區赤南今1の96
小林　芳一　兵庫縣揖保郡網干町濱田（鹿島組出張所）

退　會

會　員

植竹春重君、中谷榮藏君、西原直一君、油清治郎君、熊谷泰治郎君、澤部實之介君、白川雅英君、中川修造君、奥島正一君

地方會員

四方信太郎君、田森信夫君、瀧口芳雄君、佐野清助君

特別賛助員

野田耕造君、南口清彥君

通賛助員

林　醇君、西澤保一君

轉居・轉勤

會　員

坂本　秀雄　旭區古市北通三丁目24
志賀　龍雄　府下三島郡三宅村字乙辻37
西川　鶴吉　伊丹市稻野南町568（大村組稻野出張所）
伊東　正也　伊東建築設計事務所
飯田精次郎　池田市西市場180
竹內　成夫　池田市花園區梅之莊
林　重三　勤務先　住宅營團大阪支部建設部
平川　武久　住吉區阿倍野筋2の1
平野　忠雄　東京市芝區芝公園十四號地三番（神奈川警察部建築課）
三橋　利雄　旭區大宮町西之町七丁目33の2
寺山　新造　京都府加佐郡由良村東崎
矢木　英夫　大阪市南區長堀橋北詰東松菱ビル內（船場3823）
河合　功　東區北濱五丁目住友ビル（住友鑛業技術部）
山田　榮藏　廣島市猿樂町58（清水組廣島出張所）
松永幸太郎　堺市南田出井町四丁目98

會員地方

西岡　喜一　小倉市城野町大林組出張所
香川義太郎　天津日本組界須磨街六ノ二東洋紡天津事務所
若松茂太郎　滿洲國間島省汪清縣春和村廟嶺東滿セメント廟嶺工場
小林　清造　府下守口町日吉町二丁目12
青木　巖　滿洲通化省通化市二道江東邊道開發株式會社社宅四六號（東邊道開發株式會社工務部建築課）
尾崎　敎一　東區今橋四丁目三菱信託ビル（東畑建築事務所）
政岡　基次　佐世保海軍建築部
三好　傳二　尼崎市北難波町2391の2
小川　政德　臺北市大平町三丁目9（錢高組臺北支店）
秋本　研造　新京特別市吉林大路304號（滿洲竹中工務店）
大島鐵太郎　東淀川區元今里南通21
75（住宅營團大阪支所工務第二課）
北村　祐庸　飾磨市英賀東組三班二號
中村松一郎　西淀川區傳法町北三丁目（鴻池組）
村田重太郎　勤務先、內務省神祇院總務局造營課
村山　三郎　東京市淀橋區百人町3の259（井尻芳治方）
飯野　藤吉　岩國市錦見2120
石津　昇　神奈川縣三浦郡北下浦村字野比（淺沼組出張所）
牛島　修　大阪陸軍造兵廠技術課營造掛
榊原　武彥　高知市鹽屋崎町75（濱田銀吉方）

特別賛助員

小林　敏夫　東成區大瀧町3丁目67
小鍛治盛二　西淀川區浦江中1の2（阿部方）

普通賛助員

吉岡　健　神戸市須磨區五位の池町3の227
上久保宗晴　奈天市大和區白蘭町26（門田宗己方）
上田　登進　府下三島郡茨木町上中條184（西田幸太郎方）
中堀　武彥　鞍山市北五條8番地の四
新川　富弘　旭區生江町7の129城北園內
田中　數雄　札幌市
森本　秀一　兵庫縣武庫郡良元村藏1（川西航空機竹中工務店出張所）

死　亡

特別賛助員

高寺市之介　昭和17年1月20日逝去（謹んで哀悼の意を表す）

改　名

會　員

柏本　正博　（舊名　源松）

編輯後記

編輯常務

伊藤和夫　小林清
大下順三郎　錦田直一

大東亞戰爭第一次祝賀の旗行列は中の島へ中の島へと續々繰り込んで居る。開戰以來僅かに2ケ月餘海に陸に空に赫々たる戰果を收め、既に大東亞共榮圈の大半を手中に收めてしまつた。御陵威の下皇軍勇士の力戰奮鬪の賜物たる事は勿論であるが、一億同胞の不言の底力と云ふものをつくづく感ぜざるを得ない。同時に今後之等新しい大東亞共榮圈の建設の大事業は懸つて我々國民の双肩にあり、今後の一層の努力によつて、折角の戰果に立派な實を結ばせる大責任のある事を改めて痛感する次第である。

適々我が日本建築協會は本年創立二十五周年の紀念すべき年に當り、協會としても劃期的に愈々本來の大目的に邁進すべき機運に到來して居るものと云へやう。不肖本年度編輯の任に當ることとなつた我々の責任も亦一層重大であり、淺學未熟果して責務の万分一を果し得るや否や甚だ心許ない次第である幸に會員諸賢の絕大な御支援御鞭撻を得て、大過なく責を果し得るなるならば幸甚である。

協會雜誌「建築と社會」は標題の示すやうに、單なる協會員の機關雜誌であるばかりでなく、建築を通じて社會に働きかけると云ふ使命を持つて居る筈であり、又一方協會員が雜誌を通じて建築のみならず、一般社會の事象を知ると云ふ事も一つの重要な要素であらうと考へられる。かう之ふ意味で、先づ聖戰下國民全般從つて建築關係者にとつても重大關心事たる南方事情を聞くの會を催して此處に載せる事とした。今後とも廣く各種の部門に亘つて、所謂「建築と社會」としての眞面目にかなふ樣に努めたいと考へる次第である。

會員諸兄に置かれても、此の趣旨に賛せられて各種お氣附きの點をどんどん編輯子宛御註文下さるやうお願ひ致します。（1生）

建築と社會

第25輯　第3號

毎月1回1日發行　定價㊍　1冊 50錢（郵稅2錢）
12冊 6圓（〃 24錢）

昭和17年3月5日印刷　昭和17年3月10日發行

發行・編輯兼印刷人　戸川弘
大阪市北區朝日ビル日本建築協會內

印刷所　プラトン印刷社
大阪市西區江戸堀南通2丁目13番地

發行所　社團法人　日本建築協會
大阪市北區中之島3ノ3朝日ビル
電話長北濱(23)4501番(9)
振替口座大阪 59975番
日本出版文化協會會員番號222043

配給元　日本出版配給株式會社
東京市神田區淡路町二丁目九番地

禁轉載

本號に掲載せるものは一切これを無斷にて轉載し又は單行本に上梓その他の複製行爲をなすことを禁ず。

●第二五集　第三号　掲載広告一覧（掲載順）

三菱商事
田中商会
米本栄商店
佐藤商事工業所
建築金物商会
協和製作所
ライトラバー商会
南満建材工業所
日本陶織
平松釣戸車製造所
大阪窯業セメント
竹原文泉社
美本工業所
萩工業貿易
椎名営業所
寧楽屋家具装飾店
大林組
東洋リノリューム
村田商会
竹中工務店